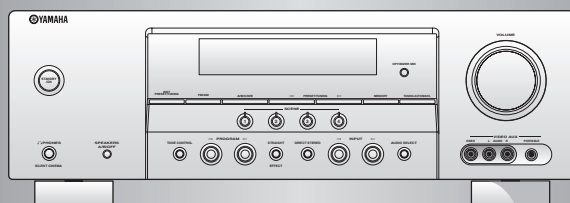
DSP AV アンプ

NATURAL SOUND AV AMPLIFIER

DSP-AX461

取扱説明書

ヤマハ DSP AV アンプ DSP-AX461 をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。
お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

もくじ

はじめに

接続する

再生前の基本設定

基本的な再生のしかた

いろいろな再生のしかた

便利な機能

オリジナルのリスニング環境をつくる

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）

リモコンを使いこなす

その他の情報

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

本機のACアウトレットに、指定された供給電力を超えた機器を接続しない。また、供給電力内であっても電熱器・ドライヤー・電子調理器等は接続しない。

火災の原因になります。

電池

禁止

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。
火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。
- 浴室・台所・海岸・水辺
- 加湿器を過度にきかせた部屋
- 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には:
- 布やテーブルクロスをかけない。
- じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
- 仰向けや横倒しには設置しない。
- 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)
本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。
火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。
そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。
ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。
火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。
差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。
感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

本機の特長

高音質ハイパワー５チャンネルアンプ搭載

◆ 定格出力(6Ω、1kHz、歪率0.9%)
フロント左／右チャンネル：　100W＋100W
センターチャンネル：　100W
サラウンド左／右チャンネル：100W＋100W

多彩な音響技術に対応

◆ ドルビープロロジックデコーダー
ドルビープロロジックⅡデコーダー
◆ ドルビーデジタルデコーダー
◆ DTSデコーダー
◆ AACデコーダー

高機能FM／AMチューナー

◆ 40局まで登録可能なプリセット選局
◆ オートプリセット選局
◆ プリセットされた放送局のエディット機能

高音質設計

◆ 192kHz､24ビットのD／Aコンバーターを採用

iPod対応のヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続機能

◆ iPod（クリックホイール、nano、mini）の再生が楽しめるヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備
◆ リモコン操作機能
◆ メニュー画面表示機能

１つのキーで簡単に再生できるSCENE（シーン）機能搭載

◆ 楽しみたいソースや再生モードの組み合わせ（SCENEテンプレート）を、あらかじめ登録されている１５種類の中から選べるSCENEテンプレート選択機能
◆ SCENEテンプレート作成機能

デジタルサウンドフィールドプロセッサー（DSP）搭載

◆ シネマDSP：ヤマハが誇るDSPと、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTS、AAC（アドバンストオーディオコーディング）の融合
◆ 圧縮オーディオフォーマットをよりダイナミックに再生できるコンプレストミュージック･エンハンサーモード
◆ ヘッドホン使用時でも音場効果を体感できる「サイレントシネマTM」
◆ 少ないスピーカーでもマルチチャンネル再生を仮想的に再現できるバーチャルシネマDSP機能
◆ 高音質再生を実現できるダイレクトステレオモード

AVアンプにふさわしい多機能構成

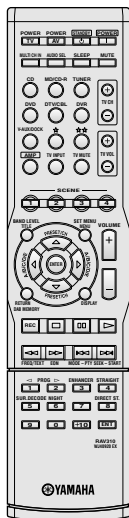
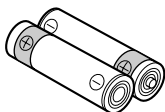
◆ 視聴空間最適化システム「YPAO」(Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer)搭載
◆ 操作内容を本機に接続したテレビに表示するOSD（On Screen Display）画面表示機能
◆ 音場効果を最大限に引き出すための設定ができるセットメニュー
◆ 外部機器や、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など)にセットしたiPodを操作できるリモコンコード設定機能付きリモコン
◆ 夜間の視聴に適したナイトリスニングモード（映画用／音楽用）
◆ 就寝時に便利なスリープタイマー
◆ DVDオーディオやスーパーオーディオCDにも対応できるアナログマルチチャンネル入力（MULTI CH IN）端子
◆ ポータブルオーディオプレーヤーなどが接続できるステレオミニ端子
◆ Sビデオ入出力端子
◆ D4ビデオ入出力端子
◆ 光デジタル（OPTICAL）入出力端子
◆ 同軸デジタル（COAXIAL）入力端子

本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- ご注意 では操作、設定を行う際に留意すべき事項、「ヒント」では知っておくと便利な補足情報を記載しています。
- 「☞○○ページ」は参照ページを表わしています。
- 本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

付属品を確認する

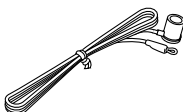
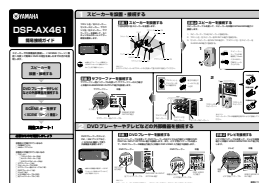
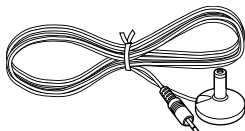
同梱されている付属品を確認してください。

リモコン

単４乾電池（２本）

AM ループアンテナ

FM 簡易アンテナ

簡易接続ガイド

オプティマイザーマイク

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルＤ記号 DD は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

DTSおよびDTS Digital SurroundはDTS社の商標です。

SILENT ™
CINEMA

「サイレントシネマ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

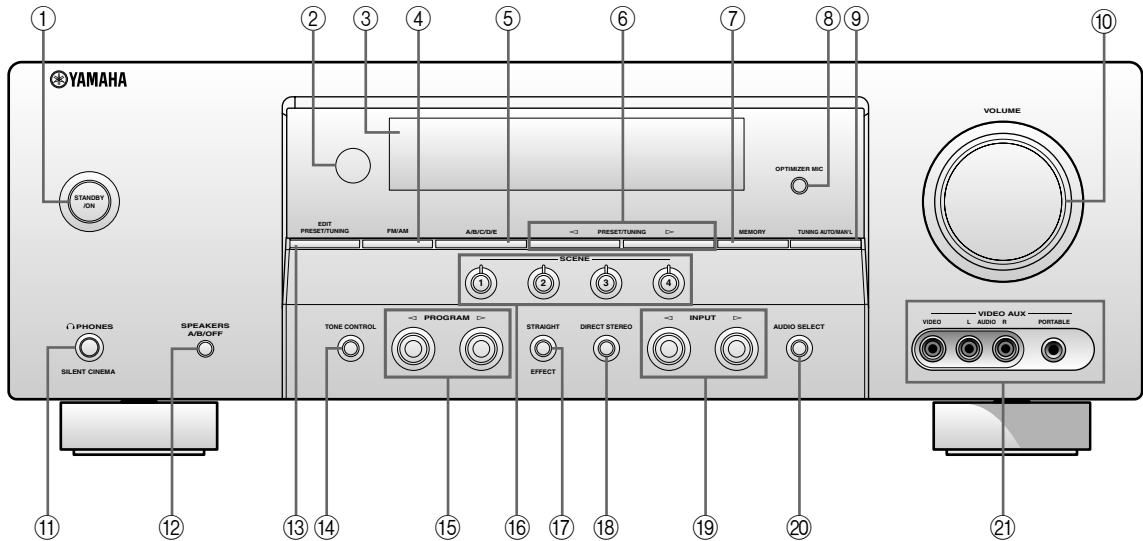
iPod

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

各部の名称とはたらき

フロントパネル（前面）

① STANDBY/ON スイッチ

本機の電源のオン／スタンバイ（待機状態）を切り替えます（☞32 ページ）。
電源を入れてから数秒間は音が出ません。

ご注意

スタンバイになっているあいだも、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量の電力を消費しています。

② リモコン受光窓

リモコンからの信号を受信します（☞15 ページ）。

③ ディスプレイ

プログラムの名称や、設定などを表示します（☞13 ページ）。

④ FM/AM キー

放送局の FM ／ AM を切り替えます（☞44 ページ）。

⑤ A/B/C/D/E キー

FM ／ AM 放送を聴くときに、プリセットグループ（A ／ B ／ C ／ D ／ E）を選びます（☞71 ～ 73 ページ）。

⑥ PRESET/TUNING ◁／▷ キー

聴く放送局を選びます。1 ～ 8 の登録（プリセット）した局から選ぶか、周波数で選局します（☞71 ～ 73 ページ）。

⑦ MEMORY キー

受信した放送局を登録（プリセット）します。3 秒以上押すと、オートプリセット機能がはたらきます（☞70、71 ページ）。

⑧ OPTIMIZER MIC 端子

付属のオプティマイザーマイクを接続して最適な視聴空間を自動的に設定します（☞34 ページ）。

⑨ TUNING AUTO/MAN'L キー

自動（オート）選局または手動（マニュアル）選局を選びます。自動選局する場合は、このキーを押して AUTO インジケーターを点灯させます。手動選局する場合は、AUTO インジケーターを消します（☞44 ページ）。

⑩ VOLUME コントロール

本機の音量（MUTE、－ 80.0dB ～＋ 16.0dB）を調節します（☞50 ページ）。
録音用の OUT（REC）端子の音量には影響しません。

⑪ PHONES（SILENT CINEMA）端子

ヘッドホンを接続します。ヘッドホンを接続すると、すべてのスピーカーやサブウーファーから音が出なくなります。ヘッドホン接続時は、サイレントシネマTMモードで音声を楽しめます（☞59 ページ）。

⑫ SPEAKERS A/B/OFF キー

FRONT A/B SPEAKERS 端子に接続されたフロント左／右スピーカーのうち、音声を出力するスピーカーを選びます（☞42 ページ）。

⑬ PRESET/TUNING（EDIT）キー

FM ／ AM 放送を聴くときに、あらかじめ登録（プリセット）した局から選ぶか、または周波数から選局するかを切り替えます。また、登録した局の入れ替えもこのキーで行います（☞44、70、73 ページ）。

⑭ TONE CONTROL キー

フロント左／右スピーカーから出力される音声の音色を調節するときに、調節する音域（BASS ／ TREBLE）を選びます（☞50 ページ）。

⑮ PROGRAM ◁／▷ キー

音場プログラムを選んだり、フロント左／右スピーカーから出力される音声の音色を調節したりします（☞43、46、50、57 ページ）。

⑯ SCENE（1 ～ 4）キー

SCENE（シーン）機能を使って再生を楽しむときに押します（☞ 簡易接続ガイド、75 ～ 80 ページ）。
本機の電源をオンにし、お好みの SCENE に合わせて 1 ～ 4 までのいずれかの SCENE キーを押せば、入力ソースの再生を簡単に楽しめます。

⑰ STRAIGHT ／ EFFECT キー

音場効果をかけない音声と、音場効果をかけた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2 チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞63 ページ）。

⑱ DIRECT STEREO キー

2 チャンネルソースを高音質でステレオ再生します（☞61 ページ）。

⑲ INPUT ◁／▷ キー

再生する入力ソースを選びます（☞42、44、50 ページ）。

⑳ AUDIO SELECT キー

1 つの再生機器をデジタル／アナログ両方の方法で音声接続している場合に、デジタル信号を優先的に入力するか、アナログ信号を入力するかを切り替えます（☞64 ページ）。

㉑ VIDEO AUX 端子

ゲーム機やビデオカメラ、ポータブルオーディオプレーヤーなどの外部機器を接続する予備入力端子です（☞30 ページ）。
この端子に入力された信号を再生するには、INPUT ◁/▷ キーやリモコンの入力選択キーで、「V-AUX」を選んでください。

ご注意

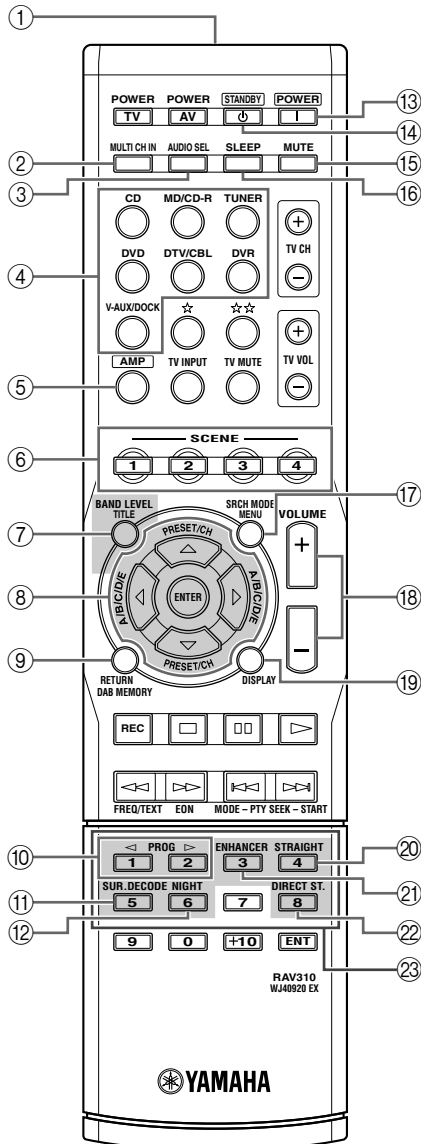
- PORTABLE（ポータブル）端子と AUDIO L/R 端子に同時に外部機器を接続している場合は、PORTABLE 端子からの入力信号が優先されます。
- iPod をセットしたヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）を DOCK 端子に接続しているときは、DOCK 端子からの入力信号が優先されます。

はじめに

リモコン

下図の灰色部分にあるキーは、アンプ機能を操作するときとチューナー機能を操作するときの両方に使用します。アンプ機能を操作するときは、最初にAMPキー（⑤）を押してから操作します。また、チューナー機能を操作するときは、最初に入力選択キー（④）のTUNERキーを押してから操作します。

ヒント

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンで他の機器も操作できます。他の機器の操作について詳しくは、「本機のリモコンでさまざまな機器を操作する」（☞99 ページ）をご覧ください。

■ アンプ機能の操作

① 赤外線送信部

リモコン操作用の赤外線信号を送信します（☞15 ページ）。リモコン操作をするときは、送信部を操作したい機器に向けてください。

② MULTI CH IN キー

本機背面のMULTI CH INPUT端子に接続されている機器を再生するときに押します（☞59 ページ）。

③ AUDIO SELキー

1つの再生機器をデジタル／アナログ両方の方法で音声接続している場合に、デジタル信号を優先的に入力するか、アナログ信号を入力するかを切り替えます（☞64 ページ）。

④ 入力選択キー

再生する入力ソースを選びます（☞42、44、50 ページ）。選んだ入力ソースに応じて、リモコンの機能も切り替わります。

⑤ AMPキー

アンプ機能を操作するときに押します。

⑥ SCENE（1～4）キー

SCENE（シーン）機能を使って再生を楽しむときに押します（☞ 簡易接続ガイド、75～80 ページ）。本機の電源をオンにし、お好みのSCENEに合わせて1～4までのいずれかのSCENEキーを押せば、入力ソースの再生を簡単に楽しめます。

⑦ LEVELキー

各スピーカー（フロント左／右、センター、サラウンド左／右、サブウーファー）の音量を調節します（☞65 ページ）。

⑧ カーソル（△／▽／◁／▷）キー、ENTER キー

カーソルキーで音場パラメーターやセットメニューを選び、ENTERキーで決定します（☞81、84 ページ）。

⑨ RETURNキー

セットメニューを設定しているときに、1つ前のメニュー表示に戻ります（☞84 ページ）。

⑩ PROG ◁／▷キー

音場プログラムを選びます（☞43、46、57 ページ）。

⑪ SUR.DECODEキー

2チャンネルソースをドルビープロロジックなどのデコーダーによってマルチチャンネル化して再生します。(☞58 ページ)。

⑫ NIGHTキー

夜間などに小音量で音声を楽しめるナイトリスニングモードを設定します（☞62 ページ)。

⑬ POWERキー

本機の電源をオンにします（☞32 ページ)。

⑭ STANDBYキー

本機の電源をスタンバイ（待機状態）にします(☞32 ページ)。

⑮ MUTEキー

一時的に音量を下げます（☞50 ページ)。

⑯ SLEEPキー

スリープタイマーを設定します（☞66 ページ)。

⑰ MENUキー

セットメニューの設定に入ります（☞84 ページ)。

⑱ VOLUME ＋／－キー

本機の音量（MUTE、－80.0dB～＋16.0dB）を調節します（☞50 ページ)。
録音用のOUT（REC）端子の音量には影響しません。

⑲ DISPLAYキー

テレビ画面に現在の操作状態や音場パラメーターなどを表示します（☞33、81 ページ)。

⑳ STRAIGHTキー

音場効果をかけない音声と、音場効果をかけた音声とを切り替えます。「STRAIGHT」を選ぶと、入力された信号（2チャンネルまたはマルチチャンネル）を対応するデコーダーで忠実にデコードし、音場効果をかけずに再生します（☞63 ページ)。

㉑ ENHANCERキー

ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します（☞53 ページ)。

㉒ DIRECT ST. キー

2チャンネルソースを高音質でステレオ再生します(☞61 ページ)。

■ チューナー機能の操作

⑦ BANDキー

FM／AM放送で最後に受信した局に切り替えます。

⑧ カーソル（△／▽／◁／▷）キー

A/B/C/D/E ◁／▷ キー

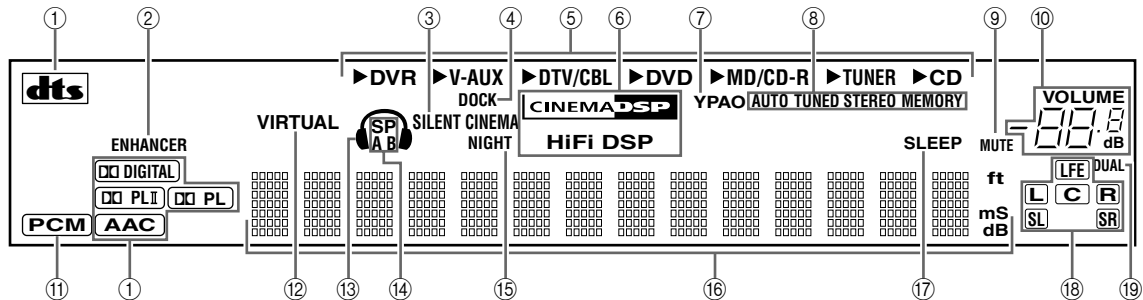
プリセットグループ（A／B／C／D／E）を選びます（☞72 ページ)。

PRESET/ CH △／▽キー

1～8の登録(プリセット)局番号を選びます(☞72 ページ)。

㉓ プリセット番号キー（1～8）

1～8の登録(プリセット)局番号を選びます(☞72 ページ)。

ディスプレイ

① **デコーダーインジケーター**

DTSインジケーター

DTSデコーダーが作動しているときに点灯します。

ドルビーインジケーター（DD）

ドルビーデコーダーが作動しているときに、デコーダーに応じて点灯します。

AACインジケーター

AACデコーダーが作動しているときに点灯します。

② **ENHANCERインジケーター**

コンプレストミュージック・エンハンサーモードで再生しているときに点灯します（☞53ページ）。

③ **SILENT CINEMAインジケーター**

ヘッドホンを接続して「サイレントシネマTM」で再生しているときに点灯します（☞59ページ）。

④ **DOCKインジケーター**

ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodからの信号を本機が認識していて、V-AUXを入力選択しているときに点灯します（☞47ページ）。

⑤ **入力ソースインジケーター**

現在選んでいる入力ソース名の左側に、赤色の「▶ 」が点灯します（☞42ページ）。

⑥ **DSPインジケーター**

CINEMA DSPインジケーター

シネマDSP音場プログラムを選んで再生しているときに点灯します（☞53ページ）。

HiFi DSPインジケーター

HiFi DSP音場プログラムを選んで再生しているときに点灯します（☞53ページ）。

⑦ **YPAOインジケーター**

AUTO SETUPの実行中、およびAUTO SETUPでの設定が有効になっているときに点灯します（☞34ページ）。

⑧ **チューナーインジケーター**

FM／AM放送を聴くときや、放送局をプリセットするときに点灯します（☞44、70ページ）。

⑨ **MUTEインジケーター**

MUTEキーを押して、一時的に音量を下げているあいだに点滅します（☞50ページ）。

⑩ **VOLUMEインジケーター**

現在の音量を表示します（☞50ページ）。

⑪ **PCMインジケーター**

PCM信号を再生しているときに点灯します。

⑫ **VIRTUALインジケーター**

バーチャルシネマDSPモードで再生しているときに点灯します（☞60ページ）。

⑬ ヘッドホンインジケーター

フロントパネルのPHONES（SILENT CINEMA）端子にヘッドホンを接続しているときに点灯します（☞59 ページ）。

⑭ SP（スピーカー） A／Bインジケーター

選んでいるフロントスピーカー（スピーカー A または B）を表示します（☞42、44 ページ）。

⑮ NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードで再生しているときに点灯します（☞62 ページ）。

⑯ マルチインフォメーションディスプレイ

音場プログラムの名前など、さまざまな情報を表示します。

⑰ SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマーが作動しているときに点灯します（☞66 ページ）。

⑱ LFE ／入力信号チャンネルインジケーター

LFEインジケーター

入力されているデジタル信号に、LFE（低域効果音）チャンネルが含まれているときに点灯します。

入力信号チャンネルインジケーター

入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルに合わせて点灯します。

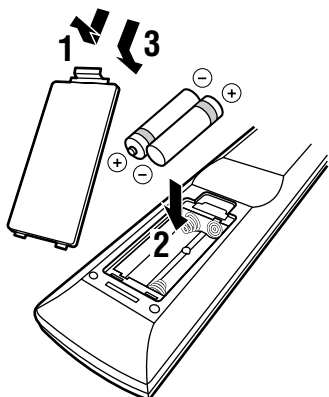
ヒント

LFE ／入力信号チャンネルインジケーターは、音声が出力されているスピーカーではなく、入力されているデジタル信号に含まれているチャンネルを表わしています。

⑲ DUAL（デュアル）インジケーター

ドルビーデジタル、DTS および AAC の DUAL MONO または MULTI MONO など、音声多重モノラルのデジタル信号が入力されているときに点灯します（☞90 ページ）。

リモコンを準備する

■ リモコンに乾電池を入れる

1 リモコンの電池カバーのタブを押しながら、カバーをリモコンから取りはずす。

2 付属の単４乾電池（２本）を、リモコンの電池ケースに入れる。

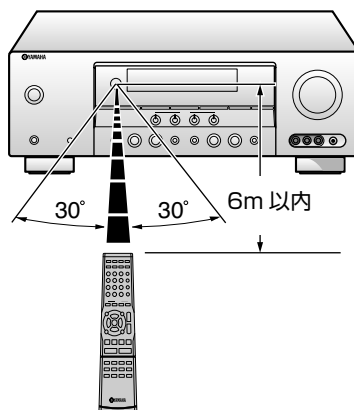
電池のプラス（＋）、マイナス（－）極性の向きを正しく入れてください。

3 電池カバーをリモコンに装着する。

ご注意

- リモコンで操作しにくくなった場合は、乾電池が消耗しています。このような場合は、すべての乾電池を新しいものに交換してください。
- 新しい乾電池と、古い乾電池を混ぜて使用しないでください。新しい乾電池の寿命を縮めたり、古い乾電池から液が漏れることがあります。
- 種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。乾電池には、形状が同じでも性能が異なるものがありますのでご注意ください。
- 使い切った乾電池は、すぐに電池ケースから取り出してください。乾電池が破裂したり、乾電池から液が漏れることがあります。
- 使い切った乾電池は、自治体の条例または取り決めにしたがって破棄してください。
- 乾電池が液漏れした場合は、液に触れないよう注意して破棄してください。液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 乾電池を外したまましばらく（２分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておくと、リモコンに設定したリモコンコードが消えてしまうことがあります。このような場合は、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定しなおしてください。

■ リモコンを使う

リモコンは直進性の強い赤外線を使っています。本体の受光部に向けて正しく操作してください。

ヒント

リモコンでうまく操作できないときは、以下のことを確認してください。

– 本体のリモコン受光窓が、布などで覆われていませんか？
⇒布などを取り除いてください。
– 本体のリモコン受光窓に、直射日光や強い照明（インバーター蛍光灯など）が当たっていませんか？
⇒照明の向きを変えるか、本体を置く場所を変えてください。
– 乾電池が消耗していませんか？
⇒すべての乾電池を新しいものに変えてください。

■ リモコンの取り扱いについてのご注意

- 水やお茶などの液体をこぼさないでください。
- リモコンを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 下記のような場所には置かないでください。
  – 風呂場の近くなど、湿度が高いところ
  – 暖房器具やストーブの近くなど、温度が高いところ
  – 極端に寒いところ
  – ほこりの多いところ

スピーカーを接続する

スピーカーを設置する

本機はフロント左／右スピーカー（2本）、センタースピーカー（1本）、サラウンド左／右スピーカー（2本）の5スピーカーシステムを使って最良の音場効果が得られるように設計されています。
また、サブウーファーを使うと、より豊かな音場効果を再現できます。

■ スピーカーを選ぶポイント

各スピーカーの再生音色が異なると、移動する人物の声など（音色）が不自然に変化することがあります。できるだけ、メーカーや音色の揃ったスピーカーを使うことをおすすめします。

■ 各スピーカーの設置

フロント左／右スピーカー（FL／FR）
左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーンの下辺から1／4位の高さが適当です。

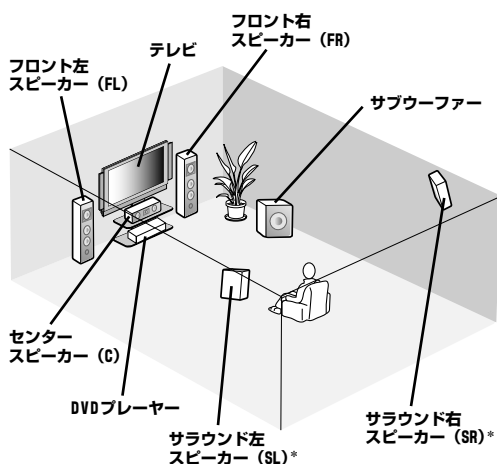
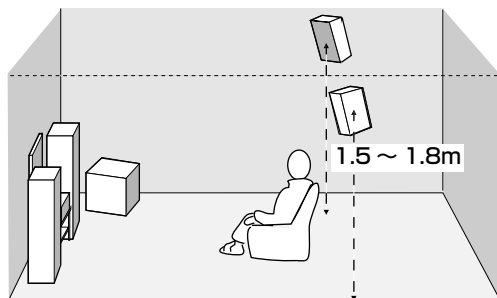
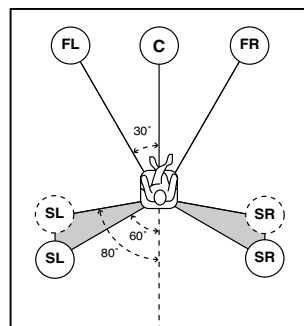
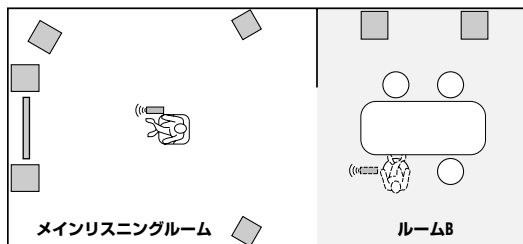
センタースピーカー（C）
フロント左／右スピーカーの中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。スクリーンをお使いの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

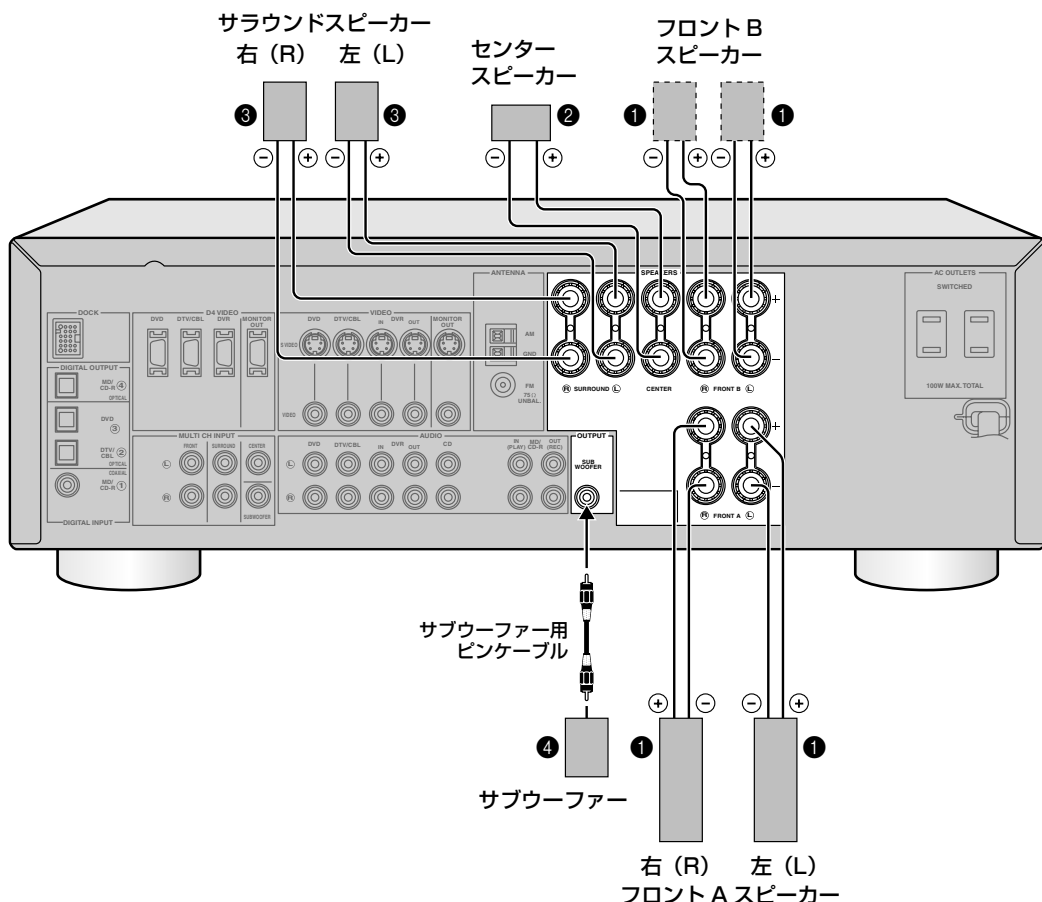
サラウンド左／右スピーカー（SL／SR）
左右後方に、スピーカーをリスニングポジションに向けて設置します。床から1.5～1.8mの高さが適当です。

サブウーファー
前方左右どちらかの外側で、壁の反射を防ぐために少し内向きに設置します。

■ フロントBスピーカーについて

FRONT B端子にもう1組のフロント左／右スピーカー（フロントBスピーカー）を接続すれば、本機の楽しみかたがさらに広がります。
フロントBスピーカーをフロントAスピーカーと同じ部屋に設置すれば、入力ソースに応じてフロントスピーカーを使い分けることによってお好みの音質で音声を楽しめます。
また、メインリスニングルームに隣接した別の部屋(ルームB)に設置すれば、リビングでDVDを楽しんだあとに、ダイニングに移動してCDを聴くといった使いかたが楽しめます。
フロントBスピーカーを使う場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT B」で、設置位置に応じて設定を変更してください（☞85ページ）。

スピーカー配置図

＊リスニングポジションの上方に設置

フロントBスピーカーをルームBに設置する場合

スピーカーを接続する

下図のようにスピーカーを接続します。本機のスピーカー端子へのスピーカーケーブルの接続方法については、次ページをご覧ください。
各スピーカーの配置については、16 ページをご覧ください。

FRONT 端子

フロント左／右スピーカー（❶）用の出力端子です。

ヒント

フロント左／右スピーカーを２組設置したい場合や、もう１組のフロント左／右スピーカーを別の部屋（ルーム B）に設置したい場合は、FRONT B 端子にも接続できます。

CENTER 端子

センタースピーカー（❷）用の出力端子です。

SURROUND 端子

サラウンド左／右スピーカー（❸）用の出力端子です。

SUBWOOFER 端子

ヤマハ・アクティブサーボ・サブウーファーシステムなどの、アンプ内蔵サブウーファー（❹）をお使いになる場合に使用します。

ご注意

- スピーカーは、インピーダンスが 6Ω 以上のものをお使いください。
- プラズマテレビ、またはブラウン管式テレビをお使いの場合、スピーカーは防磁型スピーカーをお使いください。防磁型以外のスピーカーをお使いになりますと、テレビの画像が乱れることがあります。特に、画面近くに設置するセンタースピーカーやサブウーファーには、防磁型スピーカーをお使いください。防磁型スピーカーをお使いの場合でも画像が乱れる場合は、テレビとスピーカーを離して設置してください。
- FRONT A 端子および FRONT B 端子に接続した 2 組のフロント左／右スピーカーから同時に音声を出力することはできません。

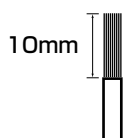
■ スピーカーケーブルを接続する

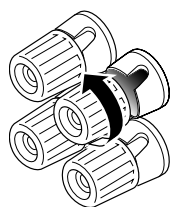
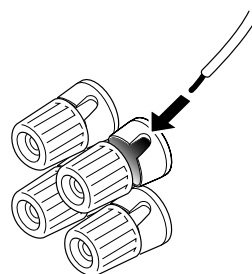
右チャンネル（R)、左チャンネル（L)、「＋」（プラス、赤)、「－」（マイナス、黒）を確認して正しく接続してください。間違えて接続すると音が不自然になったり、低音が出なくなったりします。また、接続が不十分だと音がまったく出なくなります。

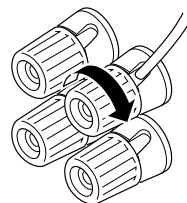
ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源コードが AC コンセントに接続されていないことをご確認ください。
- スピーカーコードの芯線はしっかりよじり、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、＋（プラス）側と－（マイナス）側が接触すると、保護回路が作動して電源がスタンバイになることがあります。

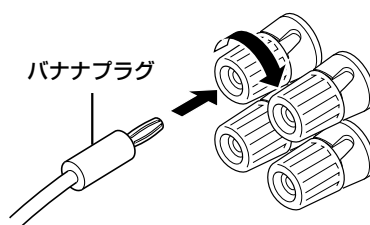
一般的にスピーカーケーブルは、平行した２本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの１本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。
異なった色の（またはラインの入っている、などの）ケーブルを本機とスピーカーの「＋」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「－」（マイナス、黒）へ接続してください。

1 スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を、10mm ぐらいはがす。

2 芯線をしっかりとよじる。

3 スピーカー端子を左に回してゆるめる。

4 スピーカー端子のわきの穴に、スピーカーケーブルの芯線を差し込む。

赤：＋（プラス）
黒：－（マイナス）

5 スピーカー端子を右に回して、締め付ける。

ヒント
スピーカーケーブルは絶縁部を挟まないように接続してください。

市販のバナナプラグを使う場合

市販のバナナプラグを使う場合は、端子を強く締めてから差し込んでください。

外部機器と接続する

接続の前に

ご注意

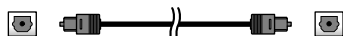
接続する前に、本機および接続する機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

■ 接続に使うケーブルの種類

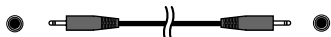
お使いの機器に合わせて、ケーブルをご用意ください。

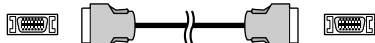
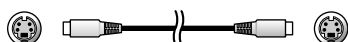
音声

1 同軸ケーブル
同軸デジタル端子(COAXIAL)
(オレンジ)

2 光ファイバーケーブル
光デジタル端子(OPTICAL)

3 ステレオピンケーブル
アナログ端子(ANALOG)
(白)
(赤)

4 モノラルピンケーブル
(黒)

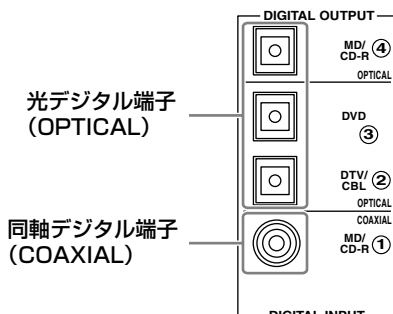
5 3.5mm ステレオミニプラグケーブル
ステレオミニ端子(PORTABLE)

映像

1 D 端子ケーブル
D 端子(D4 VIDEO)

2 S ビデオピンケーブル
S ビデオ端子(S VIDEO)

3 ビデオ用ピンケーブル
ビデオ端子(VIDEO)
(黄)

■ アナログ音声端子について

オーディオ機器を本機のアナログ端子に接続すれば、アナログ音声をお楽しみいただけます。
接続には、ステレオピンケーブル、モノラルピンケーブル、または3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使用します。ステレオピンケーブルを使用する場合は、赤いプラグを「R」端子へ、白いプラグを「L」端子へ接続してください。
3.5mm ステレオミニプラグケーブルを使用する場合は、フロントパネルのPORTABLE 端子へ接続してください。

■ デジタル音声端子について

本機はデジタル信号を直接伝送できる同軸デジタル(COAXIAL)端子と光デジタル(OPTICAL)端子を装備しています。
接続には同軸ケーブルまたは光ファイバーケーブルを使用します。

- デジタル端子は PCM、ドルビーデジタル、DTS、AAC 兼用です。
- 本機のデジタル入力端子は、以下のサンプリング周波数に対応しています。
  32kHz: BS アナログ放送(A モード)
  44.1kHz: CD、MD
  48kHz: DVD Video(48kHz モード)、BS アナログ放送(B モード)、BS /地上波デジタル放送
  88.2kHz: DVD Audio(88.2kHz モード)
  96kHz: DVD Video(96kHz モード)

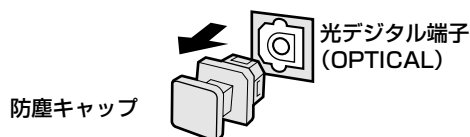
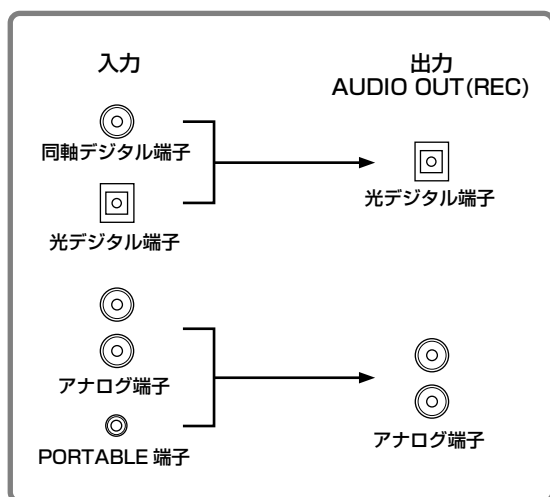
ヒント

セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で、端子の割り当てを変更できます(☞91 ページ)。

ご注意

- 本機のデジタル信号回路とアナログ信号回路は独立しています。アナログ端子から入力されたアナログ信号はアナログ出力端子 (AUDIO OUT (REC)) へのみ出力されます。また、デジタル入力端子(DIGITAL INPUT)から入力されたデジタル信号は、デジタル出力端子(DIGITAL OUTPUT)からのみ出力されます。
- 本機の光デジタル端子は、JEITA(旧 EIAJ)規格に基づいて設計されています。JEITA 規格を満たさない光ファイバーケーブルを使うと、正常に動作しないことがあります。

防塵キャップについて

光ファイバーケーブルを接続する場合は、光デジタル端子についているキャップを抜いてから接続してください。抜いたキャップは大切に保管し、端子を使わないときには、ほこりの侵入を防ぐため、必ずキャップを差し込んでください。

音声出力端子への音声信号の流れ

■ 映像端子について

本機は３種類の映像端子を装備しています。
最良の画質でお楽しみいただくために、なるべく画質の良い端子を使って接続してください。

❶ D4ビデオ端子

コンポーネントビデオ信号とコントロール信号(走査線、アスペクト比などの情報)を伝送します。
D端子がある機器をD4ビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❸）やSビデオ端子（❷）よりもさらに高画質な映像を再生できます。

❷ Sビデオ端子

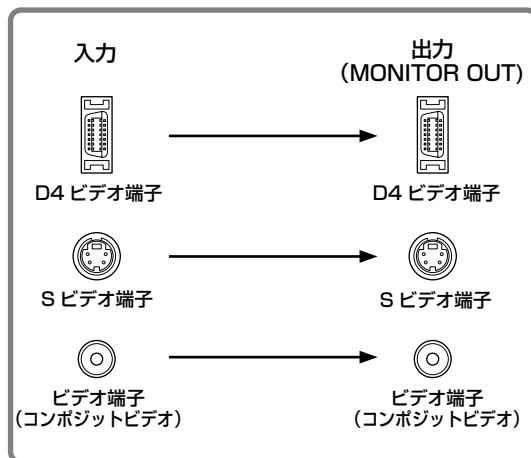
Sビデオ信号（色信号：C、輝度信号：Y）を伝送します。
Sビデオ入出力端子がある機器をSビデオ端子に接続すれば、ビデオ端子（❸）よりも高画質な映像を再生できます。

❸ ビデオ端子

コンポジットビデオ信号を伝送します。

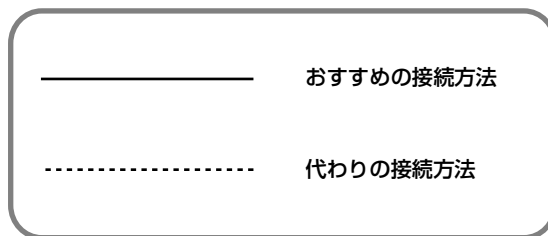
ご注意

- 本機のＳビデオ端子は、S1 ／ S2 規格には対応していません。
- 本機の D4 ビデオ端子は、D5 規格には対応していません。

本機内部の映像信号の流れ

外部機器と接続する

DVDプレーヤーやCDプレーヤーなど、お手持ちの外部機器を本機に接続できます。
左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、入力（IN）、出力（OUT）をご確認のうえ、正しく接続してください。また、接続機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

■ 各機器との接続図について

各機器との接続図（☞22 ページ～）では、工場出荷時に割り当てられている端子に合わせて本機に外部機器を接続しています（LDプレーヤーを除く）。各機器を図のように接続すれば、入力選択したい機器を呼び出す場合にリモコンの入力選択キーに書かれている機器名や、フロントパネルディスプレイ／OSD画面（☞33 ページ）表示と、実際に呼び出す機器を一致させられます。たとえば、「DVD」と書かれた端子にDVDプレーヤーを接続すれば、リモコンのDVDキーを押す、または本体のINPUT⊲／⊳キーを繰り返し押して「DVD」を選べば、DVDプレーヤーを入力選択できます。
機器によっては、本機に音声用と映像用のそれぞれに複数の種類の端子をその機器の接続用として装備している場合があります。その場合は、接続する機器が装備している端子に合わせて、音声で 1 つ、映像で 1 つを接続してください。すべての端子を使って接続する必要はありません。接続図では、下図のように、おすすめの接続方法を実線、代わりの接続方法を破線で表わしています。

■ 録音機器との接続について

本機では、デジタル／アナログ端子から入力した音声信号を録音できます。再生機器と本機、および本機と録音機器の音声接続は、必ず同じ方法で行ってください。たとえば、再生機器と本機をアナログ接続した場合、本機と録音機器もアナログ接続してください。デジタル接続する場合は、再生機器と本機を同軸デジタル接続しても、光デジタル接続した録音機器で録音できます。

■ 録画機器との接続について

本機では、Sビデオまたはビデオ端子から入力した映像信号を録画できます。テレビと本機、および本機と再生／録画機器の映像接続は、必ず同じ方法で行ってください。たとえば、テレビと本機をSビデオ接続した場合、本機と再生／録画機器もSビデオ接続してください。

ご注意

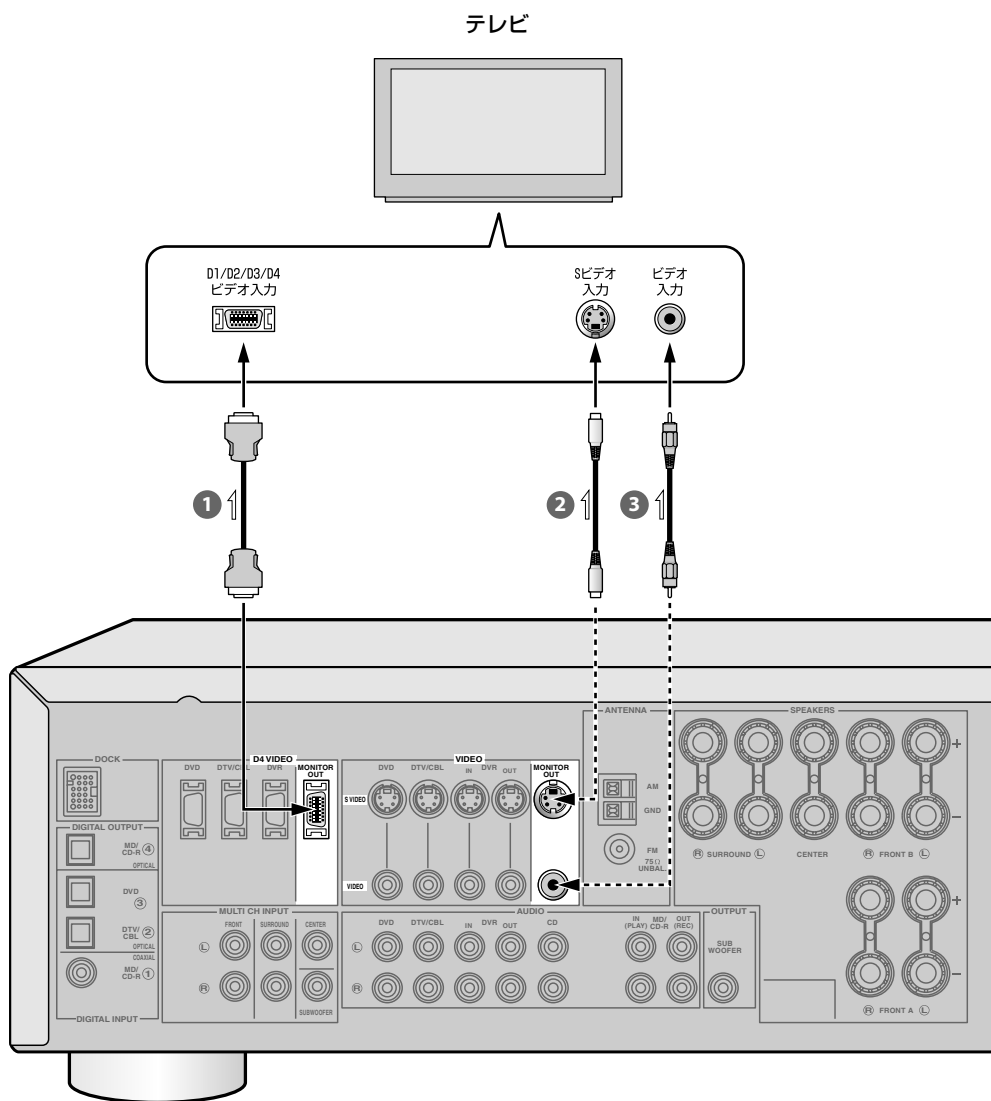
- 本機の入力／出力端子は電源を入れた状態で正常に機能します。必ず電源を入れた状態でお使いください。
- MD ／ CD レコーダー、DVD プレーヤー、衛星放送／ケーブルテレビチューナー以外の機器をデジタル接続する場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」の設定を接続する機器に合わせて変更したあとに、割り当てを変更した端子に該当機器を接続してください（☞91 ページ）。

■ テレビを接続する

テレビの映像入力端子を本機のMONITOR OUT端子に接続します。テレビやその他の映像機器が装備している映像端子に合わせて、1つの種類を選んで接続してください。

ヒント

- テレビとその他の映像機器の両方に装備されている、同じ種類の映像端子を使って接続してください。たとえば、テレビにSビデオ入力端子があり、DVDプレーヤーにSビデオ出力端子がある場合、両方の機器を本機とSビデオ接続してください。
- テレビの音声を本機に接続したスピーカーで聴く場合は、テレビの音声出力端子を本機の空いている音声入力端子に接続してください。

映像

1. D端子ケーブル
2. Sビデオケーブル
3. ビデオ用ピンケーブル

■ DVD プレーヤーを接続する

音声ケーブルの接続

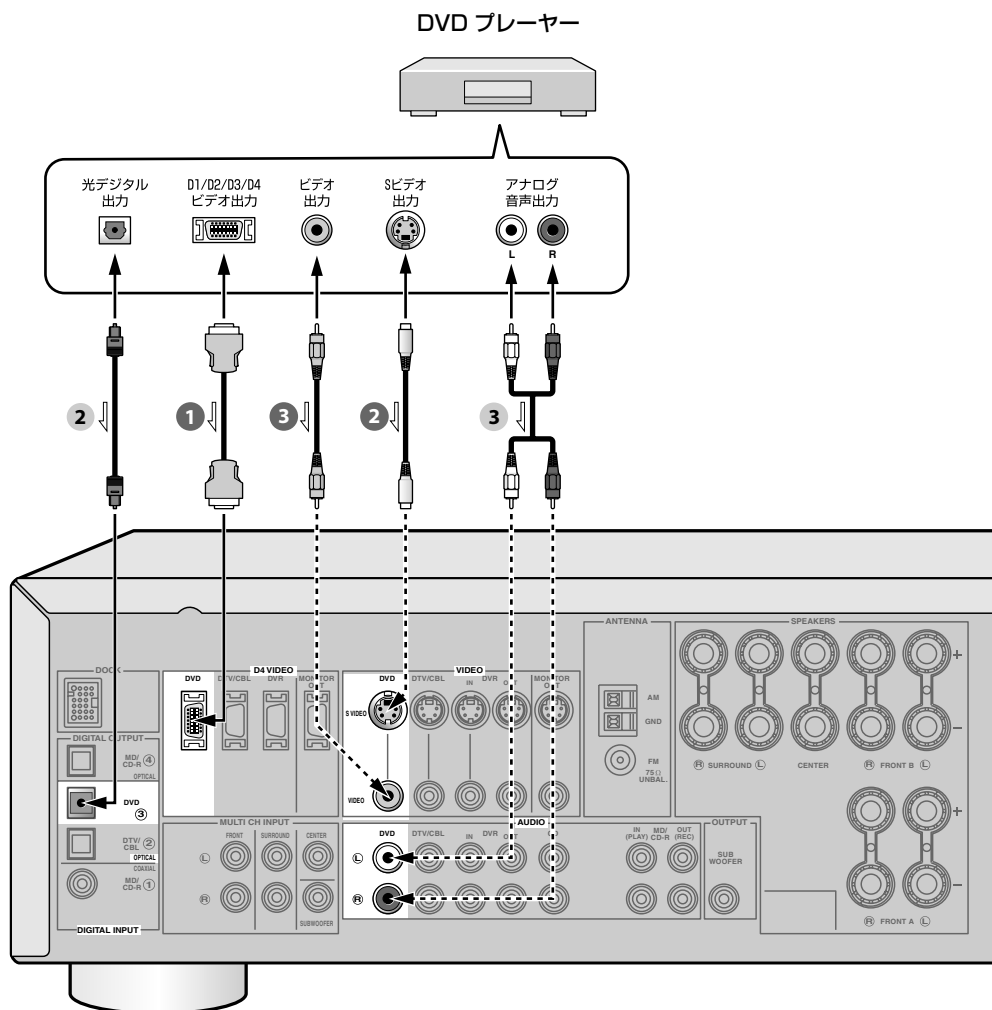
DVD プレーヤーの光デジタル出力端子を、本機の DVD DIGITAL INPUT OPTICAL 端子に接続します。または DVD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機の DVD AUDIO 端子に接続します。

映像ケーブルの接続

DVD プレーヤーの D1 ～ D4 ／ S ビデオ／ビデオ出力端子のいずれか 1 つを、本機の同じ種類の映像入力 (DVD) 端子に接続します。

音声

2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

映像

1 D端子ケーブル
2 Sビデオケーブル
3 ビデオ用ピンケーブル

■ 衛星放送／ケーブルテレビチューナーを接続する

音声ケーブルの接続

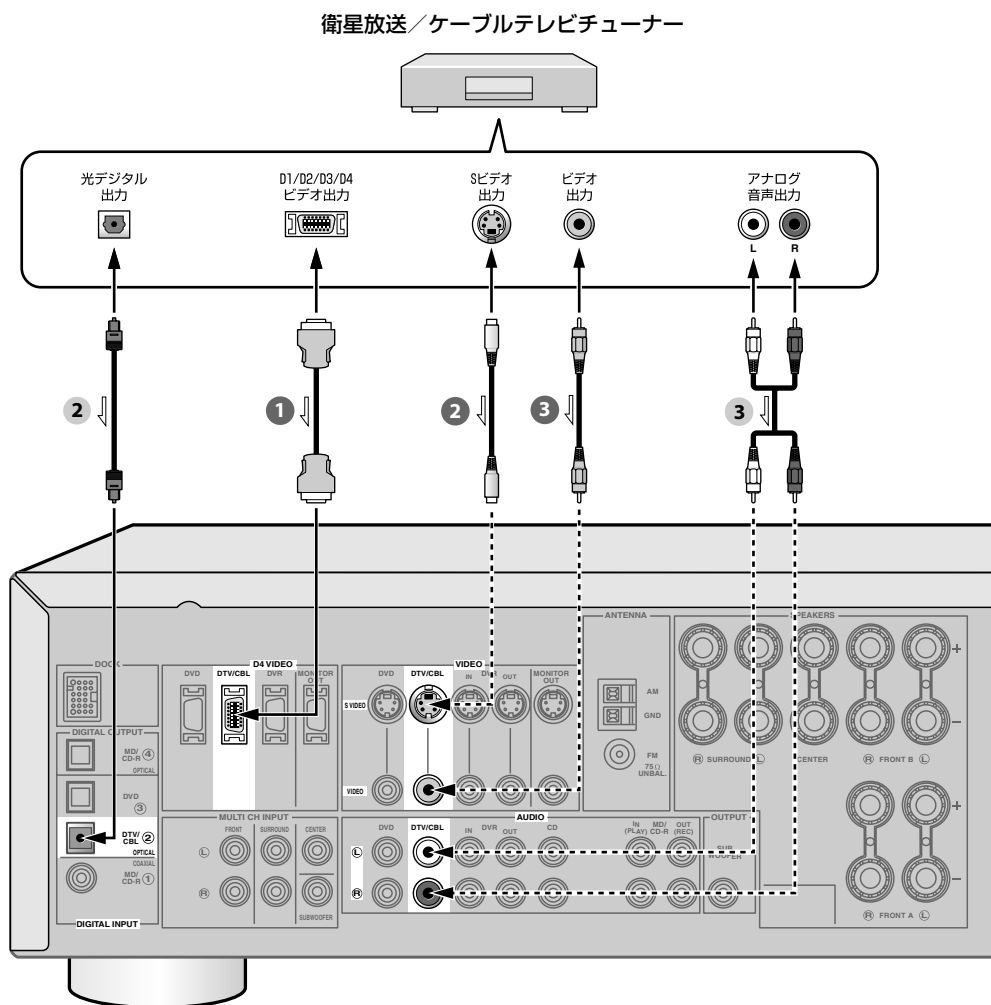
衛星放送／ケーブルテレビチューナーの光デジタル出力端子を、本機のDTV/CBL DIGITAL INPUT OPTICAL端子に接続します。または衛星放送／ケーブルテレビチューナーのアナログ音声出力端子を本機のDTV/CBL AUDIO端子に接続します。

映像ケーブルの接続

衛星放送／ケーブルテレビチューナーのD1～D4／Sビデオ／ビデオ出力端子のいずれか1つを、本機の同じ種類の映像入力(DTV/CBL)端子に接続します。

音声

2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

映像

1 D端子ケーブル
2 Sビデオケーブル
3 ビデオ用ピンケーブル

■ DVD レコーダー／ビデオデッキを接続する

音声ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキのアナログ音声出力端子を、本機の DVR AUDIO IN 端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキのアナログ音声入力端子を、本機の DVR AUDIO OUT 端子に接続します。

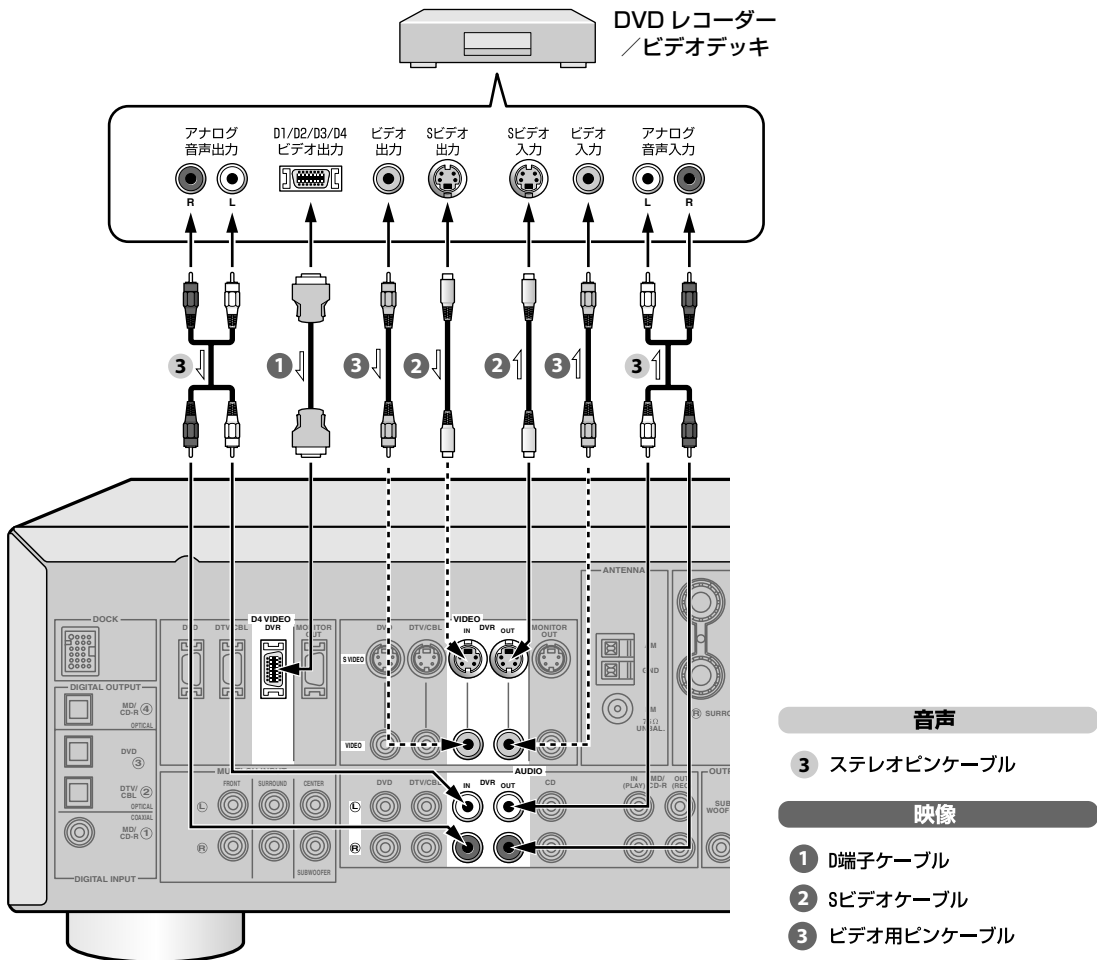
映像ケーブルの接続

再生する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキの D1 ～ D4 ／ S ビデオ／ビデオ出力端子を、本機の同じ種類の映像入力（DVR）端子に接続します。録画する場合は、DVD レコーダー／ビデオデッキの S ビデオ／ビデオ入力端子を、本機の S ビデオ／ビデオ出力（DVR）端子に接続します。

ヒント

DVD レコーダーにデジタル音声出力端子がある場合は、本機の MD/CD-R DIGITAL INPUT COAXIAL 端子、または空いている光デジタル入力端子に接続します。また、光デジタル入力端子がある場合は、本機の MD/CD-R DIGITAL OUTPUT OPTICAL 端子に接続します。デジタル接続した場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞91 ページ）。

ご注意

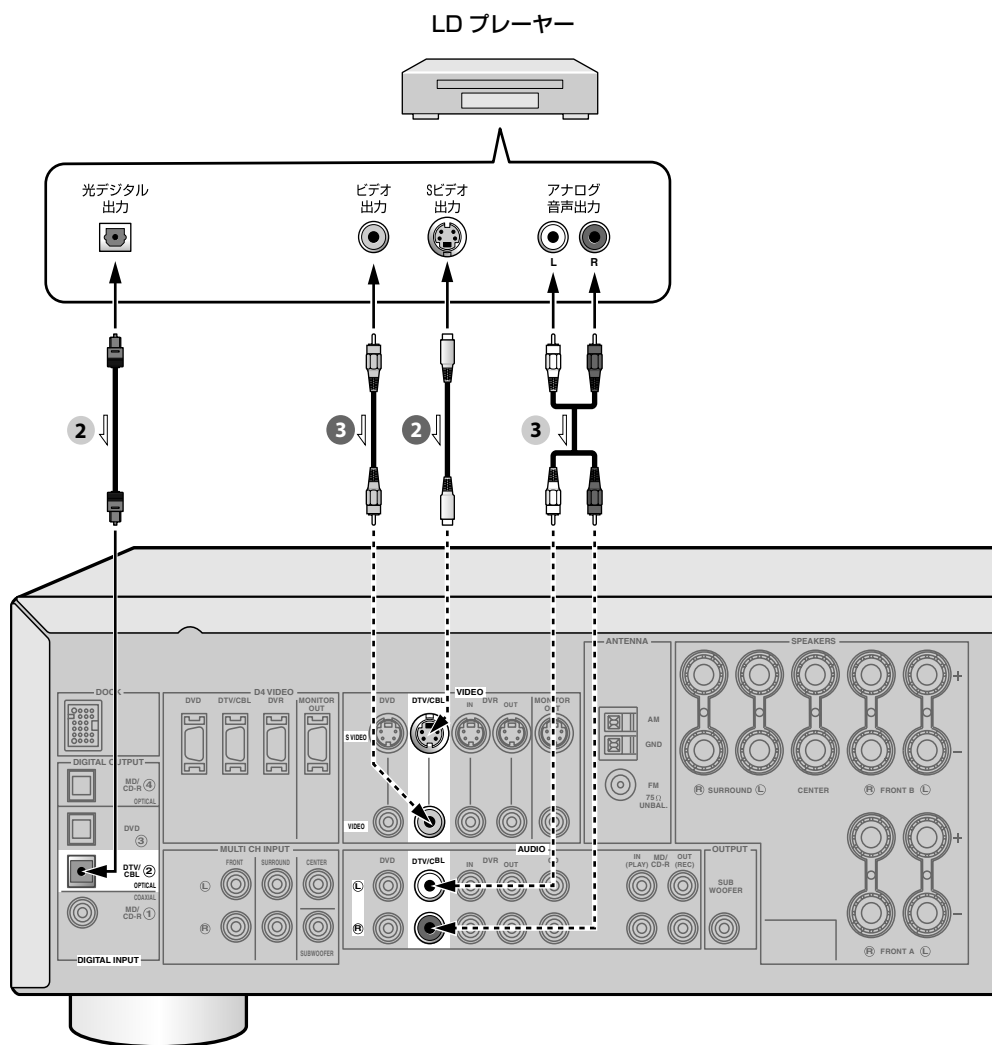
録画する場合は、再生機器と同じ種類の接続方法で映像端子を接続してください。（例：S VIDEO 端子と S VIDEO 端子など）

■ LD プレーヤーを接続する

LD プレーヤーの接続例です。下図では、DTV/CBL 端子へ接続しています。下図のように接続した場合、LD プレーヤーの音声を楽しむには「DTV/CBL」を入力選択してください。

音声ケーブルの接続

- LD プレーヤーの光デジタル出力端子を、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。LD プレーヤーにアナログ音声出力端子がある場合は、本機の空いているアナログ音声入力端子に接続します。
- LD プレーヤーにドルビーデジタル RF 出力端子がある場合は、市販の RF デモジュレーターに接続してから、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。

映像ケーブルの接続

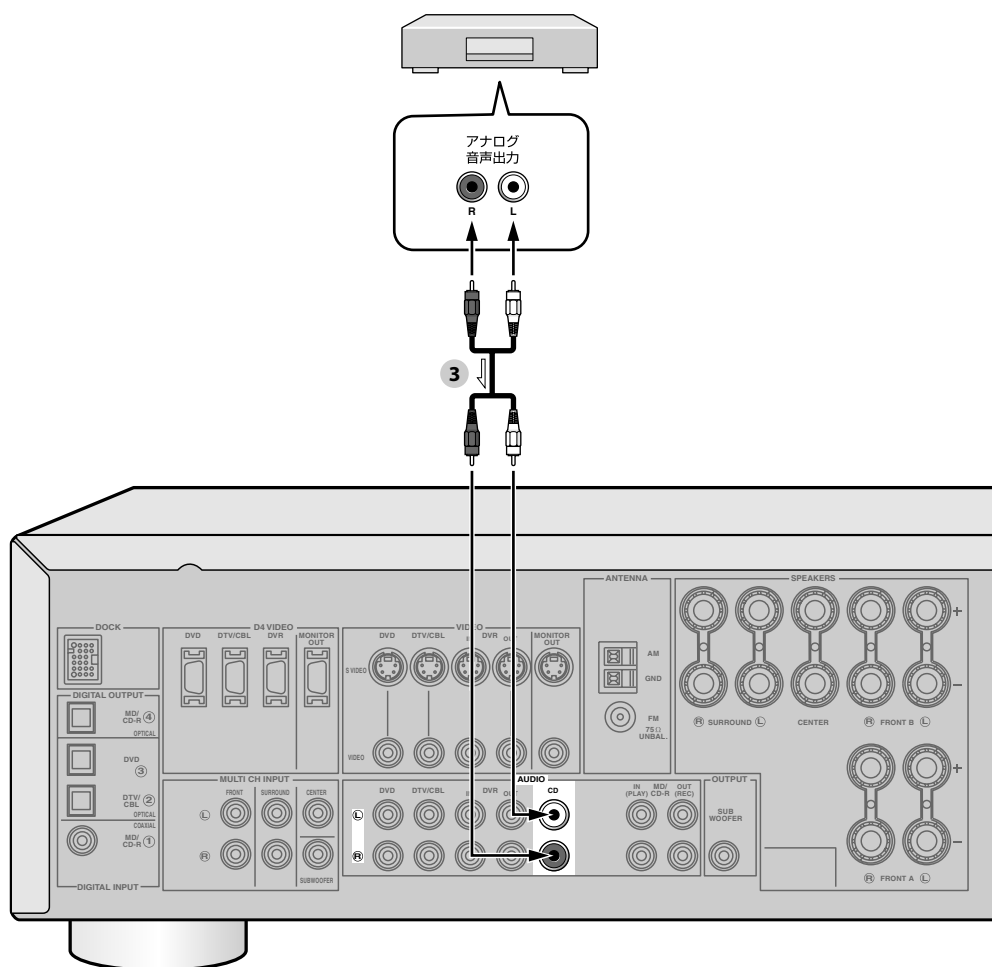
LD プレーヤーのＳビデオまたはビデオ出力端子のいずれかを、本機の空いている同じ種類の映像入力端子に接続します。

音声	映像
2 光ファイバーケーブル	2 Sビデオケーブル
3 ステレオピンケーブル	3 ビデオ用ピンケーブル

■ CD プレーヤーを接続する

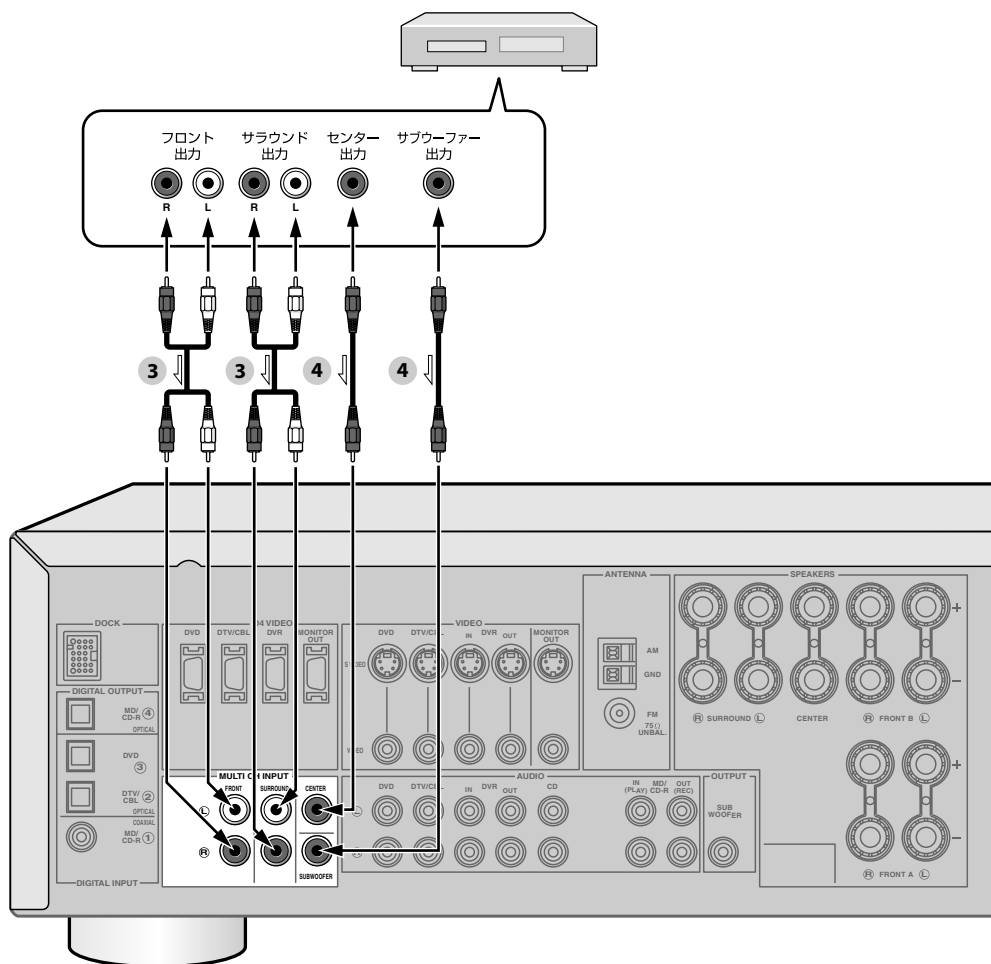
CD プレーヤーのアナログ音声出力端子を本機の CD AUDIO 端子に接続します。

ヒント

CD プレーヤーにデジタル音声出力端子がある場合は、本機の MD/CD-R DIGITAL INPUT COAXIAL 端子、または空いている光デジタル入力端子に接続します。デジタル接続した場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします（☞91 ページ）。

音声

3 ステレオピンケーブル

■ マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機には、マルチチャンネル入力端子（FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER）が装備されています。
DVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなど、マルチチャンネル音声出力端子がある機器と本機を接続すると、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。

音声

3 ステレオピンケーブル
4 モノラルピンケーブル

ヒント
ヘッドホン使用時には、フロント左／右チャンネルの音声のみヘッドホンから出力されます。

ご注意

- MULTI CH INPUT端子から入力した信号には、本機の音場効果はかかりません。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声信号は出力されません。

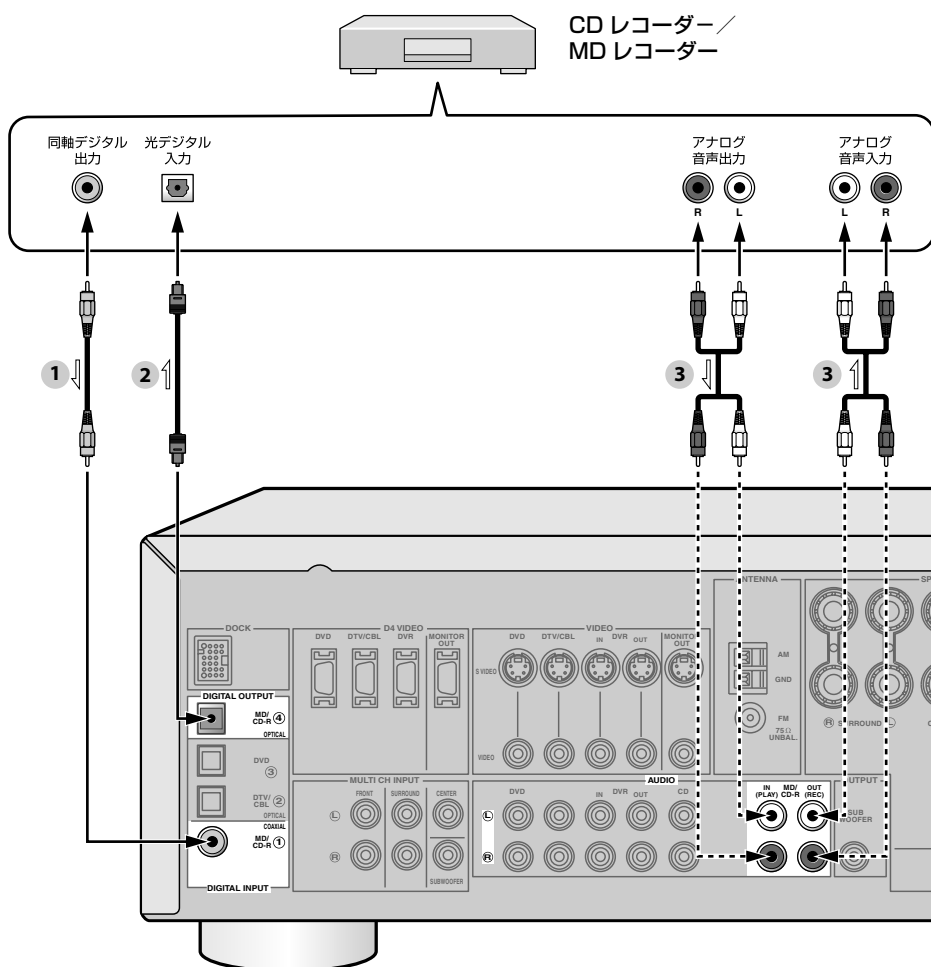
■ MD レコーダー／ CD レコーダーを接続する

再生する場合は、MD レコーダー／ CD レコーダーの同軸デジタルまたはアナログ音声出力端子を、本機の MD/CD-R DIGITAL INPUT COAXIAL 端子または MD/CD-R AUDIO IN (PLAY) 端子に接続します。録音する場合は、MD レコーダー／ CD レコーダーの光デジタルまたはアナログ音声入力端子を、本機の MD/CD-R DIGITAL OUTPUT OPTICAL 端子または MD/CD-R AUDIO OUT（REC) 端子に接続します。

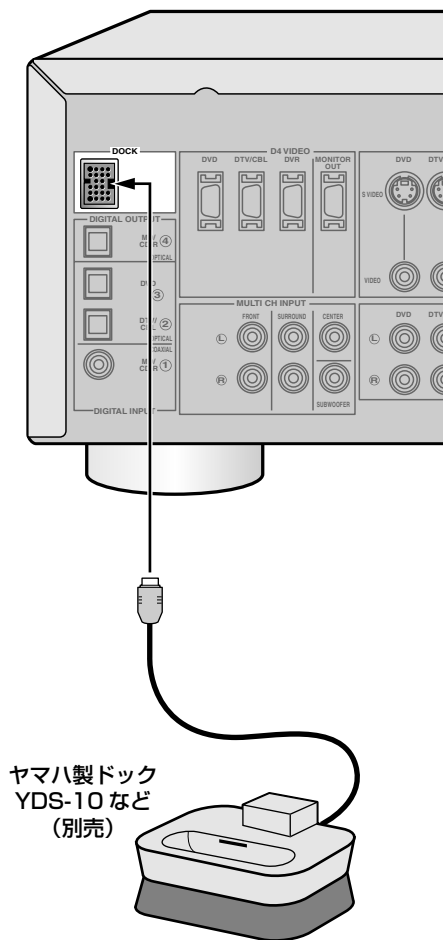
ヒント

- カセットデッキを接続する場合は、本機のアナログ音声入出力 (MD/CD-R) 端子に接続します。
- MD レコーダー／ CD レコーダーに光デジタル出力端子がある場合は、本機の空いている光デジタル入力端子に接続します。その場合は、セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更することをおすすめします(☞91 ページ)。

ご注意

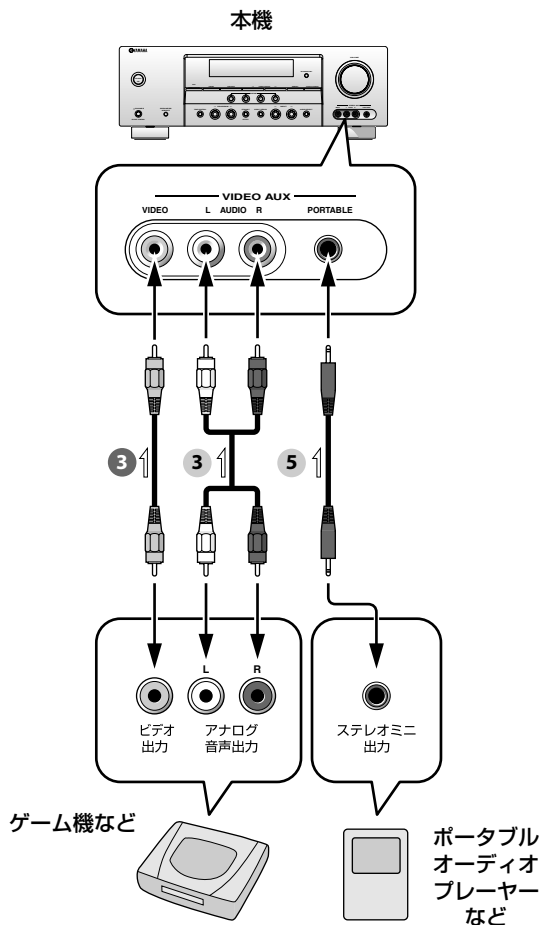
録音する場合は、再生機器と同じ種類の接続方法（デジタル／アナログ）で音声端子を接続してください。

1 同軸ケーブル
2 光ファイバーケーブル
3 ステレオピンケーブル

■ ヤマハ製ドックを接続する

本機は、iPodの再生が楽しめる、ヤマハ製ドック（別売YDS-10など）接続用のDOCK端子を装備しています。本機にヤマハ製ドックを接続し、iPodをセットすれば、本機でiPodの再生を楽しんだり、付属のリモコンでiPodを操作したりすることができます。詳しくは「iPodを再生する」（☞47ページ）をご覧ください。

■ ゲーム機やビデオカメラ、ポータブルオーディオプレーヤーなどを接続する

フロントパネルのVIDEO AUX端子に接続します。必ず音量を十分に下げてから接続してください。

ヒント

- DOCK端子にヤマハ製ドック（別売YDS-10など）を接続し、iPodをセットしている場合は、iPodの音声を優先的に出力します。
- AUDIO L／R端子とPORTABLE端子の両方に外部機器を接続している場合は、PORTABLE端子に接続している機器の音声を優先的に出力します。AUDIO L／R端子に接続している機器の音声を出力したいときは、PORTABLE端子に接続している機器を取り外してください。

音声

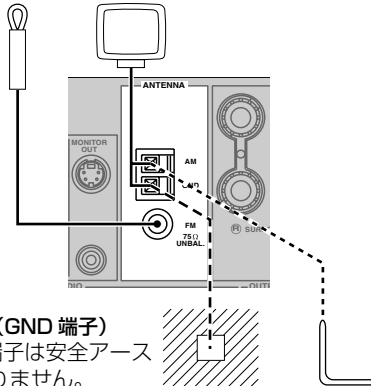
3 ステレオピンケーブル

5 3.5㎜ステレオミニプラグケーブル

映像

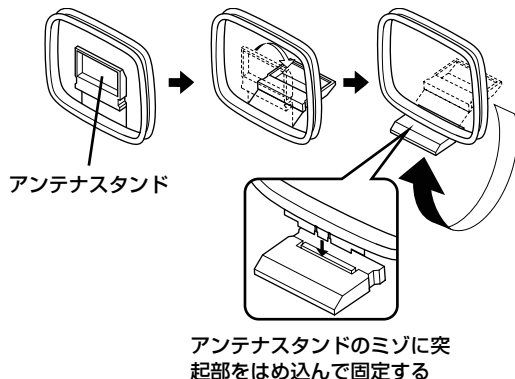
3 ビデオ用ピンケーブル

アンテナを接続する

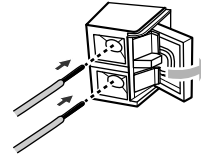
本機には、AMループアンテナおよびFM簡易アンテナが付属しています。付属のアンテナでうまく受信ができない場合は、屋外アンテナを接続してください。

アース（GND端子）
GND端子は安全アースではありません。
雑音が多いときに、接続すると雑音を低減することができます。アースは市販のアース棒か銅板に、ビニール被覆線を接続し、湿気の多い地中に埋めてください。

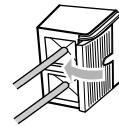
AM屋外アンテナ
市販の5～10mのビニール被覆線を屋外に張ってください。（AMループアンテナも同時に使用してください。）

■ AMループアンテナを接続する

1 アンテナをアンテナスタンドに取り付ける。

アンテナスタンドのミゾに突起部をはめ込んで固定する

2 AM端子とGND端子の右側にあるレバーを開き、AMループアンテナのコードをAM端子とGND端子に差し込む。

コードに極性はありません。

3 レバーを戻して、コードを固定する。

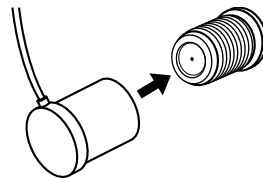
コードを軽く引いて、正しく固定されたかどうか確認してください。

ヒント

- 受信がうまくいかない場合は、アンテナを左右に回したり、設置位置を変えたりして受信状態が最も良くなるように調節してください。
- 放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ご注意

- AMループアンテナは、本機から離して設置してください。
- 屋外アンテナを接続した場合でも、AMループアンテナは必ず接続してください。

■ FM簡易アンテナを接続する

付属のFM簡易アンテナをFM端子に接続し、アンテナの先端を受信状態が最も良くなる場所に固定してください。

ヒント

放送を良好に受信するためには、屋外アンテナを設置することをおすすめします。詳しくは、本機をお買い求めの販売店にお問い合わせください。

接続する

電源コードを接続する

■ ACアウトレット

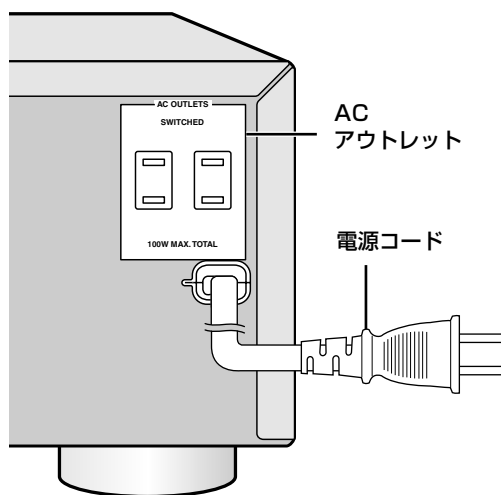
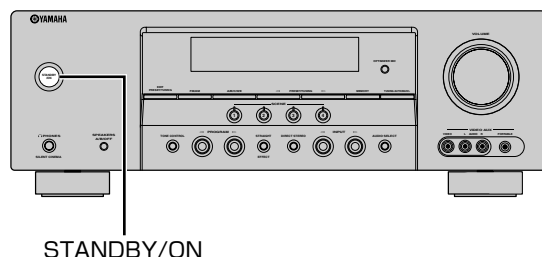
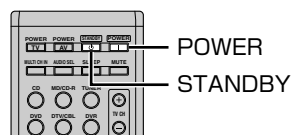
外部オーディオ機器に電源を供給するコンセントで、本機のSTANDBY/ONスイッチと連動しています。合計で消費電力100Wまでのオーディオ機器を接続し、電源を供給することができます。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

ご注意

本機のACアウトレットに、アンプ機能を持つ機器（アクティブサブウーファーやテレビなど）を接続しないでください。

■ 電源コード

すべての接続が終了したら、家庭用AC100V、50／60HzのACコンセントに電源コードのプラグを接続します。
接続するときの電源プラグの向き（極性）によって音質が変わることがありますので、お好みの向きで接続してください。

本機後面

電源をオン／オフする

■ 電源の入れかた

すべての接続が終わったら、本機の電源を入れます。

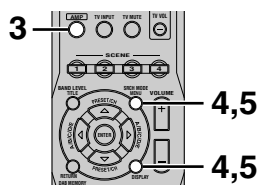
本体のSTANDBY/ONスイッチまたはリモコンのPOWERキーを押す。

本機の電源がオンになります。本体スイッチやリモコンキーで本機を操作できます。

■ 電源の切りかた

本体のSTANDBY/ONスイッチをもう一度押す、またはリモコンのSTANDBYキーを押す。
本機がスタンバイになります。

操作内容をテレビに表示する（OSD表示）

本機のOSD（On Screen Display）機能を使って、本機と映像接続したテレビに操作内容などを表示できます。
フロントパネルディスプレイ表示に比べて項目や設定値などが見やすく表示されるので、本機の操作状態を確認したり、セットメニューを設定したりする際に便利です。

1 本機とテレビの電源をオンにする。

本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞32 ページ）をご覧ください。

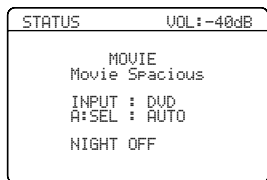
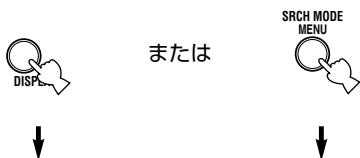
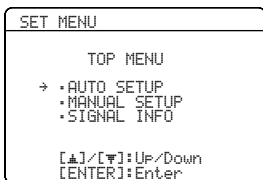
2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント
たとえば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

3 リモコンのAMPキーを押す。

4 DISPLAYキーまたはMENUキーを押す。

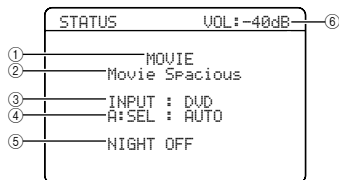
OSD画面が表示されます。

操作状態表示画面　　セットメニュー表示画面

5 DISPLAY キーまたは MENU キーをもう一度押す。

OSD画面表示を終了します。

ヒント
- OSD信号はDVR OUT端子に出力されないので、OSD表示が映像と一緒に録画されることはありません。
- セットメニュー「OSD-AMP」で、OSD 画面を表示させたときの表示時間を設定できます（☞94 ページ）。

ご注意
OSD画面は、入力ソースの映像に重ねて表示されません。

■ 操作状態（STATUS）表示画面について

① 音場プログラム

② 音場サブプログラム

③ 入力ソース

④ 入力モード

⑤ ナイトリスニングモード

⑥ 音量

最適な視聴空間を自動的に設定する（AUTO SETUP）

本機に搭載の「YPAO」（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定できます。スピーカーからテストトーンを出力し、付属のオプティマイザーマイクで測定します。

測定の前に

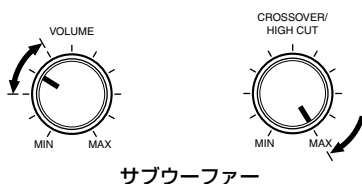
AUTO SETUPでは以下の測定を行うことにより、最適な視聴空間を自動的に設定します。

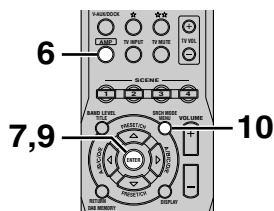
- WIRING
  スピーカーの接続状態や極性をチェックします。
- LEVEL
  各スピーカーからの音量を調節します。
- DISTANCE
  リスニングポジションから各スピーカーまでの距離を測定し、遅延時間を設定します。
- SIZE
  各スピーカーのサイズを設定します。

AUTO SETUPの測定を正しく行うため、測定を始める前に以下の事項をご確認ください。

□すべてのスピーカーおよびサブウーファーが正しく接続されているか
□テレビが正しく映像接続されているか
□ヘッドホンが取り外されているか
□リスニングルーム内や周囲の環境ができるだけ静かに保たれているか

サブウーファーを接続している場合は電源を入れて、下図の位置（半分よりやや小さめ）にボリュームを設定してください。また、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数の設定機能がある場合は、クロスオーバー周波数／ハイカット周波数を最大に設定してください。

サブウーファー

ヒント
AUTO SETUPでは、FRONT A端子に接続したスピーカーをフロントチャンネルの測定用として使います。

ご注意
測定中は大きな音量でテストトーンが出ます。小さなお子様などがリスニングルームに入らないようご配慮ください。

測定する

1 本機とテレビの電源をオンにする。

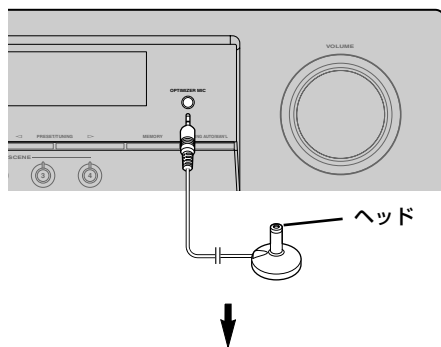
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞32ページ）をご覧ください。

2 テレビの映像入力を切り替えて、本機の映像に合わせる。

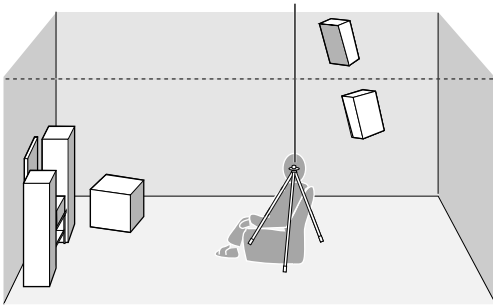
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

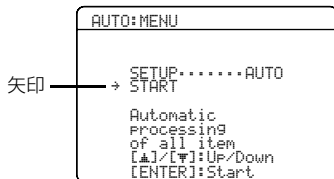
ヒント
たとえば、本機がテレビのビデオ入力端子2に接続されている場合は、ビデオ入力2を選びます。

3 本機前面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続する。

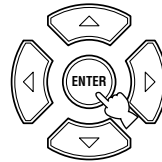
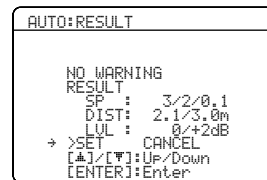
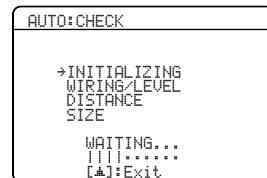
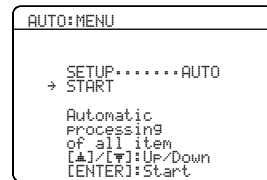
OSDに「AUTO:MENU」画面が表示されます。

ヒント
上記のOSD画面が表示されない場合は、テレビの映像入力を、画面が表示される位置に切り替えてください。

4 オプティマイザーマイクを視聴位置（リスニングポジション）に、ヘッド部を上に向けて耳と同じ高さに置く。

耳と同じ高さに設置するために三脚などを使うことをおすすめします。その場合は、三脚に付属のネジでオプティマイザーマイクを固定してください。

5 「START」の左側に「→」（矢印）が表示されていることを確認する。

「→」が左側に表示されている項目が、現在選択されている項目です。

6 リモコンのAMPキーを押す。

7 ENTERキーを押す。

OSD画面に「WAITING」と表示され、AUTO SETUPが始まります。各スピーカーからは大きなテストトーンが出力されます。より正確な測定結果を得るため、測定中はリスニングルームから出ることをおすすめします。測定終了まで、約3分かかります。

OSD画面は以下のように変わります。手順の途中でAUTO SETUPを中断したい場合は、△キーを押してください。

測定が終わると、AUTO:RESULT画面に結果が表示されます。

SP：接続されているスピーカーの数を以下の順で表示します。

フロント、センターの合計／サラウンド／サブウーファー

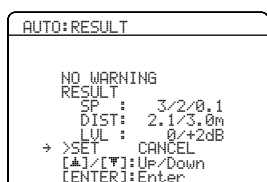
DIST：リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。

最も近いスピーカーまでの距離／最も遠いスピーカーまでの距離

LVL：スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。

最も低い音量レベル／最も高い音量レベル

ヒント
- 「詳細情報を表示する」（☞37 ページ）で、測定結果の詳しい情報を表示できます。
- 「DIST」の測定結果は、お使いのサブウーファーの特性により、実際よりも長い距離が表示される場合があります。
- OSD 画面に「ERROR」と表示された場合は、「エラーメッセージが表示される場合」（☞37 ページ）をご覧ください。
- OSD 画面に「WARNING」と表示された場合は、「警告メッセージが表示される場合」（☞38 ページ）をご覧ください。

8 「SET」の左側に「→」および「>」が表示されていることを確認する。

ヒント

AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用しない場合は、◁／▷キーを押して「CANCEL」を選んでください。

9 ENTER キーを押す。

AUTO SETUP で測定、最適化した視聴環境を適用します。

10 MENU キーを押す。

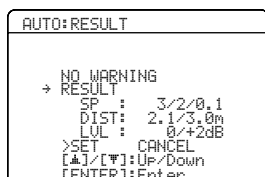
設定を終了します。オプティマイザーマイクを本機から取り外し、直射日光の当たらない涼しい場所で保管してください。

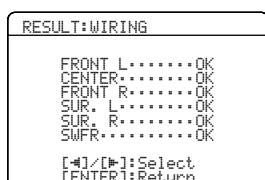
ご注意

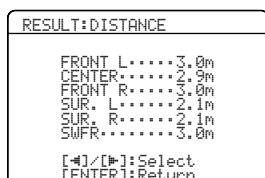
オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所や AV 機器の上など、高温になる場所には置かないでください。

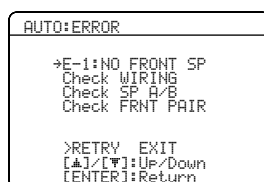
ヒント
- 以下の場合は、AUTO SETUP を再度実施してください。
  －リスニングルームを変更した
  －リスニングポジションを変更した
  －スピーカーの設置位置を変更した
  －スピーカーの数を変更した
  －スピーカーを別のものに変更した
  －すべての設定を初期設定に戻した（☞96 ページ）
- 視聴環境により、RESULT : WIRING 画面に「SWFR REV」と表示されて、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUBWOOFER PHASE」が自動的に「REVERSE」に設定される場合があります。必要に応じて「SUBWOOFER PHASE」の設定を変更してください（☞87 ページ）。
- 手動で視聴環境を設定したい場合や、AUTO SETUP での設定値を変更したい場合は、MANUAL SETUP を実施してください（☞83 ページ）。
- 「設定値を以前の状態に戻す」で、以前実施した AUTO SETUP の設定値に戻したり、工場出荷状態に戻したりすることができます（☞38 ページ）。

■ 詳細情報を表示する

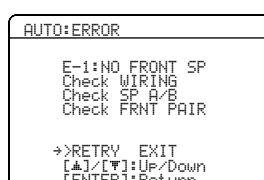
1 「測定を開始する」手順７で
AUTO:RESULT 画面が表示されたら、
∆／∇キーを押して「RESULT」を選ぶ。

2 ENTER キーを押す。

測定結果の詳細情報が表示されます。

3 ◁／▷キーを押す。

表示内容が切り替わります。

ヒント
AUTO:RESULT 画面に戻るには、ENTER キーを押します。

■ エラーメッセージが表示される場合

1 エラーの内容を確認し、問題を解決する。

詳しくは、「エラーメッセージ」(☞39 ページ)をご覧ください。

2 ∇キーを押して、「RETRY　EXIT」を選ぶ。

ヒント
エラーメッセージ「E-3:NOISY」が表示された場合は、「RETRY　EXIT」の右側に「PROCEED」も表示されます。

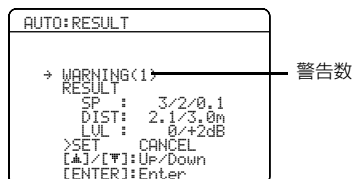
3 「RETRY」の左側に「>」が表示されていることを確認する。

ヒント
- AUTO SETUP を終了する場合は、◁／▷キーを押して「EXIT」を選び、ENTER キーを押してください。
- エラーメッセージ「E-3:NOISY」が表示されている場合、◁／▷キーを押して「PROCEED」を選び、ENTER キーを押せば、AUTO SETUP の設定を続行できます。

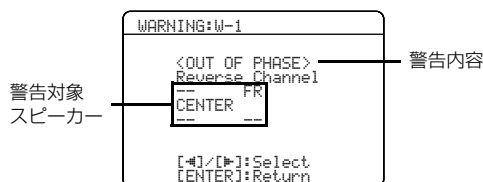
4 ENTER キーを押す。

AUTO SETUP の設定を始めからやり直します。

■ 警告メッセージが表示される場合

1 「WARNING」の左側に「→」が表示されていることを確認する。

2 ENTERキーを押す。

警告内容と、警告対象のスピーカーが表示されます。警告が２つ以上ある場合は、◁／▷キーを押すと表示内容が切り替わります。

ヒント

「－－」は、警告対象外のスピーカーをあらわしています。

3 表示されている問題を解決する。

詳しくは、「警告メッセージ」（☞40 ページ）をご覧ください。

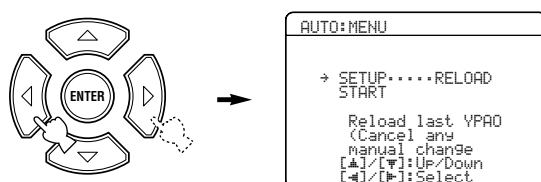
4 ENTERキーを押す。

AUTO:RESULT画面に戻ります。36 ページの手順8からAUTO SETUPの設定を続けてください。

設定値を以前の状態に戻す

前回実施したAUTO SETUPの設定値や、MANUAL SETUP（☞83 ページ）の設定値に戻したり、AUTO SETUPやMANUAL SETUPで変更した設定値をすべて工場出荷状態に戻したりすることができます。

1 「測定する」（☞34 ページ）の手順５まで操作する。

2 ◁／▷キーを押して、項目を選ぶ。

RELOAD：前回実施したAUTO SETUPの設定値に戻します。
UNDO：最新のAUTO SETUPの設定値を無効にし、MANUAL SETUPの設定値に戻します。MANUAL SETUPを設定していない場合は、前回実施したAUTO SETUPの設定値に戻します。
DEFAULT：工場出荷状態に戻します。

ご注意

AUTO SETUPで視聴空間を設定したことがない場合、「RELOAD」および「UNDO」は選べません。

3 ▽キーを押して、「START」を選ぶ。

4 ENTERキーを押す。

以前の設定が呼び出され、OSD画面に設定値が表示されます。

5 「SET」の左側に「→」および「>」が表示されていることを確認する。

ヒント

以前の設定値に戻さない場合は、◁／▷キーを押して「CANCEL」を選んでください。

6 ENTERキーを押す。

以前の設定値に戻ります。

表示メッセージについて

■ 測定開始時の表示

エラーメッセージ	原因	対策
Connect MIC!	付属のオプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面の OPTIMIZER MIC 端子に、オプティマイザーマイクを接続してください。
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	本機前面の PHONES（SILENT CINEMA）端子から、ヘッドホンを抜いてください。

■ エラーメッセージ

エラーメッセージ E-6 が繰り返し表示される場合は、ヤマハサービスセンターにお問い合わせください。

エラーメッセージ	原因	対策
E-1:NO FRONT SP	フロント左／右チャンネル信号が検出されませんでした。	フロント左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-2:NO SUR. SP	サラウンド左／右チャンネル信号の片側しか検出されませんでした。	サラウンド左／右スピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3:NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな時間帯に測定をやり直してみてください。
		エアコンなど、騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、オプティマイザーマイクから遠ざけてみてください。
E-4:NO MIC	測定の途中でオプティマイザーマイクが外れました。	AUTO SETUP での測定中はオプティマイザーマイクに触れないようご注意ください。
E-5:USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定が中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-6:INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。

■ 警告メッセージ

警告メッセージが表示された場合、補正はされますが、最適なものではありません。

警告メッセージ	原因	対策
W-1 OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されています。お使いのスピーカーの種類によっては、スピーカーが正しく接続されていても、このメッセージが表示されます。	スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2 OVER 24m	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が24mよりも離れているため、補正できません。	視聴位置の24m以内にスピーカーを移動してください。
W-3 LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、補正ができません。	スピーカーの設置位置を再度確認して、すべてのスピーカーが同等の環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、−（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。

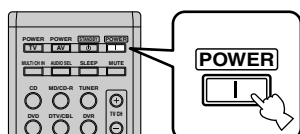
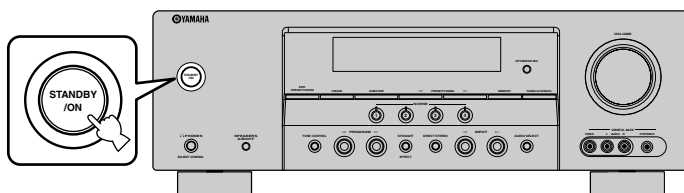
基本的な再生のしかた

AUTO SETUPの設定が終わったら、再生をはじめましょう。ここでは、DVDプレーヤーを例にとって基本的な再生のしかたを説明します。DVDプレーヤー以外の機器も、ほぼ同じ手順に沿って再生できます。DVDプレーヤー以外の機器の再生のしかたについては、「こんな操作をしたいときには・・・」(☞50ページ）もあわせてご覧ください。

ヒント

本機は、1つのキーを押すだけでお好みのソースを臨場感たっぷりに簡単に再生できる「SCENE（シーン）機能」を搭載しています。詳しくは、「SCENE機能の基礎知識」をご覧ください（☞75ページ)。

1 本機の電源をオンにする。

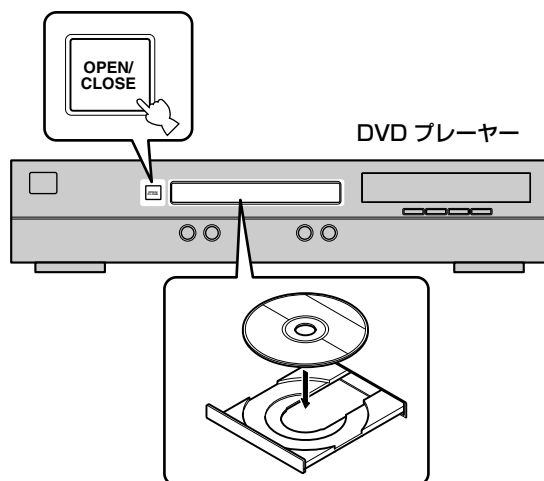
リモコンの**POWERキー**、または本体の**STANDBY/ONスイッチ**を押して電源をオンにします。
本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞32ページ）をご覧ください。

2 本機に接続したテレビの電源をオンにする。

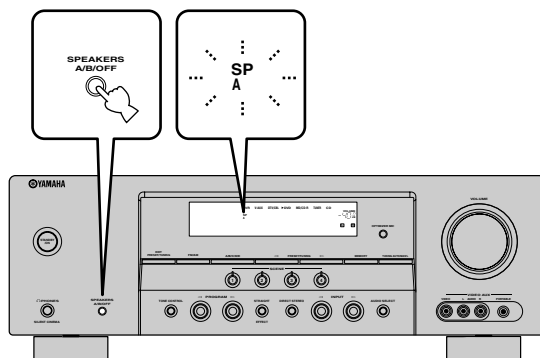
詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

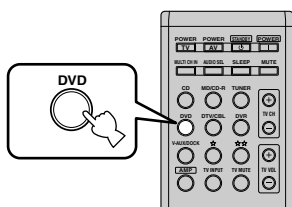
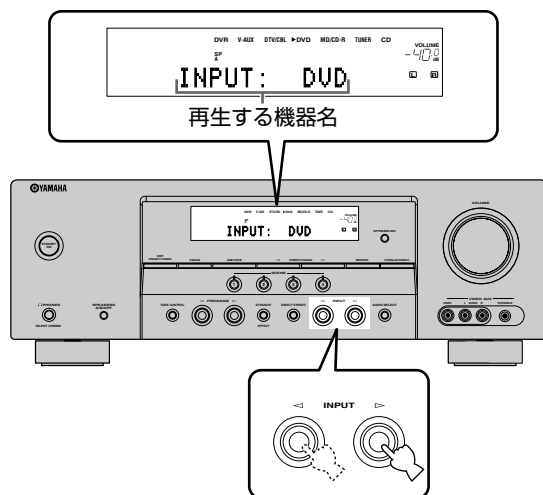
3 本機に接続されたDVDプレーヤーの電源をオンにする。

詳しくはDVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

4 DVDディスクをセットする。

DVDディスクのセットのしかたについて詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

5 音声を出力するフロントスピーカーを選ぶ。

本体の**SPEAKERS A/B/OFFキー**を繰り返し押して、音を出すフロント左／右スピーカーを選びます。押すごとに「A→B→ABオフ→A・・」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイのSP A／Bインジケーターで表示されます。

6 再生する機器を選ぶ。

リモコンの**DVDキー**を押すか、本体の**INPUT ⊲／⊳キー**を繰り返し押してDVDを選びます。フロントパネルディスプレイに「INPUT: DVD（入力する機器名）」と数秒間表示されます。

本体の操作

7 テレビの入力を本機の映像に切り替える。

詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ヒント

たとえば、本機がテレビのビデオ入力端子２に接続されている場合は、ビデオ入力２を選びます。

8 再生をはじめる。

詳しくはDVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

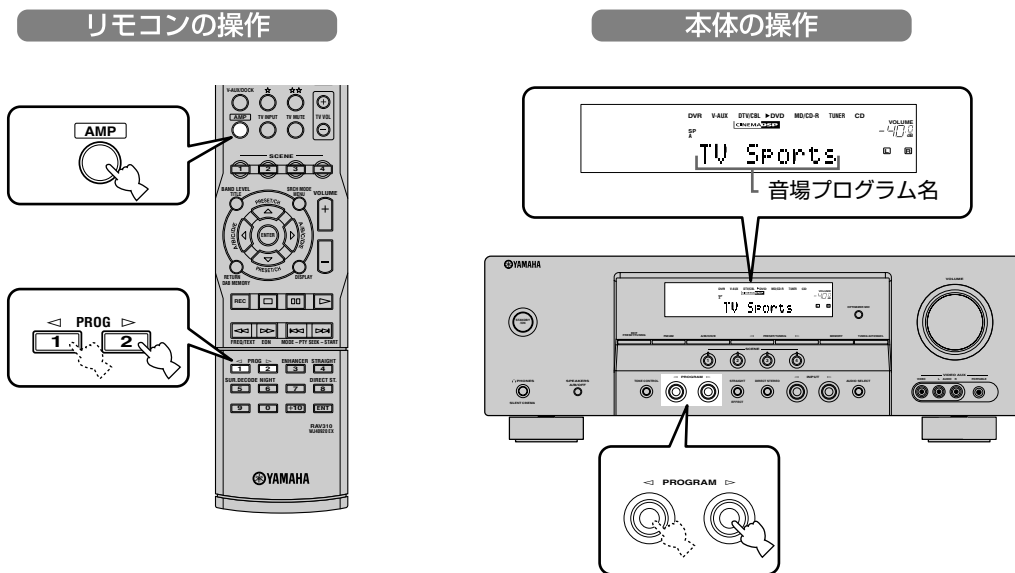
ヒント

- 音の大きさを調節するには（☞50 ページ）
- 本機の使用を終了するには（☞50 ページ）
- リモコンコードを設定すれば、お使いのDVD プレーヤーを本機のリモコンで操作できます（☞101 ページ）。

9 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**AMP キー**を押してから、**PROG ⊲／⊳ キー**を押す、または本体の**PROGRAM ⊲／⊳ キー**を繰り返し押して、音場プログラムを選びます。
選んだ音場プログラムがフロントパネルディスプレイに表示されます。

リモコンの操作

本体の操作

おすすめの音場プログラム

以下は映画を見るとき、音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長について詳しくは、「音場プログラムについて」（☞52 ページ〜）をご覧ください。

映画を見るときには…

ENTERTAIN
- Game
- TV Sports

MOVIE
- Movie Spacious
- Movie Dramatic

音楽を聴くときには…

MUSIC ENHANCER
- Music Enh. 2ch
- Music Enh. 5ch

STEREO
- 2ch Stereo
- 5ch Stereo

DIRECT STEREO

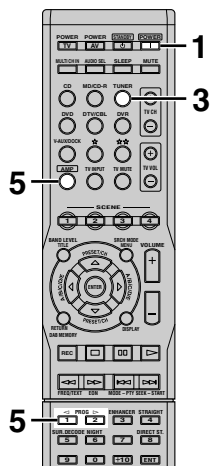
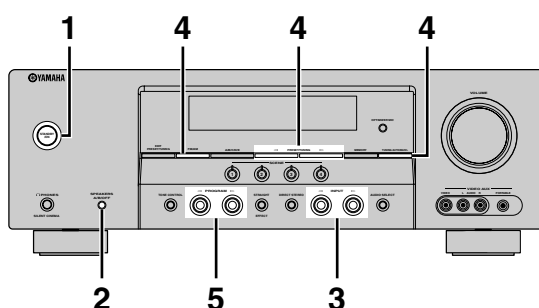
MUSIC
- Pop/Rock
- Hall
- Jazz

FM ／ AM 放送を聴く

本機に搭載されているチューナー機能を使って、FM ／ AM 放送を楽しみます。

ヒント

本機は、1 つのキーを押すだけで FM ／ AM 放送を簡単に再生できる「SCENE（シーン）機能」を搭載しています。詳しくは、「SCENE 機能の基礎知識」をご覧ください（☞75 ページ）。

リモコンの操作

本体の操作

1 **本機の電源をオンにする。**

リモコンの**POWER キー**、または本体の**STANDBY/ON スイッチ**を押して電源をオンにします。本機の電源について詳しくは、「電源をオン／オフする」（☞32 ページ）をご覧ください。

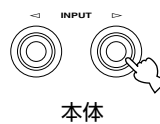
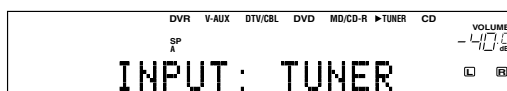
リモコン　　本体

2 **音声を出力するフロントスピーカーを選ぶ。**

本体の**SPEAKERS A/B/OFF キー**を繰り返し押して、音を出すフロント左／右スピーカーを選びます。押すごとに「A → B → AB オフ→ A・・」のように切り替わります。選んでいるスピーカーは、フロントパネルディスプレイの SP A ／ B インジケーターで表示されます。

本体

3 **本機の機能をチューナーに切り替える。**

リモコンの **TUNER キー**を押すか、本体の**INPUT ⊲／⊳キー**を繰り返し押して、チューナー機能に切り替えます。フロントパネルディスプレイに数秒間「INPUT: TUNER」と表示されます。

リモコン　　本体

4 放送局を選ぶ。

放送局はオート選局とマニュアル選局の２つの方法で選べます。

自動的に選局する場合（オート選局）

① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

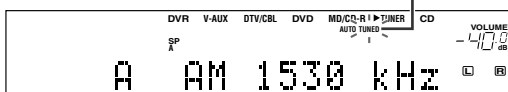
② **本体のTUNING（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイにAUTOインジケーターを点灯させる。**

「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は選局できません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消してください。

③ **本体のPRESET/TUNING ⊲／⊳キーを押す。**

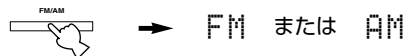
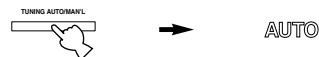
⊳キーを押すと高い周波数へ、⊲キーを押すと低い周波数へ向かってオート選局がはじまります。

放送局を受信すると、その局の周波数が表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- 電波が弱くてお聴きになりたい放送局が選べないときは、手動で選局してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞70～72ページ）。

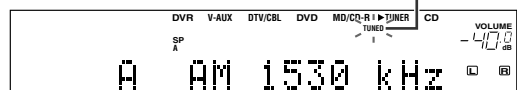
手動で選局する場合（マニュアル選局）

聴きたい放送局をうまく受信できないときは手動で選局してください。
FM放送局を手動で受信すると自動的にモノラル受信が行われて、電波が弱い場合でもよりよい音声をお楽しみいただけます。

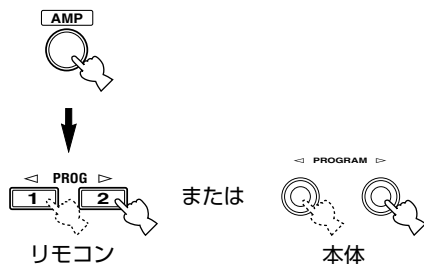
① **本体のFM/AMキーを押して、FMまたはAMを選ぶ。**

② **本体のTUNING（AUTO/MAN'L）キーを繰り返し押して、フロントパネルディスプレイのAUTOインジケーターを消す。**

「：」（コロン）がフロントパネルディスプレイに表示されている場合は選局できません。PRESET/TUNING（EDIT）キーを押してコロンを消してください。

③ **本体のPRESET/TUNING ⊲／⊳キーを押して、放送局の周波数に合わせる。**

放送局を受信すると、TUNEDインジケーターが点灯します。

ヒント

- 受信感度が最良になるように、本機に接続したFM／AMアンテナの向きや位置を調節してください。
- お好みの放送局を登録（プリセット）しておくと、聴きたい放送局を簡単に呼び出せます（☞70～72ページ）。

5 音場プログラムを選ぶ。

お好みの音場プログラムを選んで、臨場感をお楽しみください。リモコンの**AMP キー**を押してから**PROG ◁／▷ キー**を繰り返し押す、または本体の**PROGRAM ◁／▷ キー**を繰り返し押して、お好みの音場プログラムを選びます。

おすすめの音場プログラム

以下は音楽を聴くときにおすすめの音場プログラムです。なお、それぞれの音場の特長について詳しくは、「音場プログラムについて」(☞52ページ～）をご覧ください。

音楽を聴くときには…

MUSIC ENHANCER
  Music Enh. 2ch
  Music Enh. 5ch

STEREO
  2ch Stereo
  5ch Stereo

DIRECT STEREO

MUSIC
  Pop/Rock
  Hall
  Jazz

iPodを再生する

リアパネルのDOCK端子にヤマハ製ドック（別売YDS-10など）を接続し、iPod（クリックホイール、nano、mini）をセットすれば、iPodに保存された音楽や映像を楽しめます。iPodの操作は、iPod本体で行うほかに、本機のリモコンで操作したり、OSD画面を見ながら操作したりすることもできます。ヤマハ製ドックの接続については、「ヤマハ製ドックを接続する」（☞30 ページ）をご覧ください。

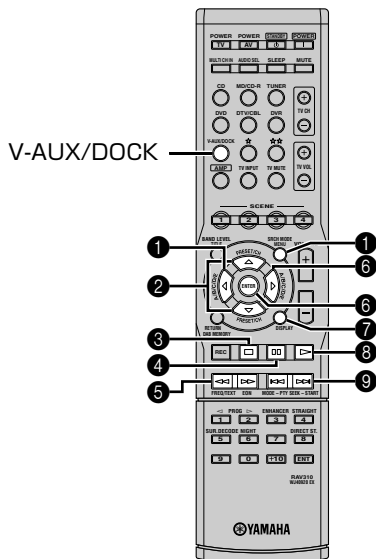
ヒント

- 本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットすると、本機とiPodとの通信が始まります。
- 本機とiPodとの通信が完了すると、フロントパネルディスプレイに「iPod connected」と表示され、DOCKインジケーターが点灯します。
- 本機とiPodとの通信に問題が生じると、フロントパネルディスプレイにエラーメッセージが表示されます。iPod接続時に表示されるメッセージについては、「iPod接続時のメッセージについて」（☞49 ページ）をご覧ください。
- DOCK端子には、iPodのアナログ音声信号およびアナログ映像信号のみ入力されます。入力されたアナログ音声信号はAUDIO OUT (REC)端子からのみ出力されます。
- 本機の電源がオンのとき、iPodは自動的に充電されます。
- コンプレストミュージック・エンハンサーモードで、よりダイナミックな再生音を楽しめます（☞53 ページ）。

ご注意

iPodの種類やソフトウェアのバージョンにより、一部の機能が使えない場合があります。

iPodを操作する

リモコンでiPodを操作したいときは､最初に入力選択キーのV-AUX/DOCKキーを押します。iPodの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。

❶ 1つ前の表示に戻ります。
❷ 上 / 下のメニューにカーソルを移動します。
❸ 再生を停止します。
❹ 一時停止します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
❺ 巻き戻し / 早送りします（長押し）。
❻ 選択したメニューに入ります。
❼ メニュー表示モードに入る、または終了します。
❽ 再生します（ノーマルモード時は再生／一時停止）。
❾ 再生中の曲の先頭または次の曲の先頭にスキップします。

ノーマルモードで操作する

iPodをヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットすると､ノーマルモードに入ります｡ノーマルモードでは、OSD画面を表示させずに、リモコンで以下の基本的な操作ができます。

- ・再生
- ・停止
- ・巻戻し
- ・早送り
- ・スキップ
- ・一時停止

ヒント

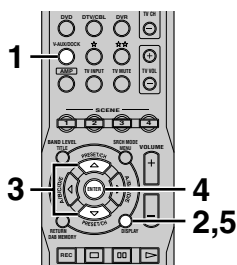
iPod本体でも操作できます。

ご注意

映像系のファイルを再生している場合、本機のリモコンで巻き戻し、早送り、スキップは操作できません。iPod本体で操作してください。

基本的な再生のしかた

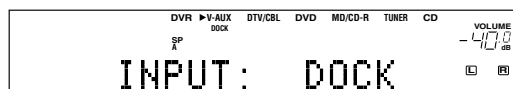
メニュー表示モードで操作する

本機とテレビをＳビデオ、またはビデオ接続すれば、OSD画面に表示されるメニューを見ながら基本的な操作をしたり、お好みに合わせて設定を変更したりすることができます。また、コンテンツの情報を見たり、本機の動作状況などを確認したりすることもできます。

ヒント

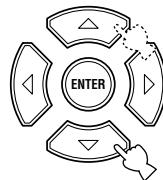
メニュー表示モードで操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのMENUキーまたは◁キーを押します。

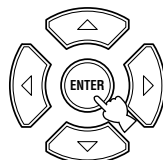
ご注意

- iPod本体では操作できません。
- 映像系のファイルはメニュー表示モードでは選択できません。ノーマルモードで再生してください。
- 本機で表示できない文字は「 _ 」（アンダーバー）と表示されます。

1 リモコンのV-AUX/DOCKキーを押す。

2 DISPLAYキーを押す。

メニュー画面が表示されます。

3 △／▽キーを繰り返し押して、設定したいメニューを選ぶ。

4 ENTERキーを押す。

選んだメニューに入ります。

ヒント

▷キーを押して、選んだメニューに入ることもできます。

選択項目： Playlists（プレイリスト）
Artists（アーティスト）
Albums（アルバム）
Songs（曲名）
Genres（ジャンル）
Composers（作曲者）
Settings（セットアップメニュー）

階層が進むごとに、以下のように項目が切り替わります。

- Playlists→Songs
- Artists→Albums→Songs
- Albums→Songs
- Songs
- Genres→Artists→Albums→Songs
- Composers→Albums→Songs
- Settings→Shuffle、Repeat

＜Shuffle＞（シャッフル）

曲やアルバムをランダムに選んで再生します。

選択項目： Off、Songs、Albums

Off：ランダム再生しません。

Songs：曲をランダムに選んで再生します。

Albums：アルバムをランダムに選んで再生します。

ヒント

「Songs」または「Albums」を選んでいるときは、OSD画面右上に「⤮」が表示されます。

<Repeat>（リピート）

曲やアルバムを繰り返し（リピート）再生します。

選択項目： Off、One、All

Off：リピート再生しません。

One：選んだ曲をリピート再生します。

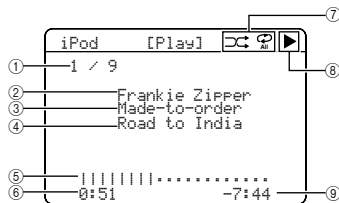
All：すべての曲をリピート再生します。

ヒント

「One」または「All」を選んでいるときは、OSD画面右上に「 」または「 」が表示されます。

5 **DISPLAYキーを押す。**

メニュー表示モードを終了します。

■ 再生情報画面表示について

① トラック番号／トラック数

② アーティスト名

③ アルバム名

④ 曲名

⑤ 進捗表示

⑥ 経過時間

⑦ シャッフル／リピート表示

⑧ ▶（再生）、❚❚（一時停止）、▶▶（早送り）、◀◀（巻き戻し）

⑨ 残り時間

ヒント

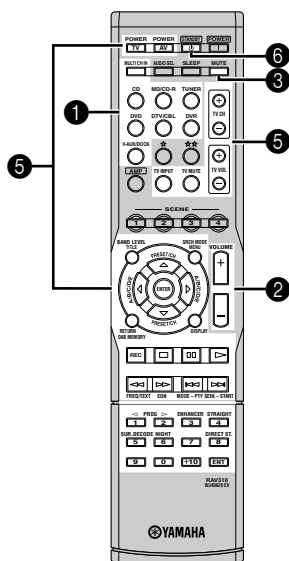
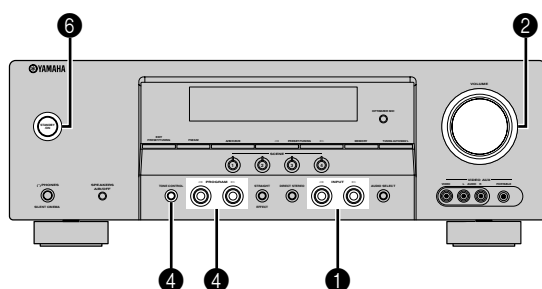
セットメニュー「OSD-SOURCE」で、メニュー画面や再生情報画面を表示させたときの表示時間を設定できます（☞94 ページ）。

■ iPod 接続時のメッセージについて

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にiPodをセットしたときに、フロントパネルディスプレイに表示されるメッセージの一覧です。

メッセージ	内容
Loading...	iPod との接続を確認中です。 iPod から情報を取得中です。
Connect error	iPod が正しく接続されていません。 iPod との通信に問題が発生しています。
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod が接続されています。
iPod connected	iPod がヤマハ製ドックに正しく接続されました。
Disconnected	iPod がヤマハ製ドックから取り外されました。
Unable to play	何らかの原因で再生できません。

こんな操作をしたいときには…

リモコンの操作

本体の操作

DVDプレーヤー以外の機器を再生するときは（❶）

リモコンの入力選択キー、または本体のINPUT ⊲／⊳キーを押して、再生する機器を選びます。
たとえば、CDプレーヤーを再生したい場合は、CDキーを押すか、INPUT ⊲／⊳キーを繰り返し押して「CD」を選べば、CDプレーヤーの再生を楽しめます。

音の大きさを調節したいときは（❷）

リモコンのVOLUME＋／−キーを押すか、本体のVOLUMEコントロールを回して、音の大きさを調節します（可変範囲：MUTE、−80.0dB〜＋16.0dB）。

ヒント

セットメニュー「AUDIO SET」の「MAX VOL.」で音量の最大値を、また、「INI.VOL.」で、電源をオンにしたときの音量をそれぞれ設定できます（☞90ページ）。

一時的に音量を下げたいときは（❸）

リモコンのMUTEキーを押します。フロントパネルディスプレイに「MUTE ON」と表示され、MUTEインジケーターが点滅します。
もとの音量に戻したいときは、もう一度MUTEキーを押します。

ヒント

- VOLUME操作でミュートを解除することもできます。
- セットメニュー「AUDIO SET」の「MUTE TYPE」で、下げる音量を選ぶことができます（☞90ページ）。

音色を調節したいときは（❹）

フロント左／右スピーカーまたはヘッドホン（接続時のみ）の音色を調節できます。
本体のTONE CONTROLキーを繰り返し押して、調節する音域、「BASS」（低音域）または「TREBLE」（高音域）を選びます。音域を選んだら、PROGRAM ⊲／⊳キーを押して音色を調節します（可変範囲：−10.0dB〜+10dB）。

ヒント

- ヘッドホン接続時は、ヘッドホン用に独立して、音色を調節できます。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは音色を調節できません。

ご注意

- 音色を極端に調節した場合、ほかのスピーカーとの音のつながりが悪くなることがあります。
- ダイレクトステレオモード（☞61ページ）で再生しているときは、音色を調節できません。

本機のリモコンで他の機器を操作したいときは（❺）

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンで他の機器を操作できます。詳しくは「リモコンで操作する機器を設定する」（☞101ページ）をご覧ください。

本機の使用を終了するときは（❻）

リモコンのSTANDBYキー、または本体のSTANDBY/ONスイッチを押して、本機をスタンバイにします。

音場プログラムガイド – なにを再生しますか？

本機でお楽しみいただける音場プログラムをご紹介します。見たい／ 聴きたいものに合わせて、音場プログラムを選び、再生してみましょう。音場プログラムの選択方法や詳しい解説については、「音場プログラムについて」（☞52 ページ）をご覧ください。

見たい／聴きたいものは？		この音場プログラムがおすすめです	
映画を見る	壮大なファンタジー映画には	MOVIE Movie Spacious	壮大なスケール感を演出する音場
	ラブロマンスやコメディには	MOVIE Movie Dramatic	空間の立体感を演出する音場
	映画館の迫力をお部屋で再現するには	PRO LOGIC II PLII Movie	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
スポーツ／ドラマを見る	白熱のスポーツ中継やドラマには	ENTERTAIN TV Sports	バラエティやスポーツ中継番組に適用範囲の広い音場
ライブ映像を見る	ビッグエンターテイナーのステージには	MUSIC Pop/Rock	ロック、ジャズなどのライブコンサートを演出する音場
	ライブの迫力をお部屋で再現するには	PRO LOGIC II PLII Music	2チャンネル音声を仮想的にマルチチャンネル化して再生
音楽を聴く	華麗なクラシックコンサートには	MUSIC Hall	広く奥行きのあるホールの音場
	雰囲気のあるジャズライブには	MUSIC Jazz	ニューヨークの著名なジャズクラブの音場
	ステレオ音声を楽しむには	STEREO 2ch Stereo	ステレオ音声で再生
		DIRECT STEREO	アナログ信号、PCM 信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生
	楽しいホームパーティを演出するには	STEREO 5ch Stereo	広いエリアで音楽を楽しめる音場
	圧縮オーディオフォーマットを楽しむには	MUSIC ENHANCER Music Enh. 2ch	2チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生
		MUSIC ENHANCER Music Enh. 5ch	5チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生
ゲームをする	ゲームの世界に浸るには	ENTERTAIN Game	TV ゲームの迫力と臨場感を増す音場
		PRO LOGIC II PLII Game	サラウンド感に包まれる大迫力の再生モード

ヒント

音場プログラムの名前や説明にこだわらず、聞いたときに最もお好みに合った音場プログラムをお選びください。

音場プログラムについて

本機には、映画に最適なシネマDSP音場プログラム、音楽に最適なHiFi DSP音場プログラム、コンプレストミュージック・エンハンサーモードが搭載されています。

ご注意

- 本機の音場プログラムは、世界各地の実在のホールなどの音響特性を測定した結果に基づいて設計されています。そのため、前後左右で響きの強さや音量差が異なると感じられる場合がありますが、故障ではありません。
- 音場プログラムの名前や説明にこだわらず、最も心地よく聞こえる音場プログラムをお選びください。

音場とは？

「その空間が持つ特有の音の響き」を音場と呼んでいます。コンサートホールなどで私達は、楽器の音や歌手の声が直接聴こえてくる「直接音」のほかに、床や壁、天井などに1回反射してから聴こえてくる「初期反射音」、さらに何回も反射を繰り返しながら次第に減衰してゆく「後部残響音」を聴くことになります。建物内部の形状や広さ、それに内装材料の種類等によって、初期反射音や残響音の構成が異なり、そのホール特有の響きが生まれます。それが「音場」です。
ヤマハでは、世界の著名なコンサートホールやオペラハウスなどで、反射音の方向・強さ・帯域特性・遅延時間等の音場情報を実際に測定し、その膨大なデータを蓄積しています。本機では、この音場測定の実測データを基に作成された音場プログラムを自由に選択し、著名ホールやライブハウスなどの音場をリスニングルームで再現することができます。

音場を構成する要素

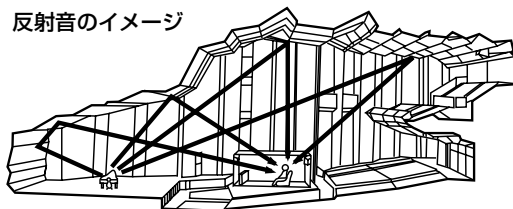
■ 直接音

楽器やボーカルなどの、音源からどこにも反射することなく、直接リスナーの耳に届く音です。

■ 初期反射音

壁や天井などに1回反射してからリスナーの耳に到達する音です。初期反射音は直接音が発生してから50ms（50／1000秒）から80ms（80／1000秒）くらい後に耳に届きます。初期反射音により、直接音に明瞭さが付加されます。

■ 後部残響音

壁や天井、部屋の後部などに2回以上反射を繰り返しながら、多数の反響音がひとまとめになり、連続した音響の余韻となる音です。これらの反射音は方向性がなく、直接音の鮮明さを劣化させます。

直接音、初期反射音、後部残響音が1つになることで、リスナーは演奏会場や劇場をイメージすることができます。デジタル音場プロセッサーはこの反射音、残響音を再現することで、音場を作り出します。

また、リスニングルームにおいて適切な反射音や後部残響音を再現できれば、独自のリスニング音場を作り出すことができます。つまりリスニングルームの音響効果をコンサートホール、ダンスフロア、大聖堂など、さまざまな演奏会場や劇場の音響効果に変えることができるのです。意のままに音場を再現する能力こそ、デジタル音場プロセッサーを通じてヤマハがこれまでに実践してきたことです。

シネマDSP音場プログラム

映画製作者の意図するサウンドは、セリフは明瞭にスクリーン上に定位し、効果音はその奥に、音楽はさらにその奥に拡がり、そしてサラウンドは視聴者を取り囲んでスクリーンの映像と一体になるようにデザインされています。

ヤマハDSPをAV再生用に進化させたプログラムが「シネマDSP音場プログラム」です。映画サラウンドデコーダーであるドルビープロロジック、ドルビーデジタルやDTS、また、BS／地上波デジタル放送の音声フォーマットであるAACなどの各デコーダーとヤマハDSPを融合し、映画のサウンドを最良の状態でデザインするダビングステージ（最終的な映画のサウンドデザインを完成させるファイナルミックス）でのクオリティをAVルームに再現するサラウンド音場です。

シネマDSP音場プログラムでは、フロント左／センター／フロント右チャンネルにもヤマハDSP処理を加えることで、視聴者はセリフの実在感や効果音、音楽の奥行き感とともに、スムーズな音源の移動感とスクリーンまで回り込むサラウンド感に包まれます。

HiFi DSP音場プログラム

CDなどのステレオ音楽の再生に最適なプログラムです。入力信号に応じて各種デコーダーが使用されます。

コンプレストミュージック・エンハンサーモード

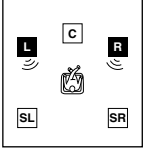
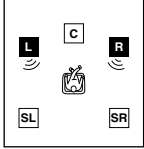
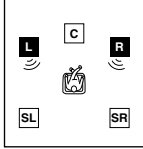
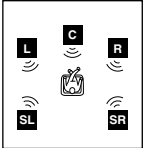
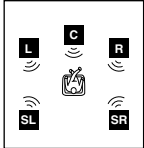
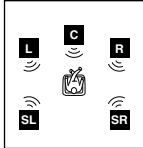
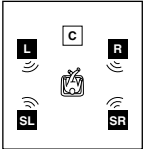
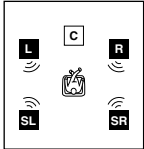
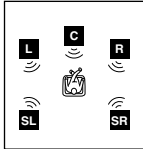
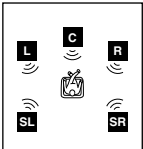
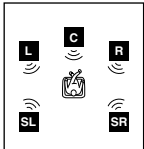
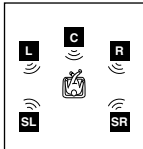
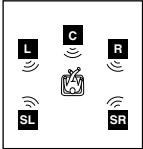
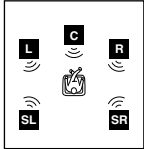
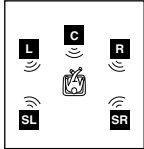
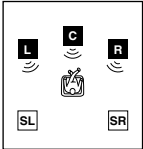
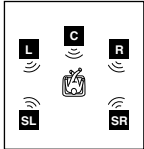
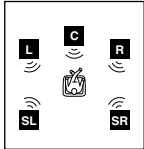
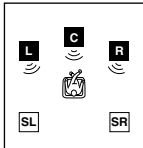
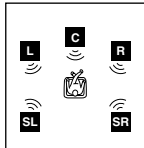
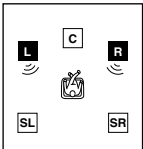
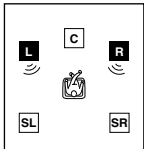
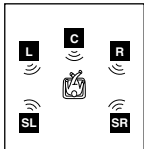
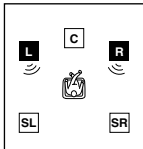
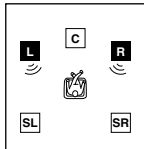
MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ 音場プログラム一覧

プログラム	サブプログラム	特徴
ステレオ STEREO	チャンネル　ステレオ 2ch Stereo	前方からのステレオ音声が楽しめる、基本的な音場です。
	チャンネル　ステレオ 5ch Stereo	後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長の音場プログラムです。ホームパーティーのBGMに最適です。セットメニューの設定により、最大5つのスピーカーから音が出力されます。
ミュージック MUSIC	ポップ　ロック Pop ／ Rock	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器の生々しさとリズム楽器のノリを重視しつつ、広大なライブ会場の空間を再現します。
	ホール Hall	クラシック、管弦楽などの音楽再生向けの音場です。ミュンヘンにある大規模なコンサートホールのデータを使用しています。繊細な美しい響きと、落ち着いた雰囲気が特長です。
	ジャズ Jazz	ジャズ、フュージョンなどの音楽再生向けの音場です。ニューヨークにある有名なライブハウスのデータを使用しています。明瞭な響きが特長です。
エンターテイン ENTERTAIN	ゲーム Game	迫力と臨場感のある音響効果でゲームが楽しめます。プレイ中のフィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。
	スポーツ TV Sports	ステレオ放送のスポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに明瞭に定位し歓声も含め場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり、その場にいるような臨場感が体感出来ます。
ムービー MOVIE	ムービー　スペイシャス Movie Spacious	壮大なスケール感の演出を重視した、映画向けの音場です。ワイド画面にマッチする広大な空間表現と微小な効果音から迫力の大音響までダイナミックレンジの広い音場感が特長です。
	ムービー　ドラマティック Movie Dramatic	音響効果の立体感を重視した、映画向けの音場です。控えめな響きでありながら、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音やBGMが柔らかな響きで立体的に再現されます。
ミュージック　エンハンサー MUSIC ENHANCER	ミュージック　エンハンサー　チャンネル Music Enh. 2ch	2チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。
	ミュージック　エンハンサー　チャンネル Music Enh. 5ch	5チャンネルステレオ音声でダイナミックに再生します。

入力信号と再生スピーカー

入力信号の種類によって、下図で示されたスピーカーから音声が出力されます。

ご注意

AUTO SETUP（☞34 ページ）、またはセットメニュー「SPEAKER SET」（☞85 ページ）の設定により、音声が出力されるスピーカーは変化します。また、再生するソースによってはスピーカーから音が出ない場合や、小さい音しか出ない場合もあります。映画の効果音などに合わせて部分的にしか使われないチャンネルもあります。

表中のイラストは以下の内容を示しています。

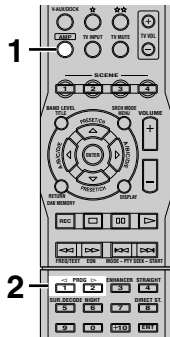
L：　フロント左スピーカー
C：　センタースピーカー
R：　フロント右スピーカー
SL：　サラウンド左スピーカー
SR：　サラウンド右スピーカー

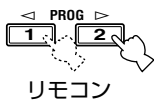
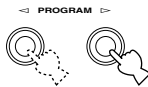
■：　音が出ているスピーカー
□：　音が出ていないスピーカー

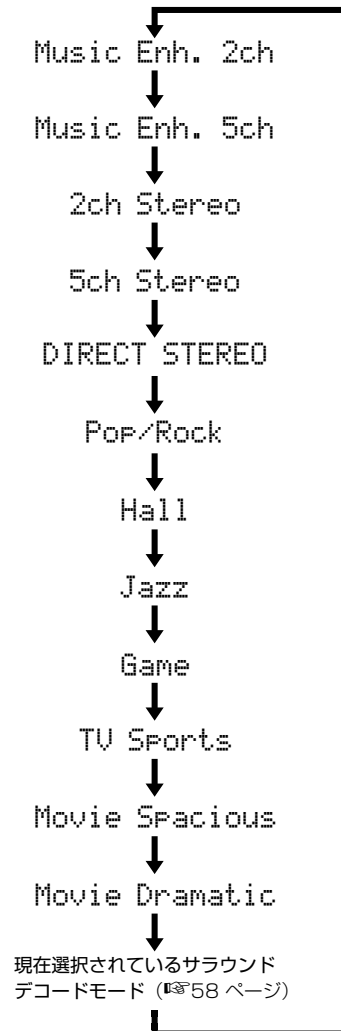
音場プログラム	2 チャンネル音声（モノラル）	2 チャンネル音声（ステレオ）	5.1 ／ 6.1 チャンネル音声
STEREO 2ch Stereo MUSIC ENHANCER Music Enh. 2ch	モノラル再生		
STEREO 5ch Stereo MUSIC ENHANCER Music Enh. 5ch			
MUSIC Hall Jazz			
MUSIC Pop/Rock ENTERTAINMENT Game TV Sports			

音場プログラム	2チャンネル音声（モノラル）	2チャンネル音声（ステレオ）	5.1／6.1チャンネル音声
MOVIE Movie Spacious Movie Dramatic			
SUR. DECODE DOLBY DIGITAL PRO LOGIC DTS AAC	PRO LOGIC	PRO LOGIC	
SUR. DECODE PLII Movie PLII Music PLII Game			—
STRAIGHT	モノラル再生		
DIRECT STEREO	モノラル再生		—

音場プログラムを切り替える

音場プログラムの切り替え方法を説明します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

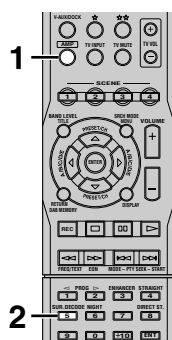
2 リモコンのPROG ◁／▷キー、または本体のPROGRAM ◁／▷キーを繰り返し押して、音場プログラムを選ぶ。

以下のように音場プログラムが切り替わります。

ご注意

MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは音場プログラムを選べません（☞59 ページ）。

サラウンド再生を楽しむ

本機では、ドルビーデジタルやDTS、AACなどのマルチチャンネルソースを再生すると、自動的に最適なデコーダーを選んでサラウンド再生します。また、CDやビデオテープなどの2チャンネルソースをマルチチャンネル化してサラウンド再生したり、サラウンドスピーカーがない場合やヘッドホンで聴く場合にも、サラウンド感を演出して再生したりすることができます。

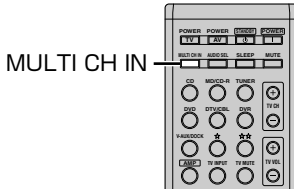
2チャンネルソースをマルチチャンネルで楽しむ（サラウンドデコードモード）

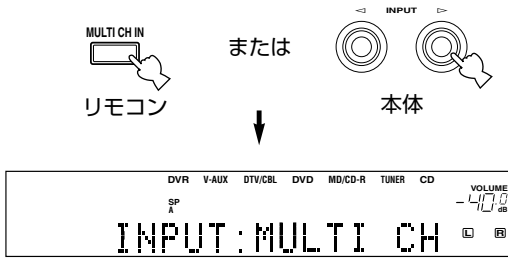
ドルビープロロジックまたはドルビープロロジックIIデコーダーを選んで、2チャンネルソースをマルチチャンネル化して再生します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 SUR.DECODEキーを繰り返し押して、デコーダーを選ぶ。

以下のようにデコーダーが切り替わり、2チャンネルソースをマルチチャンネル化して再生します。

マルチチャンネル入力の音声を聴く

本機のMULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を再生します。DVDやスーパーオーディオCDなどを高音質で楽しめます。

リモコンのMULTI CH INキーを押す、または本体のINPUT⊲／⊳キーを繰り返し押して、マルチチャンネル入力を選ぶ。

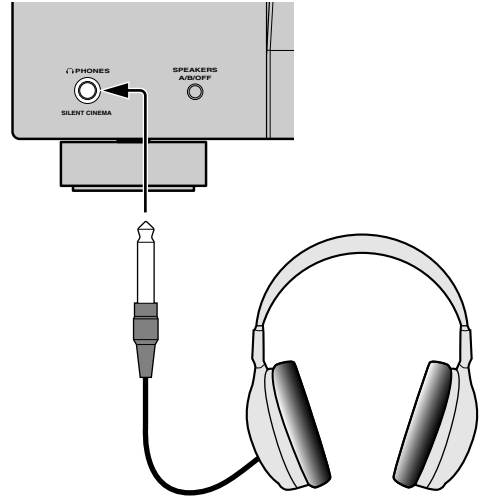
フロントパネルディスプレイに「INPUT:MULTI CH」と表示されます。

ヒント

- セットメニュー「MULTI CH SET」で、バックグラウンドビデオ機能を使う場合にマルチチャンネル入力の音声と組み合わせる映像を設定できます（☞93 ページ）。
- 本機のPHONES端子にヘッドホンを接続している場合は、フロント左／右チャンネルの音声のみ出力されます。

ご注意

MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているときは音場プログラム（☞52 ページ）、およびナイトリスニングモード（☞62 ページ）を選べません。

ヘッドホンで音場プログラムを楽しむ（サイレントシネマTM）

ヘッドホンを本体のPHONES端子に接続し、音場プログラムを選べば、サイレントシネマTMモードで再生を楽しめます。

サイレントシネマTMモードでは、マルチスピーカーによる音場プログラムの効果を、ヘッドホンで擬似的に再現します。サイレントシネマTMモードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイのSILENT CINEMAインジケーターが点灯します。

ご注意

- サイレントシネマTMモードで再生中に、本機フロントパネルのV-AUX端子に外部機器を接続する場合は、必ず音量を下げてから接続してください。
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器は、サイレントシネマTMモードで再生できません。

■ 音場効果をかけずに、通常のヘッドホン再生を楽しむには

以下のプログラム / モードを選んで再生します。

－2ch Stereo（☞54、61 ページ）
－5ch Stereo（☞54 ページ）
－ダイレクトステレオモード（☞61 ページ）
－ストレートデコードモード（☞63 ページ）

サラウンド左／右スピーカーなしで音場プログラムを楽しむ（バーチャルシネマDSP）

サラウンド左／右スピーカーがない場合でも、バーチャルシネマDSPモードにより、臨場感あふれる音場再生を楽しめます。
セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定すれば、バーチャルシネマDSPモードで再生を楽しめます(☞86 ページ)。

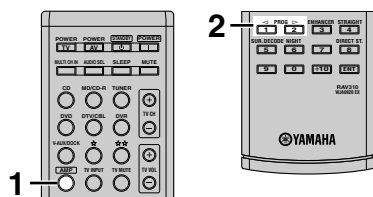
バーチャルシネマDSPモードでは、入力ソースの音声に、選んだ音場プログラムの音場効果を付加して、フロント左／右スピーカー、センタースピーカーとサブウーファーから出力します。バーチャルシネマDSPモードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイのVIRTUALインジケーターが点灯します。

ご注意

以下の場合は、セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定しても（☞86 ページ）、バーチャルシネマDSPモードには切り替わりません。
－MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているとき（☞59 ページ）
－2ch Stereo(☞54、61 ページ)、5ch Stereo(☞54 ページ)、コンプレストミュージック・エンハンサーモード（☞53 ページ）、サラウンドデコードモード（☞58 ページ）、ダイレクトステレオモード（☞61 ページ）、ストレートデコードモード（☞63 ページ）を選んでいるとき
－ヘッドホンを接続しているとき（☞59 ページ）

ステレオ再生を楽しむ

ステレオ再生する（2 チャンネルステレオ）

フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。

1 リモコンの AMP キーを押す。

2 リモコンのPROG ⊲／⊳キー、または本体のPROGRAM ⊲／⊳キーを繰り返し押して、「2ch Stereo」を選ぶ。

2 チャンネルソースの場合

フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。

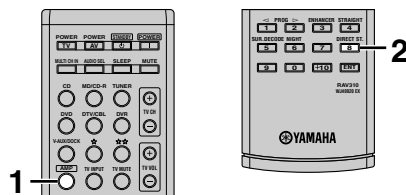
マルチチャンネルソースの場合

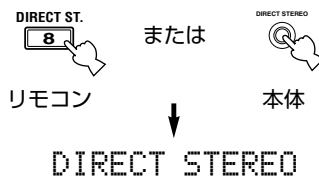
フロント左／右チャンネル以外の音声をフロント左／右チャンネルにミックスして、フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。

ヒント

- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」で「SWFR」または「BOTH」を選択した場合は、サブウーファーからも音声が出力されます（☞86 ページ）。
- LFE チャンネルは、セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定した場合のみ、フロント左／右スピーカーにミックスして出力されます（☞86 ページ）。

高音質でステレオ再生する（ダイレクトステレオモード）

デコーダーやDSP 回路などをバイパスし、アナログ信号やPCM 信号を原音に忠実な高音質ステレオ音声で再生します。

1 リモコンの AMP キーを押す。

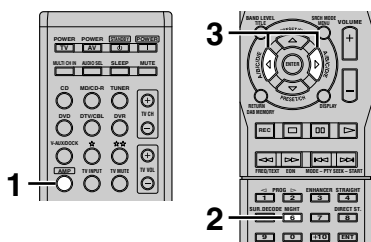
2 リモコンのDIRECT ST. キー、または本体のDIRECT STEREO キーを押して、「DIRECT STEREO」を選ぶ。

ヒント

ダイレクトステレオモードを解除するには、PROG⊲／⊳キーを押してください。

ご注意

- ダイレクトステレオモードでDTS-CD を再生しないでください。ノイズが出力されることがあります。
- ドルビーデジタルやDTS などのマルチチャンネルソースを再生しているときにダイレクトステレオモードに切り替えると、対応するアナログ音声入力端子に入力されている信号を再生します。デジタル接続のみの場合は、音声は出力されません。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、サブウーファーから音声は出力されません。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、「SP LEVEL」以外のSOUND MENU およびTONE CONTROL の設定は無効になります。
- ダイレクトステレオモードで再生中は、フロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。入力切り替えなどの操作をすると、数秒間だけ明るくなります。

夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）

ナイトリスニングモードでは、小音量でもセリフなどは明瞭に、大きな効果音は抑えて再生します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 NIGHTキーを押す。

ナイトリスニングモードで再生します。キーを繰り返し押せば、オン（サブモード選択）／オフを切り替えられます。

NIGHT:CINEMA

映画用：大きな効果音を抑え、セリフなどは聴きとりやすくします。

↓

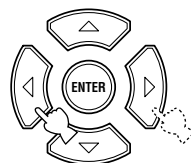
NIGHT:MUSIC

音楽用：音の高低、音色に限らず、どんな音も聴きとりやすくします。

↓

NIGHT OFF

OFF：ナイトリスニングモードをオフにします。

3 「NIGHT：CINEMA」または「NIGHT：MUSIC」が表示されているあいだに◁／▷キーを押して、効果レベルを選ぶ。

以下のようにフロントパネルディスプレイに効果レベルが表示されます。

Effect.Lvl:MIN

大きな効果音を少し抑えて再生します。

Effect.Lvl:MID

大きな効果音を適度に抑えて再生します。

Effect.Lvl:MAX

大きな効果音をできるだけ抑えて再生します。

ナイトリスニングモードで再生しているあいだは、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

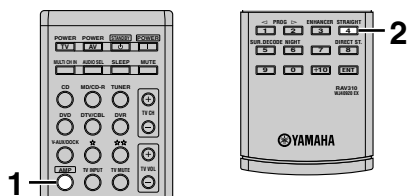
ヒント

- NIGHT：CINEMA（映画用）とNIGHT：MUSIC（音楽用）の効果レベルは、それぞれ独立して保存されます
- DISPLAYキーを押して、OSD画面を見ながら操作することもできます。NIGHTキーでサブモードを選んでから、◁／▷キーで効果レベルを選んでください。

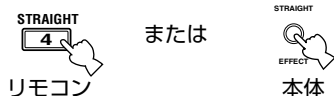
ご注意

- ダイレクトステレオモード（☞61 ページ）で再生しているときや、MULTI CH INPUT端子に接続した機器を再生しているとき（☞59 ページ）、ヘッドホンを接続しているときは、ナイトリスニングモードで再生できません。（ダイレクトステレオモードのときはナイトリスニングモードは機能しません。）
- 入力ソースやサラウンド音場の設定により、効果に違いが生じる場合があります。

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

入力された信号を、音場効果をかけずにそのまま再生します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 リモコンのSTRAIGHTキー、または本体のSTRAIGHT／EFFECTキーを押す。

ストレートデコードモードで再生します。

2チャンネルソースの場合

フロント左／右スピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルソースの場合

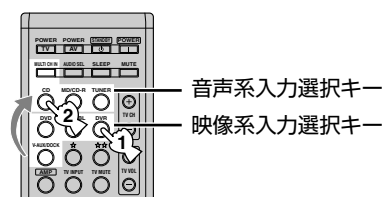
入力信号を適切なデコーダーでデコードしたあと、マルチチャンネル音声で再生します。

ヒント

ストレートデコードモードを解除してもとの状態（音場効果をかけた状態）に戻るには、もう一度STRAIGHTキー、またはSTRAIGHT／EFFECTキーを押します。

音楽と映像で異なる入力ソースを楽しむ（バックグラウンドビデオ機能）

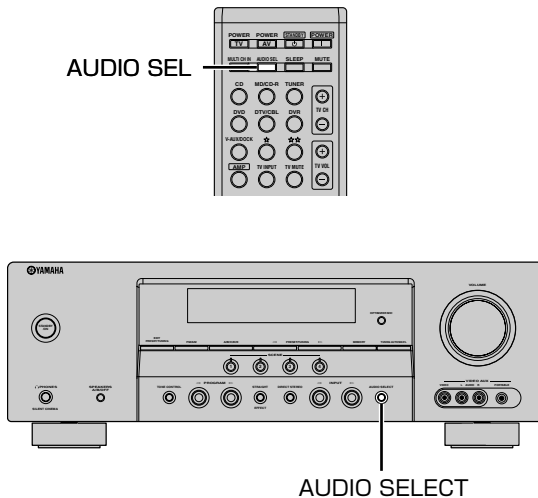
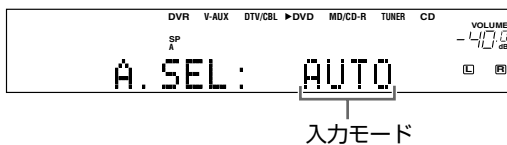
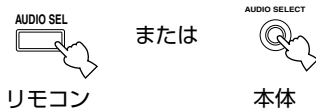
バックグラウンドビデオ機能とは、映像系入力ソースの映像と、音楽系入力ソースの音声を組み合わせて楽しむ機能です。たとえば、ビデオを見ながら、クラシック音楽を楽しめます。

リモコンの入力選択キーを押して、映像系入力を選んでから、音声系入力を選びます。

ヒント

MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声を他の機器の映像とともにお楽しみいただくには、セットメニュー「MULTI CH SET」（☞93ページ）で、映像系入力ソースを選んでください。

いろいろな再生のしかた

デジタル信号／アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）

１つの再生機器をデジタル／アナログ両方の方法で音声接続している場合（例：DVD プレーヤーを光デジタル接続とアナログ接続を同時に行っている）に、デジタル信号を優先的に入力するか、アナログ信号を入力するかを切り替えます。

リモコンの AUDIO SEL キー、または本体の AUDIO SELECT キーを繰り返し押して、入力モードを選ぶ。

AUTO：以下の優先順位で入力信号を自動的に選びます。通常はこの設定でお使いください。

1. デジタル信号

2. アナログ信号

ANALOG：アナログ信号を入力します。デジタル信号が同時に入力されても再生されません。

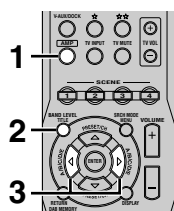
ヒント

セットメニュー「AUDIO SELECT」の設定で、本機の電源を入れたときに、前回設定した入力モードをそのまま使うか、AUTO に戻すかを設定できます（☞95 ページ）。

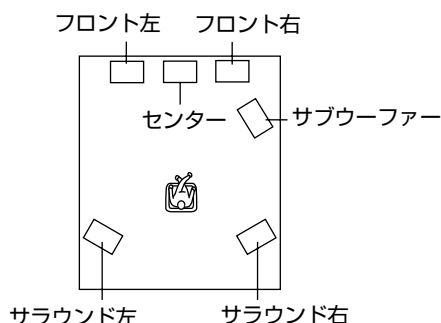
ご注意

- 再生機器が接続されていない端子の信号は再生されません。
- 再生機器を本機に接続していても、接続した端子に再生機器が割り当てられていない場合、その端子の信号は選べません。セットメニュー「I/O ASSIGNMENT」で割り当てを変更してください（☞91 ページ）。
- セットメニュー「DECODER MODE」（☞93 ページ）で「DTS」または「AAC」に設定している場合、入力モードを「ANALOG」にすると音声は出力されません。

スピーカーの音量を調節する

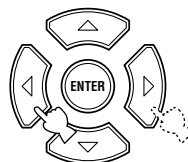
再生音を聴きながら、各スピーカーの音量を調節します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 LEVELキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選ぶ。

表示	スピーカー
FRONT L	フロント左
FRONT R	フロント右
CENTER	センター
SWFR	サブウーファー
SUR.L	サラウンド左
SUR.R	サラウンド右

ご注意

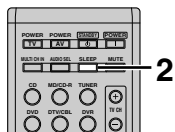
- セットメニュー「SPEAKER SET」で「NONE」に設定しているスピーカーは調節できません（☞85 ページ）。
- セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定している場合、サブウーファーは調節できません（☞86 ページ）。

3 ◁／▷キーを繰り返し押して、スピーカーの音量を調節する。

音量の調節範囲は、－10～+10dBです。

ヒント

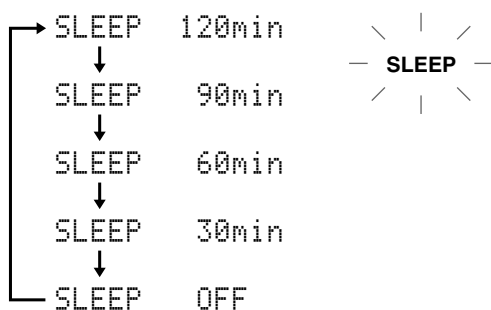
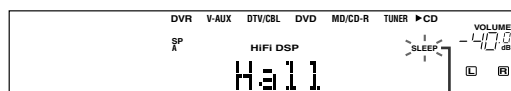
- TUNER以外が入力選択されている場合は、本体でも操作できます。
  A/B/C/D/Eキーを繰り返し押して、調節したいスピーカーを選んだら、PRESET/TUNING ◁／▷キーを繰り返し押して音量を調節してください。
- AUTO SETUP（☞34 ページ）やセットメニュー「SP LEVEL」（☞87 ページ）で調節された音量も自動的に調節されます。

一定時間後に自動的にスタンバイにする（スリープタイマー）

設定した時間が経過すると、自動的にスタンバイになるように設定します。聴きながら、または録音しながらおやすみになりたいときなどに便利です。スリープタイマーが作動すると、本機背面のACアウトレット（☞32 ページ）に接続した機器の電源もオフになります。

1 再生をはじめる。

2 リモコンのSLEEPキーを繰り返し押して、オン（スタンバイになるまでの時間）／オフを選ぶ。

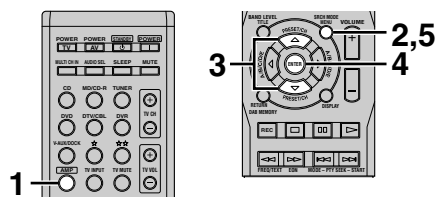
SLEEPキーを押すごとに、下記のように設定が切り替わります。時間を選んでいるあいだは、フロントパネルディスプレイにSLEEPインジケーターが点滅します。

点滅

SLEEPインジケーターが点灯に変わると、スリープタイマーの時間設定が完了し、音場プログラム表示に戻ります。

点灯

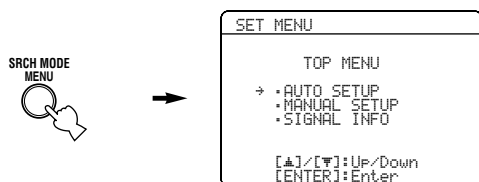
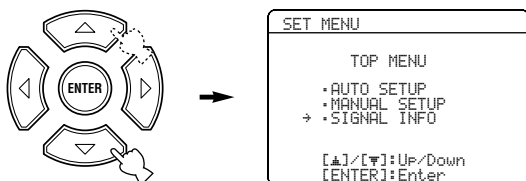
ヒント

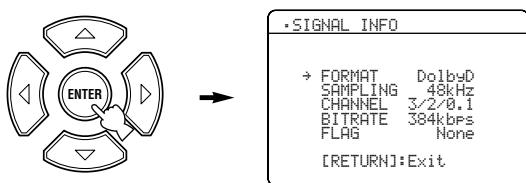
- スリープタイマーを解除するには、「SLEEP OFF」を選んでください。
- 以下の操作をすると、スリープタイマーは解除されます。
  - －リモコンのSTANDBYキーを押す
  - －本体のSTANDBY/ONスイッチを押す
  - －電源コードを抜く

入力信号情報を表示する

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 MENUキーを押す。

SET MENU画面が表示されます。

3 ∆ ／ ∇ キーを繰り返し押して、「SIGNAL INFO」を選ぶ。

4 ENTERキーを押す。

入力信号の情報が表示されます。

ヒント

入力信号の情報は、フロントパネルディスプレイにも表示されます。∆／∇キーを繰り返し押して項目を選んでください。

FORMAT

入力信号の種類を表わします。

表示	フォーマット
Analog	アナログ
PCM	PCM
DolbyD	ドルビーデジタル
DTS	DTS
AAC	AAC
---	不明なデジタル信号
???	不明な入力信号

SAMPLING

入力信号のサンプリング周波数(デジタル信号入力時のみ)です。サンプリング周波数が不明の場合は、「−−−」と表示されます。

CHANNEL

入力信号の音声チャンネル数（ドルビーデジタル、DTS、AAC入力時のみ）です。たとえば、「3/2/0.1」と表示された場合は、「フロント3チャンネル／サラウンド2チャンネル／LFE0.1チャンネル」を示しています。また、2ヵ国語放送などの主＋副の2チャンネル音声は「1+1 」と表示されます。

BITRATE

入力信号の1秒あたりのデータ量＝ビットレート(ドルビーデジタル／DTS／AAC入力時のみ)を表わします。

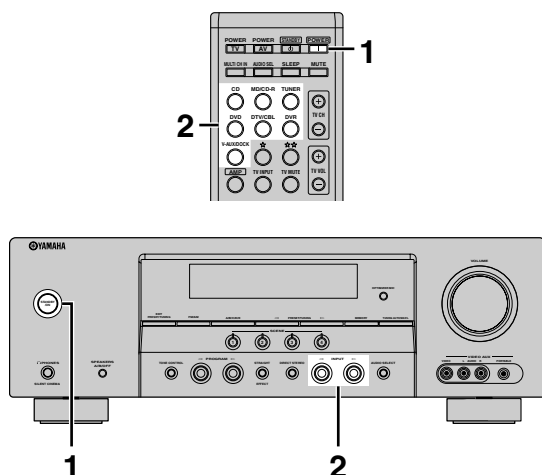
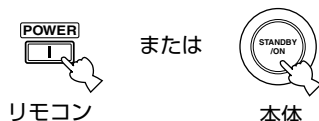
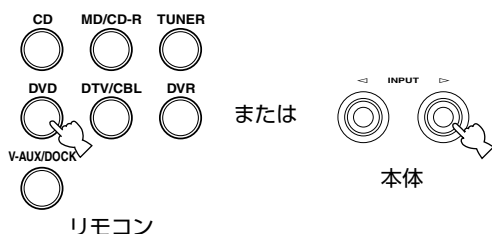
FLAG

入力信号に含まれている、ある動作をさせるための識別信号=フラグ(ドルビーデジタル／DTS／PCMのみ)を表わします。

5 MENUキーを押す。

入力信号情報の表示を終了します。

外部機器で録音／録画する

本機に接続した録音／録画機器で、音声や映像を録音／録画できます。

1 本機と本機に接続されているすべての機器の電源をオンにする。

2 リモコンの入力選択キーを押す、または本体のINPUT⊲／⊳キーを繰り返し押して、録音／録画したい音声や映像を再生する機器を選ぶ。

3 録音／録画する音声や映像を再生する。

詳しくは再生する機器の取扱説明書をご覧ください。FM／AM放送を録音したいときは、放送局を選局してください（☞44ページ）。

4 録音／録画を開始する。

詳しくは録音／録画する機器の取扱説明書をご覧ください。

ヒント

- アナログ信号を録音する場合は、再生する機器をアナログ接続してください。同様に、光デジタル信号を録音する場合は、再生する機器を同軸デジタルまたは光デジタル接続してください。
- DOCK端子から入力した音声信号は、AUDIO OUT (REC)端子からのみ録音できます。
- 本機では、Sビデオまたはコンポジットビデオ端子から入力した映像信号を録画できます。Sビデオ映像を録画する場合は、再生する機器をSビデオ接続してください。同様に、コンポジットビデオ映像を録画する場合は、再生する機器をコンポジットビデオ接続してください。
- 録音／録画する前に、あらかじめ「試し録音」「試し録画」をしてください。
- 録音される音声の音量の調節や操作は、録音機器側で行います。詳しくは録音機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機をスタンバイにすると、接続した機器間で録音／録画できません。
- 入力ソースの出力端子からは、信号は出力されません（例：DVR IN端子へ入力された信号は、DVR OUT端子から出力されません）。
- 本機のDSP処理による音場効果は、録音できません。
- 録音中に以下の操作を行っても、録音される音声には影響しません。
  - 音量の調節
  - 音質の調節（TONE CONTROL）
  - スピーカーレベルの変更
  - 音場プログラムの変更
- MULTI CH INPUT端子に接続した機器の音声は録音できません。
- PORTABLE端子に接続した機器の音声は、アナログ端子からのみ録音できます。
- 本機を使用中は、本機に接続した録音／録画機器の電源を切らないでください。電源を切ると、他の機器の音声が歪むことがあります。
- コピー防止機能のあるビデオを再生すると、画像が乱れる場合があります。
- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。

■ DTS CD ／ DTS DVD 音声の録音／再生について

DTS 信号はデジタルビットストリームで伝送されるため、DTS信号をデジタル録音したものをデコーダーを通さずに再生するとノイズだけが再生されます。

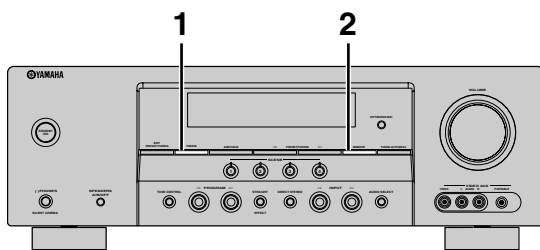
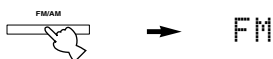
- DTS CDまたはDTS DVDの音声をデジタル録音したものを再生する場合は、デコーダーを通して再生してください。
- DTS CDの音声を録音する場合は、DTS デコーダー内蔵のDVD プレーヤーからアナログで録音することをおすすめします。

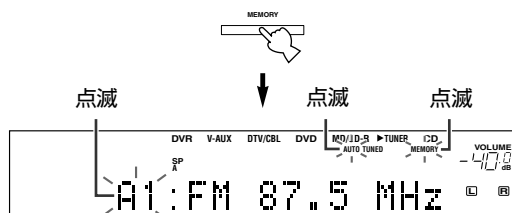
詳しくは、お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

FM ／ AM 放送局を登録する

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使ってFM ／ AM 放送局を登録しておくと、あとで選局するときに便利です。はじめにリモコンのTUNERキーを押す、または本体のINPUT ⊲／⊳ キーを繰り返し押して、TUNERを選んでください。

自動で登録する（オートプリセット）（FMのみ）

FM 放送局を自動的に40 局（8局×５グループ、A1 ～E8）まで登録（プリセット）できます。
放送局を登録しておくと、あとは簡単な操作で選局できます。
AM 放送局は自動で登録できません。手動で登録してください。

1 本体のFM/AMキーを押して、FM を選ぶ。

2 MEMORYキーを約３秒押し続ける。

プリセット番号とMEMORY インジケーター、AUTO インジケーターが点滅します。数秒後に、周波数の低い方から放送局を探し始め、自動的に登録していきます。MEMORY キーを約３秒間押したあと、PRESET/TUNING（EDIT）キーで「:」（コロン）を消してから、PRESET/TUNING ⊲キーを押すと、周波数の高い方から自動登録していきます。

オートプリセットが終了すると、最後に登録された放送局の周波数が表示されます。

■ 登録を始めるプリセット番号を指定する場合

左に記載の「自動で登録する（オートプリセット）」の手順２でMEMORYキーを約３秒間押したあと、A/B/C/D/Eキーと PRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを使って、最初に登録するプリセットグループとプリセット番号を選びます。
数秒後に、選んだプリセット番号から登録を始めます。放送局が40 局（A1 ～E8）すべて登録されるか、全周波数帯域を一巡すると、オートプリセットが停止します。

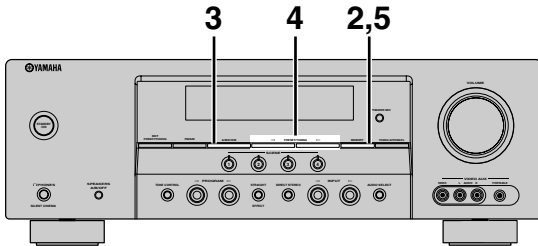
ヒント

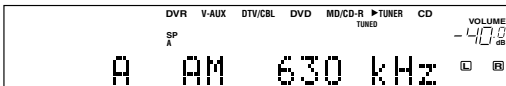
- 放送局が登録されると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。
- 登録されたFM 放送局の順序を、あとから手動で入れ替えることもできます（☞73 ページ）。

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消去され、新しい放送局に入れ替わります。
- オートプリセットでは、登録する放送局の数が40（A1 ～E8）に満たない場合には、全周波数帯域を一周して停止します。
- オートプリセットでは、電波の強いFM 放送局だけが登録されます。電波の弱いFM 放送局を登録したいときは、手動で放送局を受信したあと、手動で登録してください（☞71 ページ）。

手動で登録する（マニュアルプリセット）

FM／AM放送局を40局（8局×5グループ、A1～E8）まで手動で登録（プリセット）します。

1 プリセットしたい放送局を選局する。

詳しくは、「FM／AM放送を聴く」(☞44 ページ）をご覧ください。

フロントパネルディスプレイに、受信している局の周波数と放送局（FMまたはAM）が表示されます。

2 本体のMEMORYキーを押す。

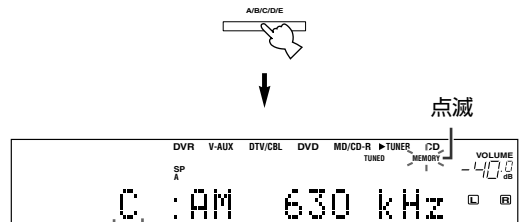
放送局が登録できる状態になります。フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターが約10秒間点滅します。

ご注意

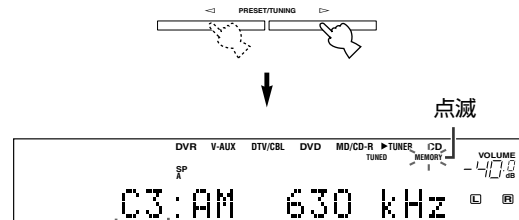
MEMORYキーを押したら、10秒以内に手順3を操作してください。10秒以上経過するとマニュアルプリセットが自動的に中止されます。この場合は、手順2から操作し直してください。

3 MEMORYインジケーターの点滅中にA/B/C/D/Eキーを押して、プリセットグループ（A～E）を選ぶ。

プリセットグループが表示されます。放送局の表示の横に「：」（コロン）が点灯していることを確認してください。

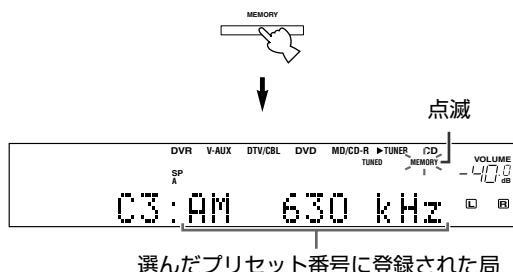
フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/Eキーを押すたびに切り替わります。

4 MEMORYインジケーターの点滅中にPRESET/TUNING ◁／▷ キーを押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。

▷ キーを押すと番号の大きい方へ向かって、◁ キーを押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。

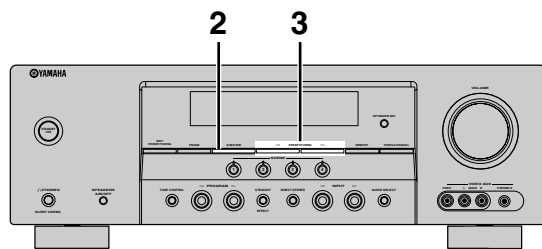
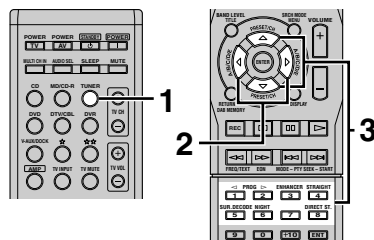
便利な機能

5 MEMORY インジケーターの点滅中に、MEMORY キーを押す。

選んだプリセットグループ、プリセット番号と放送局（FM または AM）、周波数がディスプレイに表示されます。

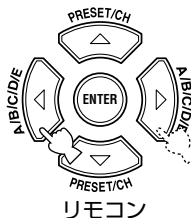
選んだプリセット番号に登録された局

ご注意

- 同じプリセット番号に新しい放送局を登録すると、前に登録されていた放送局は消え、新しい放送局に入れ替わります。
- 新しい放送局を登録すると、放送局の周波数と受信モード（ステレオ、モノラル）も同時に登録されます。

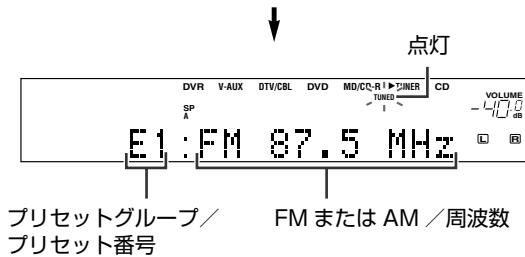
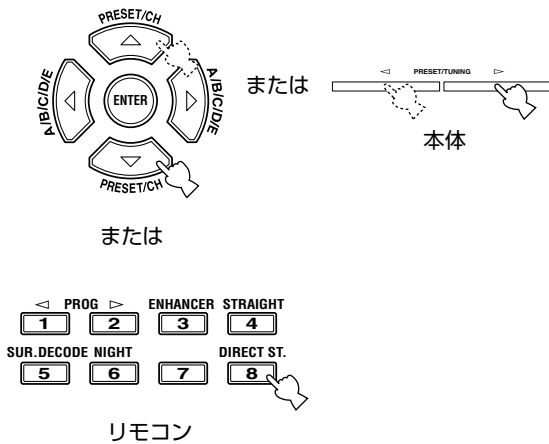
登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局）

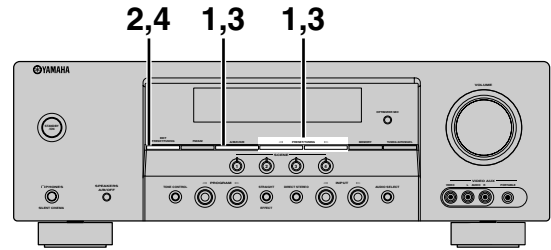
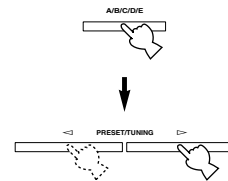
登録（プリセット）した放送局を簡単に選局することができます。

1 リモコンの TUNER キーを押す。

2 リモコンの A/B/C/D/E ◁／▷キー、または本体の A/B/C/D/E キーを繰り返し押して、放送局をプリセットしたグループを選ぶ。

フロントパネルディスプレイに表示されるプリセットグループは、A/B/C/D/E キーを押すたびに切り替わります。リモコンの場合は、◁キーを押すと A のほうへ向かって、▷キーを押すと E のほうへ向かって切り替わります。

3 **リモコンのPRESET/CH △／▽キーを繰り返し押すか、プリセット番号キー（1～8）を押す、または本体のPRESET/TUNING ◁／▷ キーを繰り返し押して、プリセット番号（1～8）を選ぶ。**

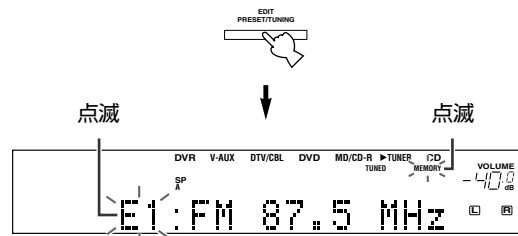
△キー（または本体のPRESET/TUNING ▷キー）を押すと番号の大きい方へ向かって、▽キー(または本体のPRESET/TUNING ◁キー)を押すと番号の小さい方へ向かって切り替わります。プリセットグループとプリセット番号が、放送局（FMまたはAM）と周波数とともにフロントパネルディスプレイに表示され、TUNEDインジケーターが点灯します。

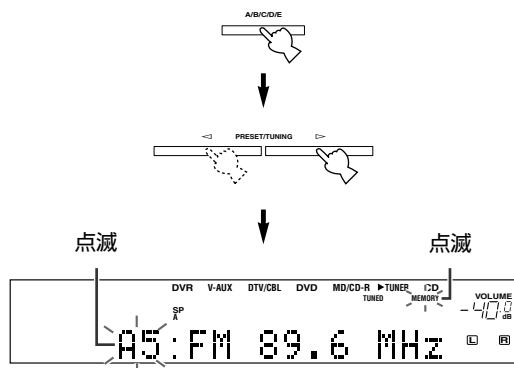
または

登録した放送局を入れ替える

オートプリセットやマニュアルプリセット機能を使って登録した放送局を入れ替えられます。
ここでは例として、「E1」(E=プリセットグループ、1=プリセット番号) に登録した放送局を「A5」に、「A5」の放送局を「E1」に変更する場合の手順を説明します。

1 **本体のA/B/C/D/Eキーと PRESET/TUNING ◁／▷キーを繰り返し押して、「E1」に登録した放送局を選局する。**

詳しくは、「登録した放送局を選んで聴く（プリセット選局)」をご覧ください（☞72 ページ)。

2 **PRESET/TUNING（EDIT）キーを約３秒間押す。**

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「E1」が点滅します。

便利な機能

3 「A5」に登録した放送局を、A/B/C/D/Eキーと PRESET/TUNING ⊲／⊳ キーを使って選局する。

フロントパネルディスプレイのMEMORYインジケーターと「A5」が点滅します。

4 PRESET/TUNING（EDIT）キーを押す。

登録した局が入れ替わり、フロントパネルディスプレイに「EDIT」と入れ替えた放送局のプリセットグループ／プリセット番号が表示されます。

SCENE（シーン）機能を使いこなす

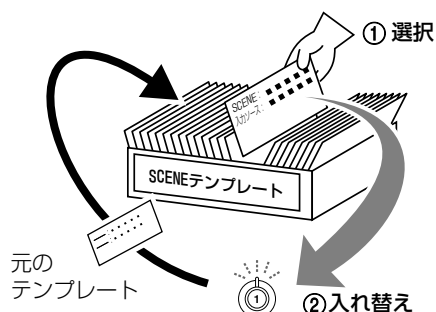
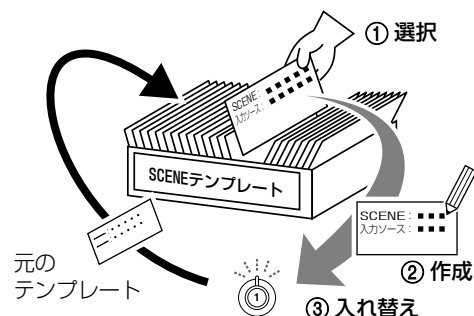
SCENE機能では、お好みに合わせて、SCENEキーで呼び出すSCENEテンプレート（SCENE機能で使用する雛形）を入れ替えたり、新しいテンプレートを作成したりすることができます。

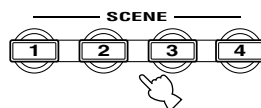
SCENE機能の基礎知識

通常の再生方法では、入力ソースと再生モード（音場プログラムやサラウンドデコードモード、ダイレクトステレオモード）に加え、必要に応じてナイトリスニングモードを別々に設定する必要があります。
SCENE機能では、これらの要素を組み合わせ、グループ化したものをSCENE1からSCENE4までのキーの中から１つを選択することで簡単に再生が楽しめます。
本機では、このグループ化したものを「SCENEテンプレート」と呼んでいます。本機には１５種類のSCENEテンプレートが記憶されており、１～４までのSCENEキーには、あらかじめ以下のテンプレートが設定されています。

SCENE 1：DVD Movie（ムービー） Viewing（ビューイング）
SCENE 2：Music（ミュージック） Disc（ディスク） Listening（リスニング）
SCENE 3：TV Viewing（ビューイング）
SCENE 4：Radio（ラジオ） Listening（リスニング）

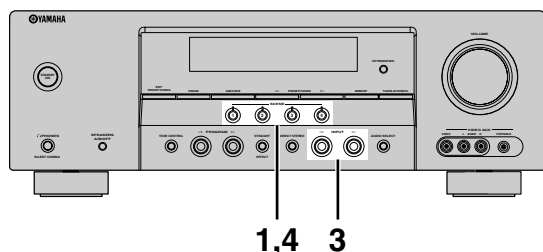
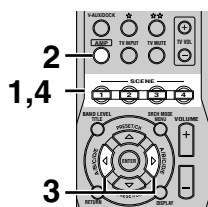
本機では、これらのSCENEテンプレートを別のテンプレートと入れ替えたり（図A）、新しいテンプレートを作成したり（図B）することで、お好みに合ったSCENEをすぐに呼び出せます。SCENEテンプレートの内容について詳しくは、「SCENEテンプレート一覧」(☞80ページ）をご覧ください。

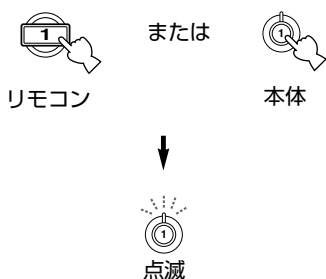
図A

図B

■ SCENEを選ぶ

リモコンのSCENEキー、または本体のSCENEキーを押す。
SCENEテンプレートで設定されている、入力ソースなどの各要素が呼び出されます。
本体SCENEキー上部のインジケーターが点灯します。

ご注意

- SCENE3を選んでテレビを見る場合は、本機のDTV/CBL音声入力端子とテレビの音声出力端子を接続してください(☞22ページ)。
- SCENE4を選んでFM／AM放送を聴く場合は、「FM／AM放送を聴く」で、放送局を受信してください(☞44ページ)。

SCENEテンプレートを入れ替える

工場出荷時にあらかじめ設定されているSCENEテンプレートを入れ替えます。

1 SCENEテンプレートを入れ替えたいリモコンのSCENEキー、または本体のSCENEキーを約３秒間押し続ける。

本体SCENEキーのインジケーターが点滅し、フロントパネルディスプレイに現在設定されているSCENEテンプレートが表示されます。

2 リモコンのAMPキーを押す。

3 リモコンの◁／▷キー、または本体のINPUT ◁／▷キーを繰り返し押して、テンプレートを選ぶ。

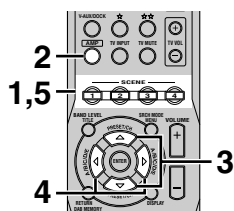
4 リモコンのSCENEキー、または本体のSCENEキーを押す。

SCENEテンプレートが入れ替わります。

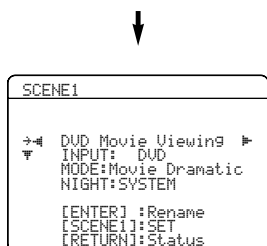
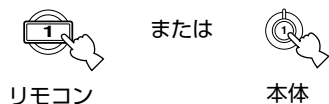
ヒント

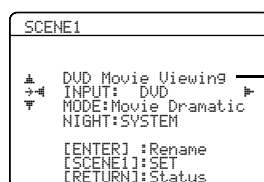
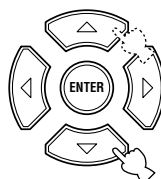
元のSCENEテンプレートから入力ソースを変更した場合は、「SCENEキーで呼び出す入力ソースを変更する」(☞97 ページ）でリモコンSCENEキーの設定を変更してください。

新しいSCENEテンプレートを作成する

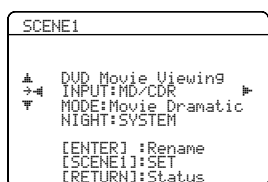
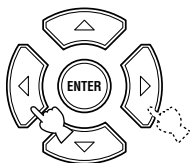
お好みに合ったSCENEテンプレートを新しく作成し、SCENE1～4キーで呼び出せるように設定します。新しいテンプレートは、本機に記憶されているテンプレートの中から作成したいSCENEテンプレートに似ているものを選び、それを編集して作成します。新しく作成したテンプレートは、編集したテンプレートとは別に記憶されます。

ヒント
- 編集したいテンプレートがSCENEキーに設定されていない場合は、「SCENEテンプレートを入れ替える」（☞76ページ）でテンプレートを入れ替えてから、新しいテンプレートを作成してください。
- テンプレートは最大4種類作成できます。作成したテンプレートはSCENE1～4キーに1つずつ設定できます。
- 新しく作成したテンプレートを元にさらに編集する場合は、内容が上書きされ、元の内容は消去されます。

1 編集したいテンプレートが設定されているリモコンのSCENEキー、または本体のSCENEキーを約3秒間押し続ける。

OSDに編集画面が表示されます。

2 リモコンのAMPキーを押す。

3 △／▽キーを繰り返し押して、編集する項目を選ぶ。

- **INPUT**：入力ソース設定
- **MODE**：再生モード設定
- **NIGHT**：ナイトリスニングモード設定
  - － SYSTEM: 現在の設定を保持します。
  - － CINEMA: ナイトリスニング・シネマモードで再生します。
  - － MUSIC: ナイトリスニング・ミュージックモードで再生します。

ヒント
ナイトリスニングモードについて詳しくは、「夜間に小音量で音声を楽しむ（ナイトリスニングモード）」（☞62ページ）をご覧ください。

4 ◁／▷キーを繰り返し押して、内容を編集する。

5 SCENEキーを押す。

新しいSCENEテンプレートが作成されます。新しく作成したテンプレートには、名前の前に「＊（アスタリスク）」が表示されます。

例： DVD Movie Viewing

*DVD Movie Viewing

ヒント

- 新しく作成したSCENEテンプレートを再編集した場合は、変更内容を上書きして保存します。
- 元のSCENEテンプレートから入力ソースを変更した場合は、「SCENEキーで呼び出す入力ソースを変更する」（☞97 ページ）でリモコンSCENEキーの設定を変更してください。

■ SCENE テンプレート名を変更する

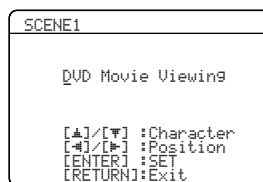
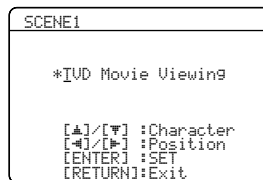
SCENEテンプレート名をお好みの名前に変更できます。

ヒント

SCENEテンプレート名の変更を中止する場合は、リモコンのRETURNキーを押します。

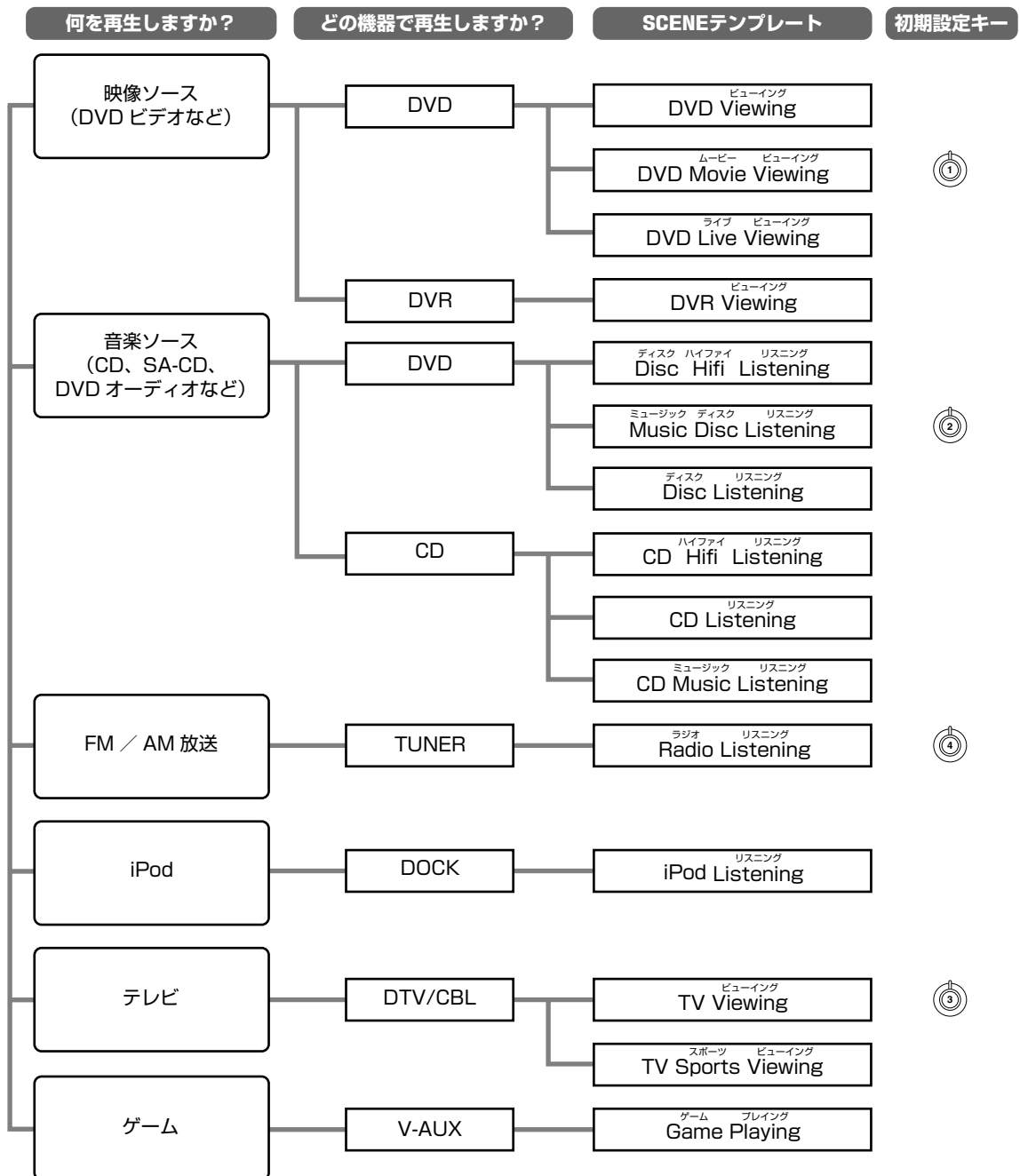
1 「新しいSCENEテンプレートを作成する」（☞77 ページ）の手順３で「SCENEテンプレート名」を選ぶ。

2 ENTERキーを押す。

3 ◁／▷キーを押して、変更したい文字の位置へ「＿」（下線）を動かす。

4 △／▽キーを押して文字を変更する。

5 手順３、４を繰り返す。

6 ENTERキーを押す。

新しい名前が設定されます。

■ SCENE テンプレートガイド

ヒント

- 各 SCENE テンプレートの内容について詳しくは、「SCENE テンプレート一覧」をご覧ください（☞80 ページ）。
- 本機で iPod の再生をお楽しみになるには、ヤマハ製ドック（別売 YDS-10 など）が必要です。
- 上記の SCENE テンプレートに加え、新しいテンプレートを最大４種類作成できます（☞77 ページ）。

■ SCENE テンプレート一覧

表中の灰色で示された部分は、SCENE1 ～４キーの初期設定を表わしています。

SCENE	入力ソース	再生モード	説明
DVD Viewing	DVD	STRAIGHT	DVD プレーヤーで DVD を見るときに選びます。
DVD Movie Viewing（SCENE1 初期設定）	DVD	Movie Dramatic	DVD プレーヤーで映画ソフトを見るときに選びます。
DVD Live Viewing	DVD	Pop/Rock	DVD プレーヤーで音楽ソフトを見るときに選びます。
DVR Viewing	DVR	Movie Dramatic	DVD レコーダーで映画を見るときに選びます。
Disc Hifi Listening	DVD	DIRECT STEREO	DVD プレーヤーで CD を最高の音質で聴くときに選びます。
Music Disc Listening（SCENE2 初期設定）	DVD	2ch Stereo	DVD プレーヤーで CD を２チャンネルで聴くときに選びます。
Disc Listening	DVD	5ch Stereo	DVD プレーヤーで CD を BGM として聴くときに選びます。
CD Hifi Listening	CD	DIRECT STEREO	CD プレーヤーで CD を最高の音質で聴くときに選びます。
CD Listening	CD	2ch Stereo	CD プレーヤーで CD を２チャンネルで聴くときに選びます。
CD Music Listening	CD	5ch Stereo	CD プレーヤーで CD を BGM として聴くときに選びます。
Radio Listening（SCENE4 初期設定）	TUNER	5ch Enhancer	FM/AM 放送を聴くときに選びます。
iPod Listening	DOCK(V-AUX)	5ch Enhancer	iPod を聴くときに選びます。
TV Viewing（SCENE3 初期設定）	DTV/CBL	STRAIGHT	テレビを見るときに選びます。
TV Sports Viewing	DTV/CBL	TV Sports	テレビでスポーツを見るときに選びます。
Game Playing *	V-AUX	Game	ゲームをするときに選びます。

* SCENE 機能を使って再生を楽しむ場合は、本機に接続したヤマハ製ドック（別売り YDS-10など）に iPod を接続しているときでも V-AUX を入力選択できます。

音場パラメーターを変更する

音場プログラムやサラウンドデコードモード、コンプレストミュージック・エンハンサーモードは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、音場パラメーターを変更することにより、ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果をアレンジできます。

ご注意

セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定しているとパラメーターを変更できません。変更する前に「OFF」に設定してください(☞95 ページ)。

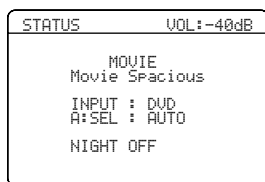
1 リモコンのAMPキーを押す。

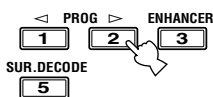
2 DISPLAYキーを押す。

OSDにSTATUS画面が表示されます(☞33 ページ)。

3 PROG ◁／▷キーを繰り返し押す、またはENHANCER、SUR. DECODEキーを押して、パラメーターを変更するプログラム／モードを選ぶ。

4 ∇キーを押す。

音場パラメーターが表示されます。

5 ∆／∇キーを押して、変更したいパラメーターを選ぶ。

6 ◁／▷キーを押して、設定値を変更する。

ヒント

セットメニュー「PARAM. INI」で、すべてのパラメーターを初期設定に戻せます(☞95 ページ)。

音場パラメーターガイド

以下の音場パラメーターの設定を変更できます。セットメニュー「SPEAKER SET」（☞85 ページ）の設定や選んでいる音場プログラム（☞52 ページ）により、設定できる項目は変化します。

■ MUSIC ／ MOVIE ／ ENTERTAIN 用

＜ DSP LEVEL（エフェクト量の調節）＞

エフェクト量（音場効果のかかり具合）を微調節するパラメーターです。視聴環境にあわせて、直接音のレベルを確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。

選択項目： MIN（弱）、MID（中）、MAX（強）

初期設定： MID

■ MUSIC ENHANCER 用

＜効果レベルの調節＞

高音域／低音域を拡張するレベルを調節するパラメーターです。「LOW」にすると効果レベルは弱くなり、「HIGH」にすると強くなります。

選択項目： LOW、HIGH

初期設定： HIGH

■ PRO LOGIC II Music 用

＜ PANORAMA（フロント音場の広がり感の調節）＞

フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。フロント左／右の音声を左右に大きく回り込ませることで、サラウンド音場につながるような広がり感を得られます。

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

＜ DIMENSION（フロント音場とサラウンド音場のレベル差の調節）＞

フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じる、フロントとサラウンドのレベル差を調節して、好みのバランスにすることができます。－（マイナス）にするとサラウンド側、＋（プラス）にするとフロント側が強くなります。

可変範囲： －３～ STD（標準）～＋３

初期設定： STD

＜ CENTER WIDTH（センター音声の広がりの調節）＞

センター音声の左右への広がりを調節するパラメーターです。センターからの音声を、好みに合わせて左右に振り分けられます。「0」にするとセンターのみ、「7」にするとフロント左／右のみからセンター音声が出力されます。

可変範囲： ０～７

初期設定： ３

セットメニュー一覧

本機では、お使いのシステムで最適な音声や映像をお楽しみいただけるように、セットメニューで設定を変更できます。お使いの視聴環境にあわせて設定を変更してください。

AUTO SETUP

本機に搭載の「YPAO」により、お使いになるスピーカーの配置や性能、お部屋の音響特性を測定し、最適な視聴空間を自動的に設定します。
「AUTO SETUP」の設定方法については34 ページをご覧ください。

MANUAL SETUP

「MANUAL SETUP」は、以下のように用途、機能別に３つのカテゴリーに分類されています。

■ SOUND MENU

スピーカーの音量や音色の調節など、音声の出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。

A）SPEAKER SET（☞85 ページ）

ご使用になるスピーカーに合わせて、サイズや有無などを設定します。

B）SP LEVEL（☞87 ページ）

各スピーカーからの出力レベルを設定します。

C）SP DISTANCE （☞88 ページ）

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

D）CENTER GEQ （☞88 ページ）

グラフィックイコライザーを使って、センタースピーカーの音色を調節します。

E）LFE LEVEL （☞89 ページ）

ドルビーデジタル、DTS および AAC での LFE（低域効果音）信号の再生レベルを調節します。

F）D. RANGE （☞89 ページ）

ドルビーデジタルおよび DTS 再生時のダイナミックレンジを調節します。

G）AUDIO SET （☞90 ページ）

ミュート時の音量、音声と映像のずれの補正、最大音量や電源オン時の音量、AAC モノラル音声の出力を設定します。

■ INPUT MENU

入出力端子の割り当て変更など、信号の入出力に関して以下のメニューを設定、変更できます。

A）I/O ASSIGNMENT （☞91 ページ）

接続する機器が、本機の入出力端子に記載されている機器と異なる場合に、機器に合わせて端子を割り当てます。

B）INPUT RENAME （☞92 ページ）

OSD 画面やフロントパネルディスプレイに表示する入力ソース名を変更します。

C）VOLUME TRIM（☞92 ページ）

各入力ソースの音声出力レベルを調節します。

D）DECODER MODE （☞93 ページ）

電源を入れたときに再生するデジタル信号を設定します。

E）MULTI CH SET （☞93 ページ）

バックグラウンドビデオ機能で MULTI CH INPUT 端子からの音声と一緒に再生を楽しむ映像ソースを選択します。

■ OPTION MENU

「SOUND MENU」、「INPUT MENU」以外にも以下のいろいろなメニューを設定、変更できます。

A）DISPLAY SET （☞94 ページ）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節します。

B）MEMORY GUARD （☞95 ページ）

変更した設定値を保護します。

C）AUDIO SELECT（☞95 ページ）

音声信号を入力する端子を設定します。

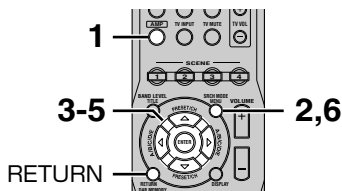
D）PARAM. INI （☞95 ページ）

音場パラメーターを初期設定に戻します。

SIGNAL INFO

入力信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。詳しくは「入力信号情報を表示する」（☞67 ページ）をご覧ください。

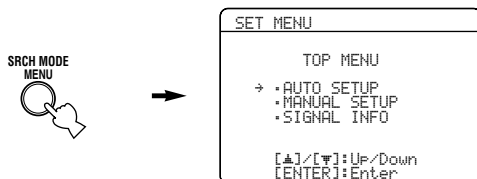
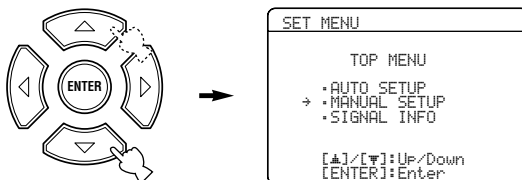
セットメニューの操作手順

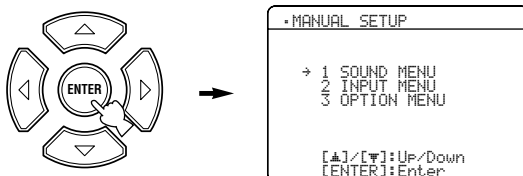
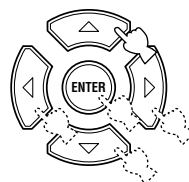
セットメニューの操作について説明します。セットメニューはリモコンで操作します。セットメニューの各項目の詳細については85～95 ページをご覧ください。

ヒント

- 再生中にセットメニューで設定を変更する場合は、背景画面が灰色無地に切り替わります。
- セットメニュー操作中に1つ前のメニュー表示に戻りたい場合は、リモコンのRETURNキーを押します。
- AUTO SETUPでの設定値や、工場出荷状態に戻したい場合は、「設定値を以前の状態に戻す」をご覧ください(☞38 ページ)。

1 リモコンのAMPキーを押す。

2 MENUキーを押す。

SET MENU画面が表示されます。

3 △／▽キーを押して、「MANUAL SETUP」を選ぶ。

4 ENTERキーを押す。

MANUAL SETUP画面が表示されます。

5 △／▽／◁／▷／ENTERキーを繰り返し押して、設定を変更する。

6 セットメニューを終了するときは、MENUキーを押す。

音声出力の設定を変更する（SOUND MENU）

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定を行います。SOUND MENUの項目には、AUTO SETUPですでに自動的に設定されているものもあります。

スピーカーのサイズなどを設定する（SPEAKER SET）

お使いになるスピーカーにあわせて、スピーカーのサイズ、有無などを設定します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SPEAKER SET）

＜FRONT B＞

```
1 SOUND MENU
    A)SPEAKER SET
    FRONT B····FRONT

    [▲]/[▼]:Up/Down
    [◀]/[▶]:Select
```

リアパネルのFRONT B端子に接続したスピーカー（フロントBスピーカー）の設置場所を設定します。

選択項目： FRONT、ZONE B

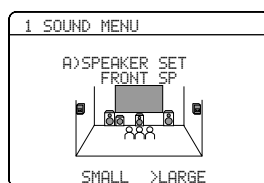
初期設定： FRONT

メインリスニングルームに設置する場合：
「FRONT」を選択します。本体の SPEAKERS A/B/OFF キーでスピーカー A と B を使い分けてください。

別の部屋（ルーム B）に設置する場合：
「ZONE B」を選択します。本体の SPEAKERS A/B/OFF キーでスピーカー A の出力をオフ、スピーカー B の出力をオンにすると、メインリスニングルームに設置しているすべてのスピーカーから音が出なくなります。

ヒント

- 「ZONE B」に設定した場合、本機のPHONES端子にヘッドホンを差し込むと、ヘッドホンとスピーカーBの両方から音声が出力されます。
- 「ZONE B」に設定し、スピーカーAをオフ、スピーカーBをオンにした場合、音場プログラムを選んで音場効果をかけると、自動的にバーチャルシネマDSPが選択されます。

＜FRONT SP＞

フロント左／右スピーカーのサイズを設定します。

選択項目： SMALL（小）、LARGE（大）

初期設定： LARGE

ウーファーの口径が 16cm 未満のフロントスピーカーを使用する場合：
「SMALL」を選択します。

ウーファーの口径が 16cm 以上のフロントスピーカーを使用する場合：
「LARGE」を選択します。

ヒント

「LFE/BASS OUT」が「FRNT」に設定されている場合は、「LARGE」のみ選択できます。また、「SMALL」に設定している場合でも、「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に変更すると、設定は自動的に「LARGE」に変更されます。

＜CENTER SP＞

センタースピーカーのサイズ、有無を設定します。

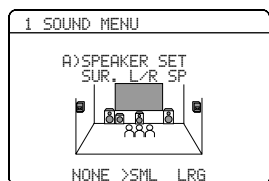
選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

初期設定： SML

センタースピーカーを使用しない場合：
「NONE」を選択します。センターチャンネル信号は、フロント左／右スピーカーに同じ音量レベルで振り分けられます。

ウーファーの口径が 16cm 未満のセンタースピーカーを使用する場合：
「SML」を選択します。

ウーファーの口径が 16cm 以上のセンタースピーカーを使用する場合：
「LRG」を選択します。

＜SUR. L/R SP＞

サラウンド左／右スピーカーのサイズ、有無を設定します。

選択項目： NONE（なし）、SML（小）、LRG（大）

初期設定： SML

サラウンド左／右スピーカーを使用しない場合：
「NONE」を選択します。この設定にすると、自動的にバーチャルシネマ DSP が選択され、サラウンド左／右チャンネル信号はフロント左／右スピーカーにそれぞれ振り分けられます。

ウーファーの口径が16cm未満のサラウンド左／右スピーカーを使用する場合：
「SML」を選択します。

ウーファーの口径が16cm以上のサラウンド左／右スピーカーを使用する場合：
「LRG」を選択します。

＜LFE/BASS OUT＞

LFE 信号や低音域成分を出力するスピーカーを設定します。LFE 信号とは、ドルビーデジタルやDTS、AACの音声に含まれる120Hz以下の低域効果音のことです。

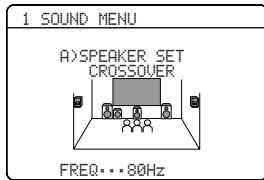
選択項目： SWFR（サブウーファー）、
FRNT（フロント）、BOTH（両方）

初期設定： BOTH

サブウーファーを接続して、自然な再生を楽しみたい場合：
「SWFR」に設定します。LFE 信号と、「SPEAKER SET」で「SML（SMALL）」に設定した各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。

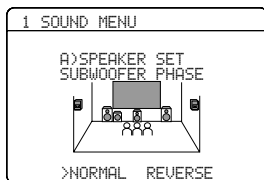
サブウーファーを接続しない場合：
「FRNT」に設定します。LFE 信号とフロント左／右チャンネル、および「SPEAKER SET」で「SML」に設定した各チャンネルの低音域がフロント左／右スピーカーから出力されます。

サブウーファーを接続していて、より豊かな低音を楽しみたい場合：
「BOTH」に設定します。LFE 信号と、「SPEAKER SET」で「SML」に設定した、フロント左／右以外の各チャンネルの低音域がサブウーファーから出力されます。フロント左／右チャンネルの低音域は、「FRONT SP」の設定にかかわらずフロント左／右スピーカーとサブウーファーから出力されます。CDを再生するときに、サブウーファーを使って低音域を補強したい場合などに設定すると効果的です。

＜CROSSOVER＞

サブウーファーに出力する低音域成分の、周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分が、サブウーファーまたはフロント左／右スピーカーに出力されます。

選択項目： 40Hz、60Hz、80Hz、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz

初期設定： 80Hz

＜SUBWOOFER PHASE＞

お使いになるサブウーファーの位相を設定します。音色の好みに合わせて切り替えてください。

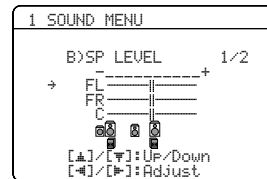
選択項目： NORMAL（正相）、REVERSE（逆相）

初期設定： NORMAL

NORMAL：サブウーファーの位相を逆転しません。

REVERSE：サブウーファーの位相を逆転します。

スピーカーの音量を調節する（SP LEVEL）

リスニングポジションで聞こえる各スピーカーの音量が同じになるように、それぞれのスピーカーの音量をテストトーンを聴きながら個別に調節します。
「SPEAKER SET」の設定により、選択できるスピーカー項目は変化します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→SP LEVEL）

＜FL～SWFR＞

可変範囲： －10.0～＋10.0dB

初期設定： 0.0dB

表示	スピーカー
FL	フロント左
FR	フロント右
C	センター
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
SWFR	サブウーファー

視聴空間をより細かく設定する（セットメニュー）

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定する（SP DISTANCE）

各スピーカーからの音が同時にリスニングポジション（視聴位置）に届くように、スピーカーから音が出るタイミングを調節します。音が出るタイミングは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を設定することで調節されます。
「SPEAKER SET」の設定により、選択できるスピーカー項目は変化します。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→
SP DISTANCE）

＜UNIT＞

設定時に使用する距離の単位を選びます。

選択項目： meters（m）、feet（ft）

初期設定： meters

＜FRONT L～SWFR＞

可変範囲： 0.30 ～ 24.00m、1.0 ～ 80.0ft

初期設定： 3.00m、10.0ft

表示	スピーカー
FRONT L	フロント左
FRONT R	フロント右
CENTER	センター
SUR. L	サラウンド左
SUR. R	サラウンド右
SWFR	サブウーファー

センタースピーカーの音色を調節する（CENTER GEQ）

各周波数帯のレベルを手動で調節して、センタースピーカーの音色をフロント左スピーカーに合わせます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→
CENTER GEQ）

＜TEST＞

「ON」を選ぶと、テストトーンを使って、センタースピーカーの音色を調節することができます。調節は、フロント左スピーカーとセンタースピーカーから出力されるテストトーンの音色を比較して行います。

選択項目： OFF、ON

初期設定： OFF

∆／∇キーを押して周波数帯を選び、⊲／⊳キーでレベルを調節します。

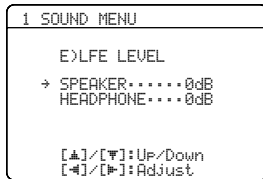
周波数帯域： 100Hz、300Hz、1kHz、3kHz、10kHz

可変範囲： －6.0 ～＋6.0dB

初期設定： 0.0dB

低域効果音の音量を調節する（LFE LEVEL）

ドルビーデジタル、DTSおよびAAC信号に含まれる、LFE（低域効果音）の音量を調節します。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に調節できます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→LFE LEVEL）

```
1 SOUND MENU
  E)LFE LEVEL
→ SPEAKER‥‥‥0dB
  HEADPHONE‥‥0dB
  [▲]/[▼]:Up/Down
  [◀]/[▶]:Adjust
```

＜SPEAKER＞

スピーカーで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

可変範囲： －20～0dB

初期設定： 0dB

＜HEADPHONE＞

ヘッドホンで音を聴く場合のLFEの音量を調節します。

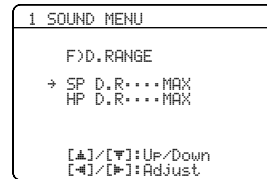
可変範囲： －20～0dB

初期設定： 0dB

ご注意

- お使いになるサブウーファーやヘッドホンの性能に応じて調節してください。
- 「LFE LEVEL」の設定によっては、サブウーファーから音が出ない場合があります。

ダイナミックレンジを設定する（D. RANGE）

ドルビーデジタル／DTS再生時のダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの幅）を、3段階から選びます。スピーカーで音を聴く場合と、ヘッドホンで音を聴く場合を個別に選べます。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→D. RANGE）

＜SP＞

スピーカーで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

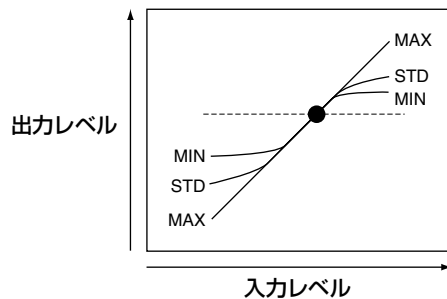
選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定： MAX

＜HP＞

ヘッドホンで音を聴く場合のダイナミックレンジを選びます。

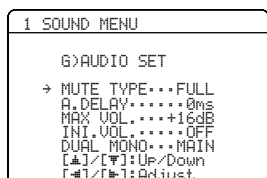
選択項目： MIN（最小）、STD（標準）、MAX（最大）、

初期設定： MAX

MIN：小音量でも聴きやすく、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

STD：一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジです。

MAX：入力された信号をそのままの迫力で再生するダイナミックレンジです。

その他の音声出力を設定する（AUDIO SET）

音声と映像のずれを補正したり、AACモノラル音声の出力を設定したりします。
（MANUAL SETUP→SOUND MENU→AUDIO SET）

＜MUTE TYPE＞

ミュート（消音）時に下げる音量を調節します。

選択項目： FULL、－ 20dB

初期設定： FULL

FULL：完全に消音し、無音にします。

－ 20dB：いま聴いている音量よりも、20dB 下げて再生します。

＜A. DELAY＞

液晶テレビやHD対応テレビなどで、デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。

可変範囲： 0 ～ 160ms

初期設定： 0ms

＜MAX VOL.＞

音量が誤って上がり過ぎないように、音量の最大値を設定します。初期設定値では、最大音量まで出力します。音量の最大値を設定しない場合は、「+16dB」に設定してください。

選択項目： ＋16dB、+10dB、+5dB、0dB、－ 5dB、－ 10dB、－ 15dB、－ 20dB、－ 25dB、－ 30dB

初期設定： ＋16dB

ヒント

- 「MAX VOL.」の設定値まで音量を上げると、フロントパネルディスプレイに「VOLUME MAX」と表示されます。
- 「INI.VOL.」よりも「MAX VOL.」の値を小さく設定した場合は、「MAX VOL.」の設定が優先されます。

＜INI.VOL.＞

電源をオンにしたときの音量を設定します。「OFF」に設定すると、前回電源をオフにしたときの音量で再生します。

選択項目： OFF、－ 80dB ～＋16dB

初期設定： OFF

ご注意

「INI.VOL.」よりも「MAX VOL.」の値を小さく設定した場合は、「MAX VOL.」の設定が優先されます。

＜DUAL MONO＞

BS ／地上波デジタル放送などで使われている、モノラル二重音声入力時に、どの音声を出力するか設定します。

選択項目： MAIN（主音声）、SUB（副音声）、ALL（主音声＋副音声）

初期設定： MAIN

ご注意

- モノラルでない二重音声出力は、本機では設定できません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- AAC、ドルビーデジタル信号の二重音声（デュアルモノ）信号およびAACの音声多重（マルチモノ）信号受信時のみ、設定が有効になります。ただし、AAC多重音声の第３、第４チャンネルは選べません。BSデジタルチューナー側で設定してください。
- 地上波放送などのアナログやPCM信号での二重音声は、チューナーやビデオデッキ側で主音声／副音声を選んでください。

入出力の設定を変更する（INPUT MENU）

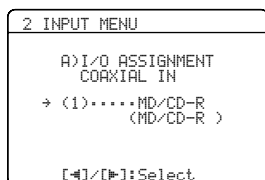
入出力端子の割り当てや入出力信号などに関する設定を変更します。

入出力端子の割り当てを変更する（I/O ASSIGNMENT）

お使いになる機器と、本機のデジタル入出力端子の機器名が異なる場合に、お使いになる機器に合わせて端子を割り当てられます。割り当てを変更すれば、入力選択したい機器名と、リモコンの入力選択キーに記載されているソース名やフロントパネルディスプレイに表示される入力ソース名を一致させられます。
(MANUAL SETUP→INPUT MENU→
I/O ASSIGNMENT)

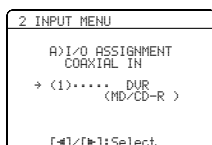
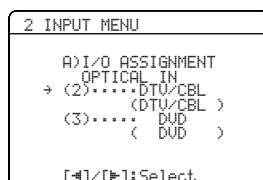
「例」では、各端子にDVDレコーダーを接続し、割り当てを「DVR」に変更する場合を説明しています。変更後は入力選択キーの「DVR」を押すと、DVDレコーダーを選べます。

＜COAXIAL IN （1）＞

```
2 INPUT MENU
  A)I/O ASSIGNMENT
    COAXIAL IN
 → (1)·····MD/CD-R
          (MD/CD-R )

  [◄]/[►]:Select
```

同軸デジタル入力端子の割り当てを変更します。

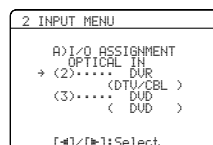
選択項目： DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、CD

初期設定： MD/CD-R

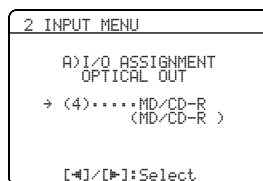
例：同軸デジタル入力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、（1）の設定を「DVR」に変更します。

＜OPTICAL IN（2）／（3）＞

光デジタル入力端子の割り当てを変更します。

選択項目： DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、CD

初期設定： （2）DTV/CBL
（3）DVD

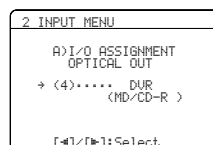
例：光デジタル入力（DTV/CBL）端子にDVDレコーダーを接続した場合、（2）の設定を「DVR」に変更します。

ご注意

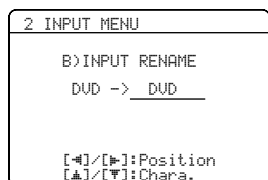
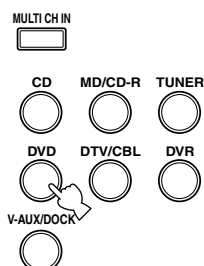
（1）／（2）／（3）には同じ選択項目を設定できません。

＜OPTICAL OUT （4）＞

光デジタル出力端子の割り当てを変更します。

選択項目： DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD、MD/CD-R、CD

初期設定： MD/CD-R

例：光デジタル出力（MD/CD-R）端子にDVDレコーダーを接続した場合、設定を「DVR」に変更します。

入力に名前をつける（INPUT RENAME）

リモコンの入力選択キーや本体のINPUT◁／▷キーで選ぶ入力に名前をつけて、フロントパネルディスプレイやOSD画面に表示できます。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→INPUT RENAME）

1 **リモコンの入力選択キーまたは MULTI CH INキーを押して、名前を変更したい入力を選ぶ。**

2 **AMPキーを押す。**

3 **◁／▷キーを押して、変更したい文字の位置へ「_」（下線）を動かす。**

4 **△／▽キーを押して文字を変更する。**

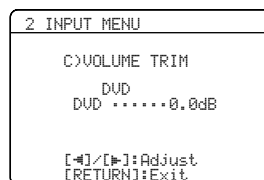
▽キーを押すと、以下の順序で文字や記号が表示されます。△キーを押すと逆の方向へ戻ります。
A～Z→（スペース）→0～9→（スペース）→a～z→（スペース）→記号（#、*、+など）

5 **手順3、4を繰り返す。**

最長8文字の名前をつけられます。

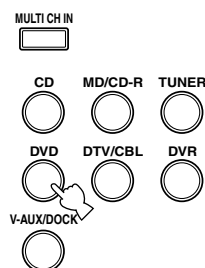
6 **ENTERキーを押して終了する。**

入力ごとの音量差を補正する（VOLUME TRIM）

入力ソースによって異なる音量のばらつきを補正します。これにより、入力を切り替えるたびに音量を微調整する必要がなくなります。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→VOLUME TRIM）

選択項目： CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DTV/CBL、V-AUX（DOCK）、DVR、MULTI CH

可変範囲： －6.0～＋6.0dB

初期設定： 0.0dB

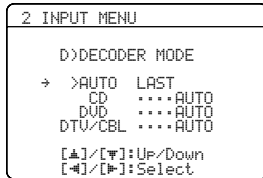
1 **リモコンの入力選択キーまたはMULTI CH INキーを押して、音量差を補正したい入力を選ぶ。**

2 **AMPキーを押す。**

3 **◁／▷キーを押して、補正する音量を調節する。**

4 **ENTERキーを押して終了する。**

入力するデジタル信号を設定する（DECODER MODE）

本機の電源をオンにしたときに、デジタル接続された外部機器から入力するデジタル信号を設定します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→DECODER MODE）

```
2 INPUT MENU

   D)DECODER MODE

 → >AUTO  LAST
     CD   ····AUTO
    DVD   ····AUTO
  DTV/CBL ····AUTO

  [▲]/[▼]:Up/Down
  [◀]/[▶]:Select
```

選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：電源をオンにしたときに、下記入力ソース別の設定をすべて「AUTO」に戻します。

LAST：前回電源をオフにしたときに入力していたデジタル信号を再生します。

△／▽キーを押して入力ソースを選び、◁／▷キーで、入力するデジタル信号を設定します。入力ソースは、「I/O ASSIGNMENT」の「COAXIAL IN」および「OPTICAL IN」で各端子に割り当てられているソースのみ選択できます。

入力ソース：CD、MD/CD-R、DVD、DTV/CBL、V-AUX、DVR

選択項目： AUTO、DTS、AAC

初期設定： AUTO

AUTO：入力するデジタル信号を自動的に選択します。

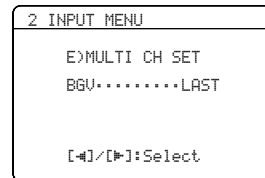
DTS：DTS 信号を再生します。

AAC：AAC 信号を再生します。

■ DTS CD ／ DTS LD の再生について

- DTS CD、DTS LD を再生するときは、「DECODER MODE」を「DTS」に設定してください。
- プレーヤーから出力されるデジタル信号に、音量可変などの処理がされている場合は、本機とプレーヤーをデジタル接続しても DTS 音声は再生されません。

バックグラウンドビデオ機能の映像を設定する（MULTI CH SET）

バックグラウンドビデオ機能（☞63 ページ）で MULTI CH INPUT 端子からの音声と一緒に映像も楽しむ場合に、再生する映像ソースを設定します。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→MULTI CH SET）

選択項目： LAST、DVR、V-AUX、DTV/CBL、DVD

初期設定： LAST

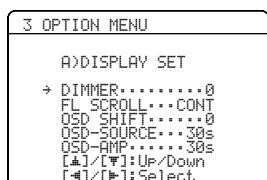
LAST：前回選んだ映像ソースを再生します。

DVR ～ DVD：選んだ映像ソースを再生します。

その他の設定を変更する（OPTION MENU）

お好みに合わせて表示の設定を変更したり、変更した設定値を保護したりすることができます。

表示の設定を変更する（DISPLAY SET）

フロントパネルディスプレイの明るさなどを調節します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→DISPLAY SET）

＜DIMMER＞

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを調節します。
数値が小さいほど表示が暗くなり、数値が大きいほど表示が明るくなります。

可変範囲： －４～０

初期設定： ０

＜FL SCROLL＞

本機に接続したヤマハ製ドック（別売YDS-10など）にセットしたiPodを再生するときに、１４文字を超える曲名のフロントパネルディスプレイへの表示方法を設定します。

選択項目： CONT、ONCE

初期設定： CONT

CONT：すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。

ONCE：すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から14文字目までを表示します。

＜OSD SHIFT＞

OSDを表示する上下位置を調節します。

選択項目： －５（上方）～＋５（下方）

初期設定： ０

＜OSD-SOURCE＞

メニュー表示モードでiPodを操作しているときのOSD画面の表示時間を設定します。

選択項目： 10s、30s、ON

初期設定： 30s

10s：OSD画面を10秒間表示します。

30s：OSD画面を30秒間表示します。

ON：OSD画面を継続して表示します。

＜OSD-AMP＞

アンプ機能を操作しているときのOSD画面の表示時間を設定します。

選択項目： 10s、30s、ON

初期設定： 30s

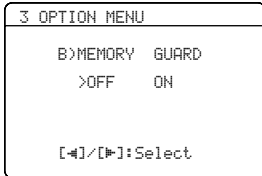
10s：OSD画面を10秒間表示します。

30s：OSD画面を30秒間表示します。

ON：OSD画面を継続して表示します。

変更した設定値を保護する（MEMORY GUARD）

誤操作による設定値の変更を防止します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→
MEMORY GUARD）

```
3 OPTION MENU
  B)MEMORY  GUARD
    >OFF    ON

  [◄]/[►]:Select
```

選択項目： ON、OFF

初期設定： OFF

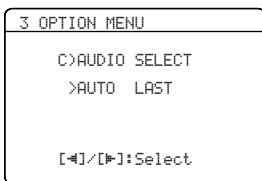
「ON」に設定すると、以下の設定が保護されます。
- 音場パラメーターの設定
- 「MEMORY GUARD」以外のセットメニューの設定
- 各スピーカーの音量レベル
- SCENEテンプレートの設定

ご注意

「ON」に設定すると、「MEMORY GUARD」以外のセットメニュー項目を設定、変更できません。

音声を入力する端子を設定する（AUDIO SELECT）

１つの機器を複数の方法で音声接続している場合に、本機の電源をオンにしたときに音声を入力する端子を設定します。入力端子について詳しくは、「デジタル信号／アナログ信号を切り替える（入力モード切り替え）」（☞64 ページ）をご覧ください。
（MANUAL SETUP→INPUT MENU→
AUDIO SELECT）

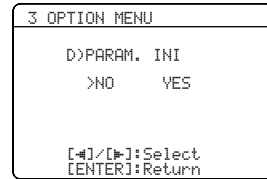
```
3 OPTION MENU
  C)AUDIO SELECT
   >AUTO  LAST

  [◄]/[►]:Select
```

選択項目： AUTO、LAST

初期設定： AUTO

AUTO：音声入力端子を自動的に選択します。

LAST：前回音声を入力した端子を選択します。

音場パラメーターを初期化する（PARAM. INI）

変更した音場パラメーター（☞81 ページ）を、初期設定に戻します。
（MANUAL SETUP→OPTION MENU→
PARAM. INI）

選択項目： NO、YES

初期設定： NO

NO：音場パラメーターを初期化しません。

YES：音場パラメーターを初期化します。

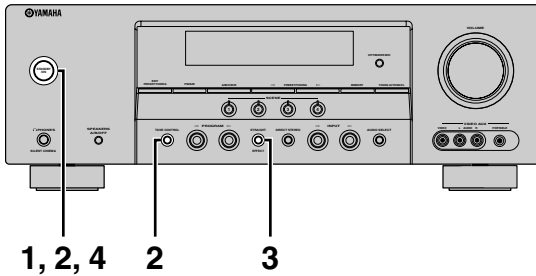
ご注意

- 一度初期化すると、初期化前の状態には戻せません。誤って初期化してしまったときのために、パラメーターを変更したときは記録しておいてください。
- 音場プログラムごとに初期設定に戻すことはできません。
- 「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している場合は、初期設定に戻せません。

すべての設定を初期設定に戻す

変更したセットメニューの設定や音場パラメーター、登録（プリセット）されたFM／AM放送局などをすべて初期設定に戻します。

ご注意

- 操作をしているあいだは、本機から音が出なくなります。
- 操作をはじめると、本体のSTANDBY/ONスイッチ、TONE CONTROLキー、STRAIGHT／EFFECTキー、PROGRAM ⊲／⊳キー以外は機能しなくなります。

1 本体のSTANDBY/ONスイッチを押して、本機の電源をスタンバイにする。

2 TONE CONTROLキーを押しながら、もう一度STANDBY/ONスイッチを押す。

本機の電源がオンになり、フロントパネルディスプレイに「PRESET − CANCEL」と表示されます。

押しながら

3 STRAIGHT／EFFECTキーを押して、「CANCEL」または「RESET」を選ぶ。

CANCEL：初期設定に戻しません。
RESET：すべての設定を初期設定に戻します。

4 STANDBY/ONスイッチを押す。

「CANCEL」を選んだ場合は初期設定に戻らずに、本機の電源はそのままスタンバイになります。
「RESET」を選んだ場合は、次回電源をオンにしたときにすべての設定が初期設定に戻ります。

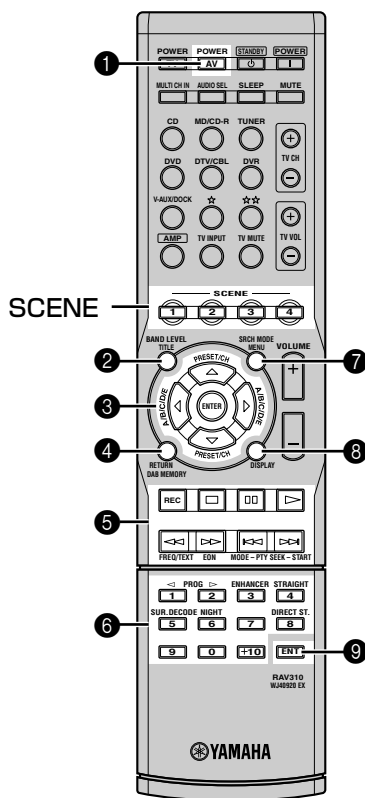
SCENE（シーン）機能でのリモコンの役割と設定について

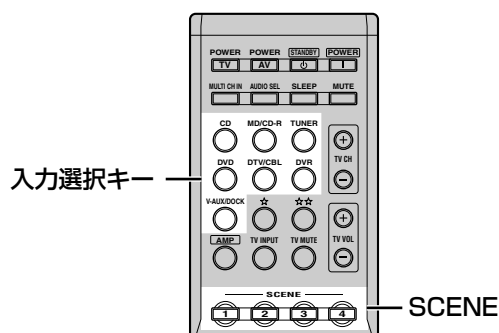
SCENE 機能で使用できるリモコンキーや、SCENE テンプレートの入れ替えや新規作成後のリモコン設定の変更について説明します。

ヒント

SCENE 機能について詳しくは、「SCENE 機能の基礎知識」をご覧ください（☞75 ページ）。

SCENE 機能で使用できるキーについて

SCENE 機能で楽しむ外部機器のリモコンコードを設定すれば、本機のリモコンを使って外部機器を操作できます。各キーの機能について詳しくは、「各キーの機能について」（☞100 ページ）を、また、リモコンコードの設定方法について詳しくは、「リモコンで操作する機器を設定する」（☞101 ページ）をご覧ください。

SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更する

「SCENE テンプレートを入れ替える」（☞76 ページ）や「新しいSCENE テンプレートを作成する」（☞77 ページ）で、各SCENE キーで呼び出す入力ソースを変更した場合に、変更後もリモコンで入力ソースを操作できるようにSCENE キーの設定を変更します。

設定を変更するリモコンのSCENEキーを押しながら、SCENEテンプレートで設定されている入力ソースの入力選択キーを約3秒間押し続ける。

たとえば、SCENE1 で呼び出すテンプレートの入力ソースをCD に変更した場合は、SCENE1 キーを押しながらCD キーを押します。

そのまま本機のリモコンを使って外部機器を操作する場合は、再度SCENE キーを押してから操作してください。

リモコンを使いこなす

リモコンで本機を操作する

リモコンでの本機の操作方法や、使用するキーについて説明します。

アンプ機能を操作する

アンプ機能の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。点線で囲まれたキーは、AMPキーを押したときにアンプ機能を操作できます。各キーの機能について詳しくは、「アンプ機能の操作」（☞11ページ）をご覧ください。

＊ TUNER キーを押すと、リモコンはチューナー機能操作用に切り替わります。

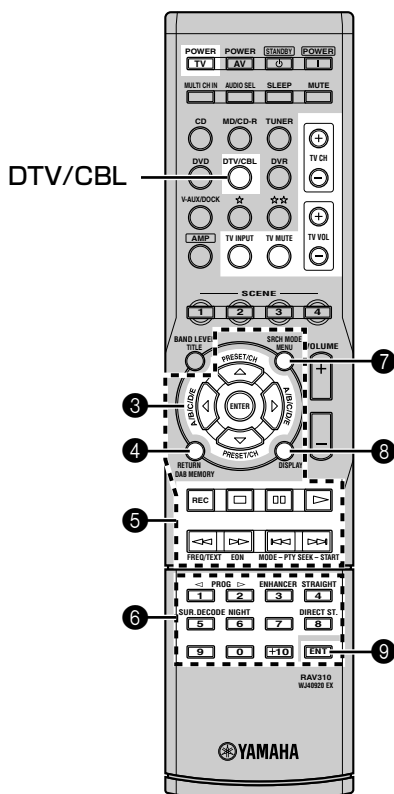
チューナー機能を操作する

チューナー機能の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。チューナー機能を操作するときは、最初にTUNERキーを押します。各キーの機能について詳しくは、「チューナー機能の操作」（☞12 ページ）をご覧ください。

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

リモコンコードを設定すれば、本機のリモコンでテレビを操作したり、本機に接続した他の機器を操作したりすることができます。リモコンコードの設定について詳しくは、「リモコンで操作する機器を設定する」(☞101 ページ)をご覧ください。

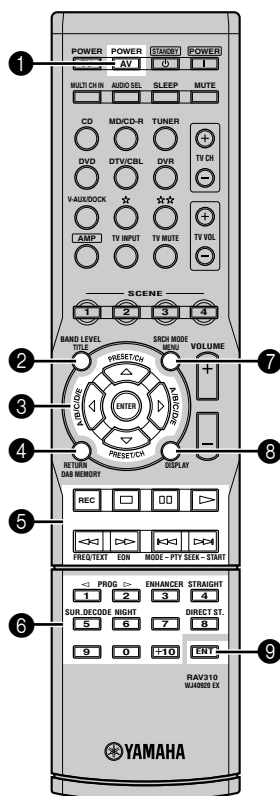
テレビを操作する

DTV/CBL キーにテレビのリモコンコードを設定すれば(☞101 ページ)、本機のリモコンをテレビ用のリモコンとしても使用できます。テレビの操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。点線で囲まれたキーは、DTV/CBL キーを押したときにテレビを操作できます。各キーの機能について詳しくは、次ページ表中の「テレビ」欄をご覧ください。

TV POWER：テレビの電源を切り替えます。
TV CH +/ –：テレビのチャンネルを切り替えます。
TV VOL +/ –：テレビの音量を操作します。
TV INPUT：テレビの入力を切り替えます。
TV MUTE：テレビの音量を一時的に消音します。

他の機器を操作する

各入力選択キーに他の機器のリモコンコードを設定すれば(☞101 ページ)、本機のリモコンでそれらの機器を操作できます。他の機器を操作したいときは、操作したい機器の入力選択キーを押します。他の機器の操作に使うキーは、下図の白色で示した部分です。各キーの機能について詳しくは、次ページの表をご覧ください。

ヒント

工場出荷時、CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DVR、V-AUX/DOCK キーにはヤマハ機器のリモコンコードがあらかじめ設定されています。

ご注意

- お使いの機器によっては、いくつかのキーが機能しないことがあります。このような場合は、お使いの機器に付属するリモコンをお使いください。
- お使いの機器によっては、キー操作と次ページ表中の説明が一致しないことがあります。

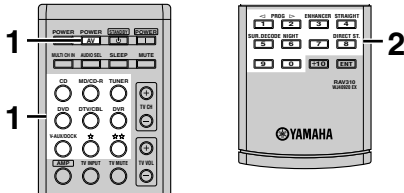
■ 各キーの機能について

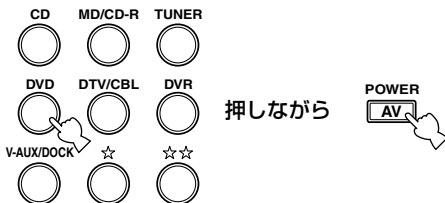
本機のリモコンにリモコンコードを設定したときに使用できるキーの機能一覧です。

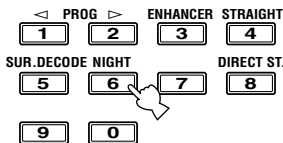
機器 リモコンのキー	テレビ	ビデオデッキ	DVD プレーヤー／ DVD レコーダー	LD プレーヤー	CD プレーヤー	CD レコーダー／ MD レコーダー	チューナー
❶ AV POWER	POWER[*1]	POWER[*2]	POWER[*2]	POWER[*2]	POWER[*2]	POWER[*2]	–
❷ TITLE	–	–	タイトルメニュー	–	–	–	バンド切り替え
❸ PRESET/CH △	選択 (上へ)	チャンネル選択 (＋)	選択 (上へ)	–	–	–	登録局 (1 ～ 8) 選択 (＋)
PRESET/CH ▽	選択 (下へ)	チャンネル選択 (–)	選択 (下へ)	–	–	–	登録局 (1 ～ 8) 選択 (–)
▷	選択 (右へ)	–	選択 (右へ)	–	–	–	プリセットグループ選択 (A→E)
◁	選択 (左へ)	–	選択 (左へ)	–	–	–	プリセットグループ選択 (A←E)
ENTER	メニュー決定	–	メニュー決定	–	–	–	–
❹ RETURN	前の画面へ戻る	–	前の画面へ戻る	–	–	–	–
❺ REC	録画[*1]	録画	(プレーヤー) ディスクスキップ (レコーダー) 録画	–	ディスクスキップ	(MD) 録音	–
▷	再生[*1]	再生	再生	再生	再生	再生	–
◁◁	巻戻し[*1]	巻き戻し	早戻し	早戻し	早戻し	早戻し	–
▷▷	早送り[*1]	早送り	早送り	早送り	早送り	早送り	–
❚❚	一時停止[*1]	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	一時停止	–
|◁◁	スキップ (–)[*1]	–	チャプタースキップ (–)	スキップ (–)	スキップ (–)	スキップ (–)	–
▷▷|	スキップ (＋)[*1]	–	チャプタースキップ (＋)	スキップ (＋)	スキップ (＋)	スキップ (＋)	–
□	停止[*1]	停止	停止	停止	停止	停止	–
❻ 1～9、0、+10	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	数字キー	登録局選択 (1 ～ 8)
❼ MENU	メニュー	–	メニュー	–	–	–	–
❽ DISPLAY	ディスプレイ表示	–	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	ディスプレイ表示	–
❾ ENT	決定	決定／ 12（数字）	タイトル／インデックス表示	チャプター／時間表示	インデックス表示	インデックス表示	–

*1 DVR に DVD レコーダーのリモコンコードが設定されているときは、入力を切り替えなくても DVD レコーダーを操作できます。
*2 機器に付属のリモコンに POWER キーがあるときのみ機能します。

リモコンで操作する機器を設定する（リモコンコード設定）

リモコンコードを設定することにより、本機のリモコンで他の機器を操作できます。リモコンコードは各入力選択キーまたは ☆ ／ ☆☆ キーに設定します。お使いの機器により、リモコンコードを設定してもリモコンで操作できない場合があります。

1 **リモコンコードを設定したい入力選択キーまたは ☆ ／☆☆ キーを押しながら、AV POWERキーを３秒以上押す。**

例：DVDプレーヤーを本機のリモコンで操作したい場合は、DVDキーを押しながらAV POWERキーを押します。

2 **数字キーを押して、お使いになる機器のリモコンコード（４桁の数字）を入力する。**

リモコンコードについては、「リモコンコード一覧」をご覧ください（☞102 ページ）。

ヒント

お使いの機器のメーカーによっては複数のリモコンコードが記載されています。正しく操作できるコードをお使いください。

ご注意

- 手順２は、手順１の操作後30秒以内に操作してください。30秒以上経過するとリモコンコード設定が自動的に中止されます。この場合は、手順１から操作し直してください。
- 付属のリモコンは、市販されているすべてのAV機器（ヤマハ製のAV機器を含む）のリモコンコードを内蔵しているわけではありませんので、お手持ちのAV機器を操作できない場合があります。いずれのリモコンコードでも操作ができない場合は、お使いの機器に付属のリモコンをお使いください。
- １つの入力選択キーに対して、リモコンコードは１つだけ設定できます。

■ 工場出荷時のリモコンコード設定

下表のように、CD、MD/CD-R、TUNER、DVD、DVR、V-AUX/DOCKの入力選択キーには工場出荷時にあらかじめヤマハのリモコンコードが設定されています。詳しくは下記の表をご覧ください。

入力選択キー	ライブラリー	メーカー名	リモコンコード
CD	CD	YAMAHA	5013
MD/CD-R	MD	YAMAHA	5001
TUNER	TUNER	YAMAHA	5007
DVD	DVD	YAMAHA	2000
DTV/CBL	–	–	–
DVR	DVR	YAMAHA	2011
V-AUX/DOCK	TUNER	YAMAHA	5011
☆	–	–	–
☆☆	–	–	–

ご注意

お使いのヤマハ製機器によっては、初期設定されているヤマハのリモコンコードでは、操作できない場合があります。この場合は、別のリモコンコードをお試しください。

リモコンコード一覧

下表は主に日本で流通しているメーカーのリモコンコードです。下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できなかったり、限られた機能しか操作できなかったりするものがあります。そのような場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。本機のリモコンに内蔵されているリモコンコードは全世界対応です。

TV

メーカー名	リモコンコード
AIWA	0028
BENQ	0051
FUJITSU	0023, 0024, 0025
FUNAI	0033, 0034, 0035, 0036, 0037
HITACHI	0006, 0014, 0015, 0016, 0042
LG	0016, 0038, 0039
MAG	0050
MITSUBISHI	0006, 0015, 0016, 0048
NEC	0026, 0053
OLEVIA	0052
PANASONIC	0006, 0007
PHILIPS	0040
PIONEER	0012, 0013
PROVIEW	0050
SAMSUNG	0029, 0030, 0031, 0032, 0044, 0045, 0046, 0047
SANYO	0020, 0021, 0022, 0049
SHARP	0009, 0010, 0011
SONY	0041
TOSHIBA	0027, 0043, 0053, 0054
VICTOR	0017, 0018, 0019
WHITE WESTINGHOUSE	0008
WINCOM	0055, 0056
YAMAHA	0000, 0001, 0002, 0003, 0005

DVD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	2000, 2001, 2003

DVD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
HITACHI	2008
PANASONIC	2015, 2016, 2017
PIONEER	2012, 2013, 2014
SHARP	2009, 2010
SONY	2005, 2006, 2007
TOSHIBA	2004

CD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	5000, 5013

CD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	5001

MD レコーダー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	5002, 5003, 5004

カセットデッキ

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	5005, 5006

LD プレーヤー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	2002

チューナー

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA	5007, 5008, 5009, 5010, 5012, 5014

その他の機器

メーカー名	リモコンコード
YAMAHA (iPod)	5011

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は、下記の点をご確認ください。対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をスタンバイにし、電源プラグを抜いて、お買上店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源を入れてもすぐに切れてしまう、またはSTANDBY/ONスイッチ（またはPOWERキー）を押しても電源が入らない	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントにしっかりと差し込んでください。	32
	スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	17
	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	–
使用中に突然電源が切れる	スリープタイマーが作動した。	電源を入れて、ソースを再生しなおしてください。	–
	機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って（約1時間程度）、電源を入れなおしてください。	–
		音量を小さくしてください。	50
音声が出ない	再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 ～ 30
	再生したい入力ソースが正しく選ばれていない。	本体のINPUT⊲／⊳キーやリモコンの入力選択キー、またはMULTI CH INキーで、再生したい入力ソースを正しく選んでください。	42
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	17
	音を出すフロントスピーカーが、正しく選ばれていない。	本体のSPEAKERS A/B/OFFスイッチで、フロントスピーカーを正しく選んでください。	42
	音量が小さい。	音量を大きくしてください。	50
	消音されている。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	50
	DTSソースを再生しているのに、セットメニュー「DECODER MODE」が「AAC」に設定されている。	「AUTO」または「DTS」に設定してください。	93
	AACソースを再生しているのに、セットメニュー「DECODER MODE」が「DTS」に設定されている。	「AUTO」または「AAC」に設定してください。	93
	CD-ROMなど、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。	–
映像が出ない	本機とテレビが映像接続されていない。	本機のMONITOR OUT端子とテレビの映像入力端子を接続してください。	22
	本機と接続している外部機器が同じ種類の映像端子で接続されていない。	同じ種類の映像端子で接続してください。	20
	テレビの入力が本機の映像に切り替えられていない。	入力を切り替えてください。	–
音声が突然出なくなる	消音された。	リモコンのMUTEキーを押して（または本体のVOLUMEコントロールを回して）消音を解除し、音量を調節してください。	50

症状	原因	対策	参照ページ
片側のチャンネルの音声がほとんど出ない	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	17 ～ 30
	スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	音量のバランスを設定し直してください。	65、87
センタースピーカーからしか音声が出ない	シネマ DSP プログラムでモノラル音声を再生すると、音声信号はすべてセンタースピーカーへ送られるため、フロントスピーカーやサラウンドスピーカーから音はでません。	ほかの音場プログラムをお試しください。	52 ～ 54
エフェクトスピーカー（センター、サラウンド左／右）から音声が出ない	音場効果をかけずに再生している。	STRAIGHT ／ EFFECT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	63
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	52 ～ 54
	フロント B スピーカーを使用している場合に、セットメニュー「SPEAKER SET」の「FRONT B」を「ZONE B」に設定している。	「FRONT」に設定してください。	85
センタースピーカーから音声が出ない	センタースピーカーの音量が小さい。	センタースピーカーの音量を調節してください。	65、87
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CENTER SP」を「NONE」に設定している。	お使いのセンタースピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	85
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	52 ～ 54
サラウンド左／右スピーカーから音声が出ない	サラウンド左／右スピーカーの音量が小さい。	サラウンド左／右スピーカーの音量を調節してください。	65、87
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「SUR. L/R SP」を「NONE」に設定している。	お使いのサラウンド左／右スピーカーに合わせて、「LRG」または「SML」に設定してください。	86
	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	STRAIGHT ／ EFFECT キーを押して、音場効果をかけて再生してください。	63
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがあります。	ほかの音場プログラムをお試しください。	52 ～ 54
サブウーファーから音声が出ない	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「FRNT」に設定したまま、ドルビーデジタル、DTS および AAC 信号を再生している。	「SWFR」または「BOTH」に設定してください。	86
	セットメニュー「SPEAKER SET」の「LFE/BASS OUT」を「SWFR」または「FRNT」に設定したまま、2 チャンネル信号を再生している。	「BOTH」に設定してください。	86
	再生しているソースに LFE や低音信号が含まれていない。		–
ドルビーデジタルまたは DTS ソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたは DTS インジケーターが点灯しない）	接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」および「ドルビーデジタルまたは DTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	–
	入力モードを「ANALOG」に設定している。	「AUTO」に設定してください。	64

症状	原因	対策	参照ページ
低音の再生不良	セットメニュー「SPEAKER SET」の「CROSSOVER」が正しく設定されていない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、正しく設定してください。	87
	セットメニュー「SPEAKER SET」の設定が実際のスピーカーシステムの構成と一致していない。	お使いのスピーカーシステムに合わせて、各スピーカーを正しく設定してください。	85
ハム音が出る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題が無いときはケーブルに不具合がある場合があります。	21 ～ 30
音量を上げることができない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	–
	セットメニュー「MAX VOL.」で小さい音量が設定されている	大きい音量を設定してください。	90
有線放送などでエフェクトチャンネル（センター、サラウンド左／右）の音がノイズになる。	あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないで再生してください。	–
サラウンドと音場効果をかけた音を録音できない	サラウンドと音場効果をかけた音は録音できません。		–
本機のデジタル出力端子に接続した録音機器で録音ができない	再生機器が本機のデジタル入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のデジタル入力端子に接続してください。	21 ～ 30
	録音機器によっては、ドルビーデジタル、DTS および AAC などのデジタルデータを録音できません。		–
本機のアナログ音声出力端子に接続した録音機器で録音できない	再生機器が本機のアナログ入力端子に接続されていない。	再生機器を本機のアナログ入力端子に接続してください。	21 ～ 30
音場パラメーターやセットメニュー、SCENE テンプレートの設定を変更できない	セットメニュー「MEMORY GUARD」を「ON」に設定している。	「OFF」に設定してください。	95
本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう 1 度差し込んでください。	–
フロントパネルディスプレイに「CHECK SP WIRES」と表示される	スピーカーケーブルがショートを起こしている。	すべてのスピーカーコードが正しく接続されているか確認してください。	17
本機に接続している機器にヘッドホンを接続して聴くと、音が歪む	本機の電源がスタンバイになっている。	本機の電源をオンにしてください。	32
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	–
映像が乱れる	再生している映像ソフトにコピー防止機能がついている。		–

FM ／ AM放送の受信

症状		原因	対策	参照ページ
FM	ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	31
			屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	45
	FM専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	31
	オート選局ができない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてみてください。	–
			マニュアル選局をしてください。	45
AM	オート選局ができない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AMループアンテナの方向を変えてください。	31
			マニュアル選局をしてください。	45
	オートプリセットができない	AM放送局はオートプリセットができません。	マニュアルプリセットをしてください。	71
	「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	–
	「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	–

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機がリモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光窓から6m以内、30°以内の範囲で操作してください。	15
	操作のはじめにAMPキーが押されていない。	AMPキーを押してください。	11
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	–
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	15
外部機器がリモコンで操作できない	操作する機器の入力選択キーが押されていない。	入力選択キーを押してください。	50
	リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定し直すか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	101
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	リモコンコードを設定しても操作できない機器は、その機器に付属のリモコンをお使いください。	–

用語／技術解説

音声フォーマット編

■ ドルビーサラウンド

ドルビーサラウンドは、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント左／右チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）の、アナログ４チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動的に調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理を行います。

■ ドルビーデジタル

ドルビーデジタルは、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント３チャンネル（フロント左／右、センター）と、サラウンド２チャンネル（サラウンド左／右）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されます。
サラウンド２チャンネルがステレオで収録されているため、ドルビーサラウンドと比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の５チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から5.1チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

■ ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックを改良した方式で、ドルビーサラウンド方式のソフトに多く採用されています。２チャンネルで記録された音声を信号処理し、優れた分離感を保ったまま5.1チャンネル音声に変換します。映画用のMovieモードと、音楽などのステレオソース用のMusicモード、ゲーム用のGameモードが用意されています。従来の２チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

■ AAC
（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2オーディオ規格の１つで、BS／地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で７チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機はAACデコーダーを搭載しているので、BS／地上波デジタルチューナーで受信した番組の5.1チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

■ DTSデジタルサラウンド

DTSデジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる5.1チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用しているDTSシステムです。
極めて劣化が少なく、クリアな音質の６チャンネル（フロント左／右、センター、サラウンド左／右チャンネル、サブウーファー用LFE0.1チャンネルを加えた5.1チャンネル）で構成されています。

音場プログラム編

■ コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3やAACなど、ポータブルオーディオプレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

■ サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

■ シネマDSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

ドルビーサラウンドやDTSのシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。
ヤマハシネマDSPは、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

■ バーチャルシネマDSP

サラウンド左／右スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド左／右スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。
センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント左／右スピーカーだけで、バーチャルシネマDSPをお楽しみいただけます。

音声編

■ サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）を行う回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

■ 量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。
音量の差を表わすダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できることになります。

■ LFE（低域効果音）0.1チャンネル

音声成分の帯域が20～120Hzの、低音域専用チャンネルです。
ドルビーデジタルとDTS、AACで、全帯域用の5チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているので、0.1と表現されます。

■ PCM（リニアPCM）

MP3形式やATRAC形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。
「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽CDや、DVDオーディオの録音方法などで採用されています。PCM方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

映像編

■ コンポジットビデオ信号

輝度を表すY信号と、色を表すC信号を1つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビのNTSC信号などが採用しています。

■ コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すPB／CB信号（青色差信号）およびPR／CR信号（赤色差信号）の3系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表わす信号から輝度を表わす信号を引いているので、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、D端子のあるモニター（テレビ）を本機に接続してください。

■ D端子

最新のAV機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース／プログレッシブの情報）を、1本の専用ケーブルで接続できます。
その性能に応じてランクがD 1からD 5に分けられています。本機にはD4ビデオ端子が装備されており、D1からD4の規格に対応しています。

■ Sビデオ信号

映像信号を、輝度を表すY信号と、色を表すC信号に分けて伝送する方式です。S ビデオ端子で接続すると、より美しい映像で録画／再生をお楽しみいただけます。

主な仕様

オーディオ部

定格出力（6Ω、1kHz、0.9% THD）
　フロント左／右 ....100W ＋ 100W
　センター 100W
　サラウンド左／右.....................100W ＋ 100W
実用最大出力（JEITA、6Ω、1kHz、10% THD）
　フロント左／右 ....135W ＋ 135W
　センター 135W
　サラウンド左／右.....................135W ＋ 135W
ダイナミックパワー（IHF）
　6 ／ 4 ／ 2Ω ....105 ／ 130 ／ 150W
入力感度／入力インピーダンス
（1kHz、100W ／ 8Ω 換算）
　CD 他......................................200mV ／ 47kΩ
　MULTI CH INPUT ....200mV ／ 47kΩ
最大許容入力（1kHz、0.5% THD）
　CD 他（EFFECT ON）....................... 2.0V 以上
出力電圧／出力インピーダンス
　REC OUT.............................200mV ／ 1.2kΩ
　SUBWOOFER（2ch Stereo、FRONT SP : SMALL）... 4V ／ 1.2kΩ
ヘッドホン出力／出力インピーダンス
　CD 他（1kHz、200mV 入力、8Ω）
　... 0.4V ／ 470Ω
周波数特性
　CD 他（フロント左／右、10Hz ～ 100kHz）
　..0 ／－ 3dB
全高調波歪率（DIRECT STEREO）
　CD 他（フロント SP OUT、1kHz、50W ／ 6Ω）... 0.06% 以下
S ／ N 比（IHF-A ネットワーク、入力ショート）
　200mV 入力、SP OUT ....98dB 以上
　250mV 入力、SP OUT ....100dB 以上
残留ノイズ（IHF-A ネットワーク）
　フロント左／右、SP OUT .... 150μV 以下
チャンネルセパレーション
（5.1kΩ 入力ショート、1kHz ／ 10kHz）
　CD 他...........................60dB 以上／ 45dB 以上
トーンコントロール特性
　BASS （boost/cut）......... ± 10dB ／ 100Hz
　TREBLE（boost/cut）.......± 10dB ／ 20kHz

ビデオ部

ビデオ信号方式 (グレーバック) ....NTSC
コンポジットビデオ信号レベル ..... 1Vp-p ／ 75Ω
S ビデオ信号レベル
　Y.. 1Vp-p ／ 75Ω
　C... 0.286Vp-p ／ 75Ω
D4 ビデオ信号レベル
　Y.. 1Vp-p ／ 75Ω
　Cb、Cr..................................... 0.7Vp-p ／ 75Ω
ビデオ最大許容入力 .... 1.5Vp-p 以上
S ／ N 比 ....50dB 以上
モニターアウト周波数帯域
　D4 ビデオ信号...........5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

FM チューナー部

受信周波数範囲 ....76.0MHz ～ 90.0MHz
50dB SN 感度（IHF、1kHz、100% MOD.）
　モノ.......................................2.8μV（20.2dBf）
S ／ N 比（IHF）
　モノ／ステレオ ....73dB ／ 70dB
歪率（1kHz）
　モノ／ステレオ ....0.5%／ 0.5%

AM チューナー部

受信周波数.......................... 531kHz ～ 1611kHz

総合

電源電圧...........................AC100V、50 ／ 60Hz
消費電力... 180W
待機時消費電力 ....0.8W 以下
AC アウトレット（電源スイッチ連動× 2）
....合計 100W
寸法（幅×高さ×奥行き）
....435 × 151 × 318mm
質量 8.1kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

音楽を楽しむエチケット
楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

A-Z

数字

ヤマハホットラインサービスネットワーク

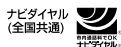
ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ AVお客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-1808

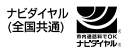
全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-3409

FAX（053）460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00〜12:00、13:00〜18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-01-2808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL（053）460-4830

FAX（053）463-1127

受 付 日：月〜土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月〜金曜日 9:00〜19:00　土曜日 9:00〜17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月〜金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00〜17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● **保証期間**
お買い上げ日から1年間です。

● **保証期間中の修理**
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間が過ぎているとき**
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● **修理料金の仕組み**

技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● **補修用性能部品の最低保有期間**
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● **製品の状態は詳しく**
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● **スピーカーの修理**
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● **摩耗部品の交換について**
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？

- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中区中沢町10-1

YAMAHA

DSP-AX461

簡易接続ガイド

スピーカーや外部機器を接続し、<SCENE（シーン）機能>を使って簡単にDVDの再生を楽しむまでの流れを説明します。

1 スピーカーを設置・接続する

2 DVDプレーヤーやテレビなどの外部機器を接続する

3 SCENE（シーン）キーを押す <SCENE（シーン）機能>

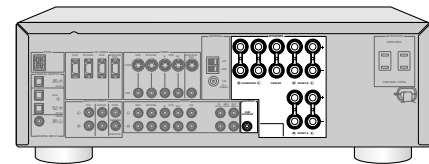
再生スタート！

接続に必要なものを確認しましょう

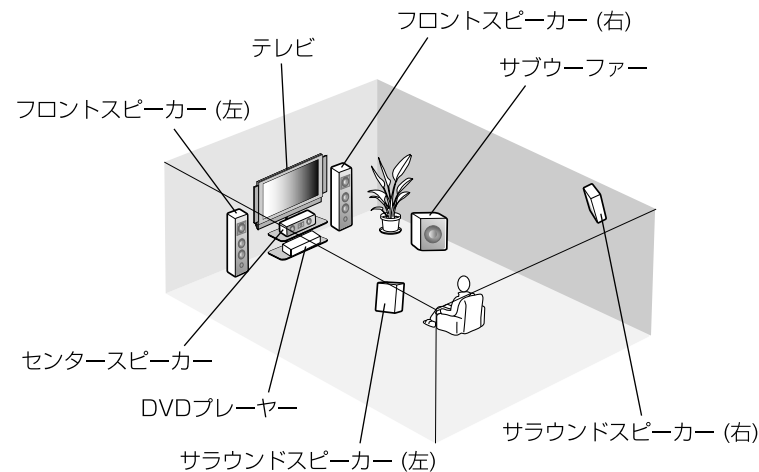
本製品に付属しているもの
- □ FM簡易アンテナ
- □ AMループアンテナ

本製品に付属していないもの
- □ スピーカー
  - □ フロントスピーカー（2台）
  - □ センタースピーカー（1台）
  - □ サラウンドスピーカー（2台）
- □ サブウーファー（1台）
- □ スピーカーケーブル（5本）
- □ サブウーファー用ピンケーブル（1本）
- □ DVDプレーヤー（1台）
- □ テレビ（1台）
- □ ビデオ用ピンケーブル（2本）
- □ 光ファイバーケーブル（1本）

1 スピーカーを設置・接続する

フロント左／右スピーカー、センタースピーカー、サラウンド左／右スピーカー、サブウーファーを接続して、5.1チャンネルのホームシアター環境を構築します。

本機やサブウーファーの電源コードがACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

手順1 スピーカーを設置する

下図を参考に各スピーカーを配置します。

ご注意
サラウンドスピーカーはブラケットなどを使って壁や天井に固定してください。

手順2 スピーカーを接続する

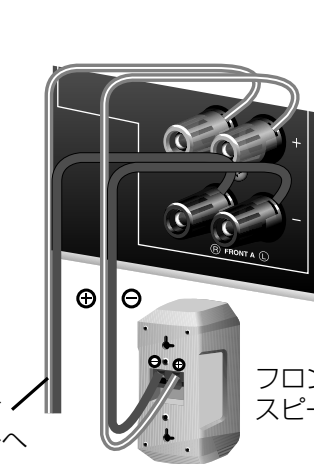
スピーカーケーブルを使って、スピーカーを本機のSPEAKERS端子に接続します。

1. スピーカーケーブルをスピーカーに接続する。
2. フロント左／右スピーカーをFRONT A端子に接続する。
3. センタースピーカーをCENTER端子に、サラウンド左／右スピーカーをSURROUND端子に接続する。

1

プラス（＋）とマイナス（−）をよく確認する

端子の根元にしっかりと差し込む

2

1.ゆるめる
2.差し込む
3.締め付ける

フロント右スピーカーへ
フロント左スピーカー

3

ご注意
スピーカーケーブルは絶縁部を挟まないように接続してください。

手順3 サブウーファーを接続する

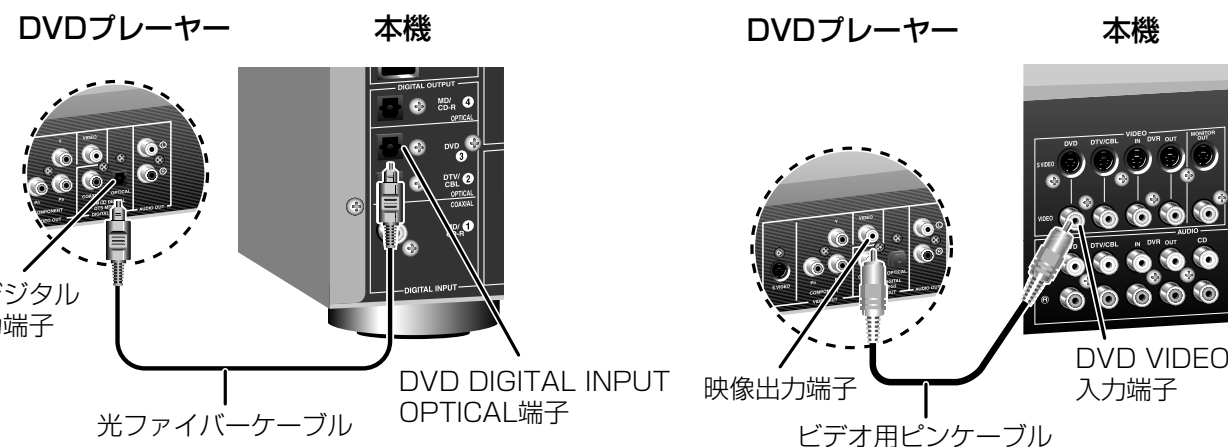
サブウーファー用ピンケーブルを使って、サブウーファーの入力端子と本機のSUBWOOFER OUTPUT端子を接続します。

2 DVDプレーヤーやテレビなどの外部機器を接続する

DVDプレーヤーやテレビ、FM／AMアンテナなど、<SCENE機能>で使う外部機器を接続します。

本機や外部機器の電源コードがACコンセントに接続されていないことをご確認ください。

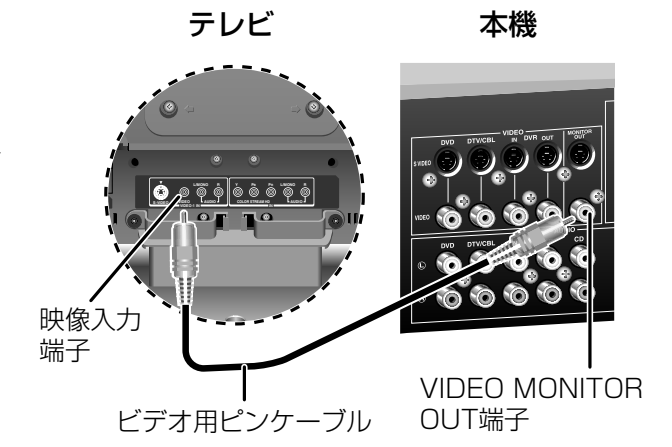
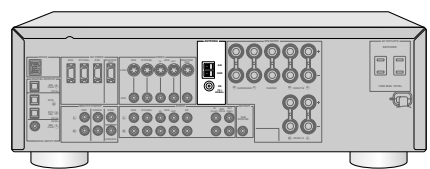
手順1 DVDプレーヤーを接続する

光ファイバーケーブルを使って、DVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDVD DIGITAL INPUT OPTICAL端子を接続します。また、ビデオ用ピンケーブルを使って、DVDプレーヤーの映像出力端子と本機のDVD VIDEO入力端子を接続します。

ご注意
光ファイバーケーブルの両端に保護用キャップが付いている場合は、取り外してから接続してください。

手順2 テレビを接続する

ビデオ用ピンケーブルを使って、テレビの映像入力端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を接続します。

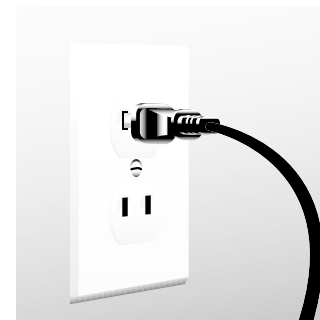
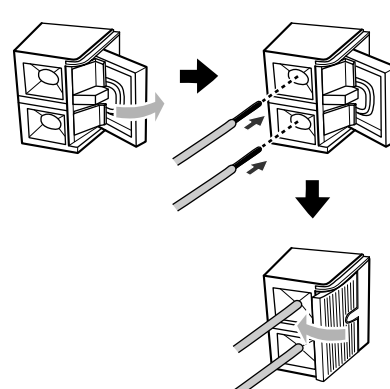
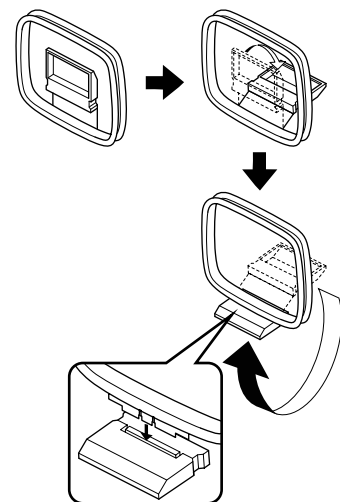
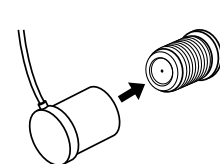
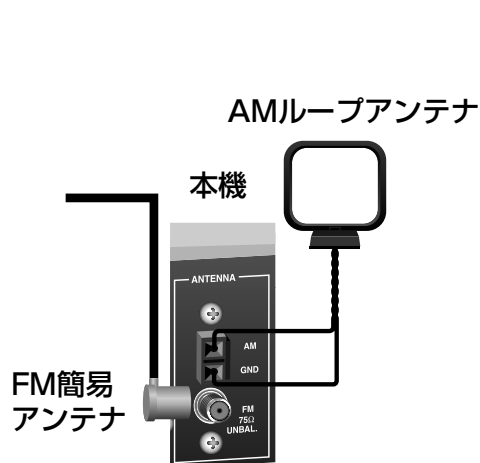
裏面につづく

PRINTED WITH SOY INK Printed in China WJ63980-1

手順3 FM／AMアンテナを接続する

FM簡易アンテナとAMループアンテナを本機のANTENNA端子に接続します。
AMループアンテナのケーブルに極性（＋／－）はありません。

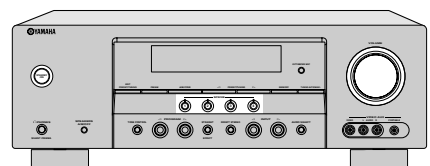
FM簡易アンテナの接続

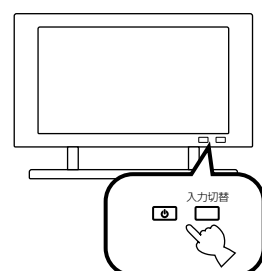
AMループアンテナの組み立て

AM／GND端子の接続

手順4 電源コードを接続する

本機と外部機器の電源プラグをACコンセントに接続します。

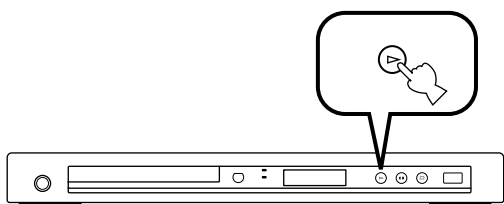
3 SCENE キーを押す＜SCENE機能＞

＜SCENE機能＞を使って、簡単に入力ソースの再生が楽しめます。ここでは、DVDプレーヤーでDVDを見る場合を例に説明します。

手順1 電源をオンにする

STANDBY/ONキーを押して、本機の電源をオンにします。また、テレビの電源をオンにし、入力を本機の映像に切り替えます。

手順2 SCENE 1 キーを押す

SCENE1～4キーには、それぞれ異なったSCENEが設定されています。DVDを視聴するには、SCENE1キーを押します。SCENEが選択されると、SCENEキー上部のインジケーターが点灯し、フロントパネルディスプレイに「DVD Movie Viewing」と表示されます。

手順3 DVDを再生する

DVDプレーヤーの操作については、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書をご参照ください。

手順4 音量を調節する

お好みの音量になるようにVOLUMEコントロールを回して音量を調節します。右に回すと音量は大きくなり、左に回すと小さくなります。

ヒント

- SCENE機能を使って再生を楽しんでいるときに入力ソースを変更したり、音場プログラムを変更したりすると、SCENE機能はキャンセルされ、SCENEキー上部のインジケーターが消灯します。
- SCENE1～4キーで呼び出すSCENEを変更したい場合は、「SCENEテンプレートを入れ替える」(76ページ)をご覧ください。
- 新しいSCENEテンプレートを作成したい場合は、「新しいSCENEテンプレートを作成する」(77ページ)をご覧ください。
- SCENE機能を使って楽しむ外部機器を本機のリモコンで操作したい場合は、「リモコンを使いこなす」(97ページ～)をご覧ください。

こんなことをしたいときは・・

■ 接続

■ 再生

■ サウンド

■ 設定